チキナK97
No 956

大審院刑事判決錄

司法省藏版

明治十五年十一月印行

明治二十

正	誤
一五行目	四行目
五八行目	三行目
六七行目	七行目
八一行目	七行目
一二	一行目
一四五	十五行目
一五六	二行目
一六二	九行目
一七一	六行目
一八七	六行目
一九六	十二行目
二一〇	十一行目
二一九	十五行目
二三九	八行目
二九四	三行目
二九八	十三行目

車主ハ事主ハ必定ハ必定ハ自成ハ自分ハチ左ハチ右ハテ左ハトスハノトステハチスルモノミハスルノミ

除ハ餘ハトモ

設ハ設ノ

チハ書ノ

事ハ

繼ハ緩ハモ

ヘハ

レサハ頗倒

CZ 2711 7

三二九　十一行目　アノ下ルヲ脱ス
三五二　二行目　最ハ書
三五二　六行目　經ハ衛
三六六　十八行目　十二ハ十月二
三八四　十二行目　ヘハヨ
四二三　十三行目　差ヲハ顚倒
四二七　十七行目　男ハ明
四二九　十行目　ナハ衍
四三二　七行目　左ノ下ノ如ヲ脱ス

目錄

第六百十七號　出板條例犯則ノ件　一丁
第六百十八號　出板條例犯則ノ件　二丁
第六百十九號　竊盜三犯ノ件　一丁
第六百二十號　詐欺取財ノ件　一丁
第六百二十一號　證券印紙犯則ノ件　一丁
第六百二十二號　枉法ノ件　一丁
第六百二十三號　空品賣買ノ件　三丁
第六百二十四號　實子ノ盜罪ヲ私和セシ件　三丁
第六百二十五號　竊盜ノ件　三丁
第六百二十六號　不應爲ノ件　四丁
第六百二十七號　詐欺取財ノ件　四丁
第六百二十八號　不應爲ノ件　四丁
第六百二十九號　竊盜三犯ノ件　五丁
第六百三十號　證券印稅犯則ノ件　五丁
第六百三十一號　山林盜伐ノ件　六丁
第六百三十二號　得遺失物ノ件　七丁

第六百三十三號　漂流船ヲ拾ヒシ件　七丁
第六百三十四號　犯姦ノ件　七丁
第六百三十五號　違令ノ件　八丁
第六百三十六號　竊盜三犯ノ件　八丁
第六百三十七號　得遺失物ノ件　九丁
第六百三十八號　官林盜伐ノ件　九丁
第六百三十九號　養母毒殺ノ訴ヲ受ケシ件　九丁
第六百四十號　鬪毆ノ件　一〇
第六百四十一號　虎列刺病假規則違犯ノ件　一一
第六百四十二號　賭博ノ件　一二
第六百四十三號　證券印税犯則ノ件　一四
第六百四十四號　證券印税犯則ノ件　一五
第六百四十五號　竊盜ノ件　一五
第六百四十六號　竊盜ノ件　一五
第六百四十七號　雇人盜ノ件　一六
第六百四十八號　不應爲ノ件　一六
第六百四十九號　鬪毆ノ件　一七
第六百五十號　酒類犯則ノ件　一八

第六百五十一號　賭博罪ヲ無罪トセシ件　一九丁
第六百五十二號　死屍ヲ投棄セシ件　一九丁
第六百五十三號　詐欺取財ノ件　一九丁
第六百五十四號　詐欺未得財ノ件　二一丁
第六百五十五號　賭博ノ件　二二丁
第六百五十六號　不應爲ノ件　二三丁
第六百五十七號　監守盜ノ件　二四丁
第六百五十八號　竊盜ノ件　二四丁
第六百五十九號　竊盜ノ件　二四丁
第六百六十號　不應爲ノ件　二五丁
第六百六十一號　不應爲ノ件　二五丁
第六百六十二號　預金取戻ノ件　二七丁
第六百六十三號　竊盜ノ件　二七丁
第六百六十四號　放火ノ件　二八丁
第六百六十五號　持兇器强盜ノ件　二九丁
第六百六十六號　持兇器强盜ノ件　三〇丁
第六百六十七號　持兇器强盜ノ件　三一丁
第六百六十八號　詐欺取財ノ件　三二丁

第六百六十九號　強盜ノ件　三三〇丁
第六百七十號　持兇器強盜ノ件　三三六丁
第六百七十一號　不應爲ノ件　三四二丁
第六百七十二號　違式ノ件　三四八丁
第六百七十三號　竊盜三犯ノ件　三五八丁
第六百七十四號　詐欺取財ヲ無罪トセシ件　三六三丁
第六百七十五號　放火ノ件　三六六丁
第六百七十六號　官林盜伐ノ件　三八二丁
第六百七十七號　官吏私罪ノ件　三九八丁
第六百七十八號　鬪毆ノ件　四〇二丁
第六百七十九號　府ノ布達ニ違犯セシ件　四〇五丁
第六百八十號　府ノ布達ニ違犯セシ件　四一一丁
第六百八十一號　府ノ布達ニ違犯セシ件　四一五丁
第六百八十二號　府ノ布達ニ違犯セシ件　四一八丁
第六百八十三號　告上不實ヲ無罪トセシ件　四二二丁
第六百八十四號　空米相場執行ノ件　四二五丁
第六百八十五號　鬪毆ノ件　四三一丁

大審院刑事判決錄　明治十三年第十月

第六百十七號

判文（明治十三年六月八日上告第六百十七號ノ件）明治十三年十月一日判決

東京京橋區新肴町十二番地
寄留德島縣士族
漆間眞學　明治十三年二十一年

右眞學カ明治十三年五月廿九日東京裁判所ニ於テ審問ヲ受ケ爲シタル口供左ノ如シ

一自分儀編輯ノ北辰雜誌第二號及ヒ第三號エ三條相國ニ上リ集會條例ヲ論スル書及ヒ內務卿ノ果シテ政府ノ政策カト題シタル二篇ヲ掲載候處右ハ新聞條例抵觸ノ趣ヲ政府ヲ顚覆セントスル旨趣ノ一篇ヲ掲載スル右科ノ內出板條例罰則第五條及新聞

右ノ口供ニ依リ明治十三年五月三十一日東京裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀北辰雜誌第二號及ヒ第三號エ三條相國ニ上リ集會條例ヲ論スルノ書及ヒ內強外弱ト題シ政府ヲ顚覆セントスル旨趣ノ一篇ヲ掲載スル右科ノ內出板條例罰則第五條及新聞條例第十三條ニ依リ禁獄一年ト一ケ月申付ル

漆間眞學ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年六月八日大審院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

第一條

三條相國ニ上リ集會條例ヲ論スルノ書タルヤ其精神ハ人民國ヲ愛スルノ衷情ニ外ナラス

又其体裁ハ本ト是レ忠告ヲ主トスル者ニシテ決シテ彼ノ非禮不敬ナル强迫嗷訴ノ比ニアラス而シテ其一篇ノ大主意ハ即チ集會條例ノ如キ時勢民情ニ適セサル法律ヲ發行スルハ固ヨリ人民ニ便ナラスシテ亦政府ヲ利セス到底國家ノ爲メニ不利益ナル法律ナレハ早ク之ヲ廢止スルニ若クハナシト讜々正言シタルニ過キス尤モ書中一二ノ忌諱ニ觸ルヽノ文字ナキニアラスト雖モ是レ本慷慨歎息ノ餘リ明カニ赤心ヲ吐露シテ敢テ隱サヽルノ致ス所タリ豈敢テ成法ヲ誹毀シテ國民法ニ遵フノ義務ヲ亂ルノ意ナランヤ且ツ夫レ君主國ノ人民カ書ヲ宰相ニ奉ツテ國事ヲ痛論スルハ是レ天下ノ通義古今ノ習慣ニシテ寔ニ忠ヲ王家ニ盡シ臣民ノ義務ヲ怠ラサル所以ナリ今三條相國ニ上リタル書ノ如キモ此大義ニ由ルニ外ナラス情ヲ以テ之ヲ論セハ假リニ其書ヲシテ成法ヲ誹毀スルモノナラシムルモ賢明ノ判官ハ是愛國盡忠ノ已ムヲ得サルニ出タル者ナリトシ情狀ヲ酌量シテ其罪ヲ減ス否敢テ其罪ヲ問ハサルヘシ況ンヤ成法ヲ誹毀セサルモノニ於テナヤ然ルニ東京裁判所ハ之ヲ直チニ出板條例罰則及ヒ新聞條例ニ抵觸シタル者トナシ乃チ之ニ刑ヲ加ルヤ彼ノ如ク其レ重シ是レ豈ニ理ニ逆ヒ情ニ悖ル壓制殘酷ノ處斷ニアラスヤ

第二條

內强外弱ト題スル論說モ亦其精神ハ人民國ヲ愛スルノ衷情ニ外ナラス又其体裁ハ原因ヲ推シテ結果ヲ預判スルノ正格ナル理論ニシテ決シテ根據ナキ粗暴ノ評論ニアラス而シテ其一篇ノ大主意ハ即チ我政府ハ外國ニ對シテハ其勢力弱ク內國人ニ對シテハ其勢力强シ是レ已ムヲ得サルノ事情アリテ然ルモノナリト雖モ到底國家ノ爲メニ利ナラサルナリ今

ニシテ早ク之カ强弱ヲ平均セサレハ終ニ不測ノ大害ヲ生スルニ至ルヘシト侃々痛論シタルニ過キス尤モ論中往々過激人ヲ驚カスノ言ナキニアラスト雖モ是レ本ト論理文勢ノ然ラシムルモノニシテ又知ラス識ラス慷慨愛國ノ精神ノ致ス所タリ豈ニ敢テ人ヲ教唆シテ罪ヲ犯サシムルノ意ナランヤ然ルニ東京裁判所ハ直ニ之ヲ以テ出板條例罰則及新聞條例ニ抵觸スル者トナス是レ東京裁判所カ他人ノ理論ヲ意解スルノ明識ナキニ由ルカ何ソ不理不正ノ處斷ヲナスノ甚シキヤ且其此論說ヲ視テ是レ政府ヲ顚覆スルノ旨趣ヲ含ミタルモノト爲シタルカ如キハ實ニ咄々怪事ニシテ暴處斷モ亦甚タシト云フヘシ抑モ政府ナル者ハ果シテ何モノソヤ我々人民ノ安寧幸福ヲ保護スル處タリ我々人民ノ權利自由ヲ守衛スル處タリ故ニ人民ニシテ政府ヲ顚覆スルハ是レ即チ自己ヲ害スルニ外ナラス苟モ智識ヲ具有スル者豈ニ此ノ如キ愚論ヲナサンヤ況ンヤ正論ヲ以テ人ヲ眞理ニ導ク學士論客ニ於テヨヤ請フ看ヨ內强外弱ノ一篇ハ太タ長文大作ニシテ其字數モ殆ト五千ニ下ラスト雖モ冒頭ヨリ結尾ニ至ルマテ政府ヲ顚覆スルトノ文字ハ勿論又一言半句ノ斯ノ如キ意味ヲ含ミタルモノナキヲ其決シテ政府ヲ顚覆スルカ如キ旨趣ヲ含マサルヤ彰々乎トシテ明カナリ夫レ妄想臆測ハ法理ノ堅ク禁スル所ニシテ殊ニ我國ハ現ニ斷罪依證ヲ以テ執法ノ根據トナスニアラスヤ然ルニ明文ナキ意味ヲ忘想シ意味ナキニ罪ヲ臆測シ乃チ之ニ刑ヲ加フルヤ彼レノ如ク其レ重シ之ヲ奈何ソ暴處斷モ亦甚タシキ者ト云ハサルヘケンヤ若シ又論中往々過激ノ言語アルヲ以テ鹵莽ニ想像シテ是レ政府ヲ顚覆スルノ旨趣ヲ含ミタル者トナス乎何ソ其レ妄想臆測ヲ以テ正士ヲ罪ニ陷シイルヽノ殘酷ナルヤ是レ恰モ彼ノ愚暴

法吏カ短刀ヲ懷ロニシタル者ヲ見テ是レ人ヲ殺シタル罪人ナリト妄想シ之ヲ斬罪ニ處シ腕力强フシテ氣象活潑ナル者ヲ見テ是レ人ヲ毆傷シタル罪人ト臆測シ之ヲ懲役ニ處シタルト一般ニシテ其斷罪依證ノ本意ニ背キ判官自ラ法律ヲ濫用シタルヤ智者ヲ待タスシテ知ルヘキナリ

辨明

第一條〔上告狀第一條〕

三條相國ニ上リ集會條例ヲ論スルノ書ト題セシ一篇ノ論文ニ關シ眞學ニ於テハ本題立論ノ精神ハ人民國ヲ愛スルノ衷情ニ出テ其體裁ハ忠告ヲ主トスルナリ而シテ其本旨ノ歸着スル所ハ集會條例ハ時勢民情ニ適セサノル法律ナルヲ以テ人民政府ニ不利益ナレハ之ヲ廢止スルニ若カスト云フニアリテ固ヨリ成法ヲ誹毀シテ國民法ニ遵フノ義務ヲ亂ルノ立意ナラサル旨ヲ陳辨セリト雖モ今本題ノ要點ヲ單約シ去レハ該文一篇ノ本旨ハ集會條例ハ輿論ニ逆向シタル大不祥的ノ成文法律ニシテ實ニ壓制拘束ノ高點ニ達シタルモノナリ是ヲ以テ輿論ニ適合スルヲ要セントセハ該條例ヲ全廢スルニ在リト云フニ歸着セサルヲ得サルナリ然リ而シテ果シテ眞學ノ陳述セシ如ク該文組織ノ精神ハ愛國ノ衷情ニ素因セシモノトシ假令三條相國ニ之ヲ捧呈スルモ之ヲ本誌中ニ直載スルヿヲ得ス何トナレハ上ハ政府ニ對シ集會條例ヲ誹毀シ下ハ國民法ニ遵フノ義務ヲシテ攪亂スルノ目的ニ出テタルモノト證認セサル可カラサレハナリ又眞學ハ君主國ノ人民カ書ヲ宰相ニ奉ツテ政治上ニ意見ヲ陳述スルハ臣民ノ義務ヲ怠ラサル所以ナリ今三條相國ニ上ル云々ノ文章モ又此主義ニ元因スレハ必竟ソルニ此愛國盡忠ノ己ムヲ得サルニ出テタリ因テ裁判官ニ於テ其情ヲ酌量シテ本罪ヲ輕減スルカ又ハ其罪ヲ問ハサルヘシト陳辨シタリ抑モ罪狀ヲ輕減スル事ハ裁判官ノ特權ニ專任シタルモノナレハ其處刑上ニ對シ犯罪人ヨリ酌量輕減ナキヲ以テ不服ヲ唱ヘ原裁判ノ破毀ヲ要求スルヲ得サルナリ又犯罪ヲ不問ニ措カン事ヲ欲望スルトノ申供ヲ審理スルニ其犯罪ナシテ不問ニ措クノ塲合ハ法ニ據テ判決スルヲイフ今マ眞學ノ所犯ノ如キトハ其塲合ヲ殊ニスルヲ以テ該申供ニ對シテハ之カ辨明ヲ與ヘス

第二條〔上告狀第二條〕

北辰雜誌第二第三ノ兩號ニ聯續シテ編述シタル內强外弱ハ果シテ我日本政府ノ政策カトノ文中ニ間々二字四字ノ代用ニ圈點ヲ數多施シタル中一二ヲ揭テ之ヲ解セン抑二圈點ノアル處ハ此レ政府ノ二字ヲ直刺シタル者ト確斷セサル可カラサルナリ其理由タル本題上明ラカニ我日本政府云々ト登記シタルニ比照スレハ日本〇〇トハ其日本政府ナルヤ疑ヒヲ容レス又本文第三號中兩箇所ニ施シタル四字ノ圈點ハ政府顚覆ノ四字ヲ目的トシタルモノト謂ハスンハアル可カラサルナリ如何トナレハ歐洲歷制諸國ノ般鑑云々ト記載シタルモノハ全ク外國ノ歷史上人民カ專制政府ヲ顚覆シタルノ事迹ヲ引證シ以テ讀者ヲシテ一誦ノ下政府顚覆ノ文字ナルヿヲ覺知セシムルニ在リトス又自由ノ旗皷ヲ樹テ以テ〇〇ヲ〇〇シ云々ノ如キモ論者ノ素意ハ政府顚覆ノ文字ニ代用シタルヿ前後ノ語脈文勢上然ラサルヲ得サルナリ然ルニ眞學ニ於テハ冒頭ヨリ結尾ニ至ルマテ政府ヲ顚覆スルトノ文字ナキハ勿論其旨趣タモ含マサル旨陳述スルト雖モ果シテ眞學カ立論ノ實意ヲシテ始メ

ヨリ然ラシムルモノトセハ眞學ハ今回ノ上告狀中該圈點ニ塡充スヘキ文字ヲ記載シテ其寃枉タル理由ヲ開陳セサルヘカラス又該圈點ノ文字ヲシテ倘シ通常ノ文字ナラシメハ故ラニ忌諱明言爲サヽルノ理由ナシ依テ眞學カ愛國ノ精神通徹スル所其文章上ニ於テ知ラス識ラス過激ニ涉リタルモノニシテ元來政府ヲ顚覆スルノ旨趣ヲ挾ミテ起草シタル文章ニアラストノ陳述ヲ採用スルニ難シトス左スレハ東京裁判所ニ於テ三條相國ニ上リ集會條例ヲ論スルノ書及ヒ內强外弱ト題シ政府ヲ顚覆セントスル旨趣ノ一篇ヲ揭載スル右科ノ內出板條例罰則第五條新聞條例第十三條ニ依リ禁獄一年一ケ月ト申渡シタルハ適當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年五月三十一日東京裁判所ニ於テ漆間眞學ニ云渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノ也

第六百十八號

○判文（出板條例犯則ノ件）明治十三年六月八日上告
明治十三年十月一日判決
東京府淺草區今戸町二十一番地
平民　鹿島利介
明治十三年
二十八年

右利介カ明治十三年五月二十九日東京裁判所ニ於テ審問ヲ受ケ爲シタル口供左ノ如シ

一自分儀漆間眞學ノ編輯スル北辰雜誌第二號及ヒ第三號ヲ出板候ニ相違無之候此段申上候以上

右ノ口供ニ依リ明治十三年五月二十九日東京裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀漆間眞學編輯ノ北辰雜誌中集會條例ヲ論題シ及ヒ內强外弱ト題シ政府ヲ顚覆セントスル旨趣ヲ揭載シタルヲ第二號及ヒ第三號ヲ出板スル科出板條例罰則第五條及ヒ新聞條例第十三條ニ依リ右眞學ノ從ヲ以テ論シ禁獄一年申付ル

鹿島利介ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年六月八日大審院ニ上告ノ要領左ノ如シ

第一　三條相國ニ上リ集會條例ヲ論スル一篇ノ行文ハ臣民忠ヲ邦家ニ盡テ至精ニ出テタルナリ故ニ賢明相國ニ於テハ其書ヲ受納シ其罪ヲ問ハサルナリ然ルヲ裁判官ニ於テハ之ニ反シ採テ以テ直接ニ成法ヲ誹毀シ邦家ヲ顚覆セントノ目的ヨリ起草セシ書ナリト推測シ今回禁獄ノ處刑ヲ宣告セラレタルハ不法ナル裁判トノ事

第二　本誌第二三號ニ聯續シテ內强外弱ハ云々ト題セシハ一篇行文ノ主旨ハ我政府ハ內强外弱ナルヲ以テ每々外國ノ侮ヲ受ケ內國ノ怨怒ヲ招カサルナシ因テ當局者ハ此ニ注意シテ法律ヲ改良シ國勢ヲ挽回セサルヘカラサル云々ニ在リ然リ而シテ必竟本題一篇ノ成立ノ本旨ハ憂國志念ノ表發スル所ナリ又該文中往々圈點ヲ挿入スルモノ此レ又政府君主ニ對シ敬禮ノ意ハ存セサルヘカラサル點ハ故ラニ之ヲ明載セサルニ其篇者ノ微意如何ニモ關セス東京裁判所ニ於テハ該文ヲ將テ政府ヲ顚覆セントスルノ旨趣ヲ揭載シタルモノ

ト速了シ處斷ヲ下シタルハ不法ナリトノ事

第三　三條相國ニ上リ云々ノ書ハ其立論ノ旨趣全ク赤心愛國ノ至情ニ出テタルモノト雖モ反對ノ眼ヲ以テ之ヲ展讀スル時ハ分明ニ成法ヲ誹譏シタル者ト認視ス可キヲ信ス然リト雖モ東京裁判所ニ於テハ本論者カ忠意ハ滅却シ獨リ政府顚覆論ト同一視シ情狀ノ酌量モナク重罪ニ擬シタルハ不當ナリトノ事

辨明

第一條

鹿島利介ニ於テハ三條相國ニ上リ集會條例ヲ論スル一篇ノ行文ハ臣民忠ヲ邦家ニ盡スノ至精ニ出テタルナリ故ニ賢明相國ニ於テハ其書ヲ受納云々陳辨スルト雖モ假令該書ハ三條相國ニ捧呈スル眞意ヨリ起草セシモノトナスモ其文中集會條例ヲ誹毀シ國民法ニ遵フノ義務ヲ亂ラントスルノ論ヲ載セ出板セシ上ハ之ヲ新聞條例ニ問ヒ罰セサル可カラサル事ナリトス

第二條

利介ニ於テハ內强外弱ハ云々ト題シタル一篇ノ行文ハ其本旨ハ憂國志念ノ表發スル云々中立ツルト雖モ該題中其ノ要點ヲ一二摘抄スルニ〔日本○○內辨慶ノ嘲ニ倣フモノナリト我邦維新以來中心○○ガ外國人民ニ對スル甚タ弱クシテ內國人民ニ對スル甚タ强キハ云々〕トアルヲ始メ文中往々二箇ノ圈點ヲ施シタルモノハ全ク政府及ヒ當局ノ字ニ換用シタルモノト謂ハサルヲ得ス又四字聯續シタル圈點ノ如キモ前後ノ文勢語脉上ヨリ審窮

スルニ政府轉覆ノ文字ニ的當セリ如之佛國末路ノ云々ハ政府轉覆ノ文字ニ換用スルニ圈點ヲ施シ以テ其蹤跡ヲ曖昧摸稜ノ間ニ抹シ去ラントノ意匠タル更ニ疑團ヲ容ルヽ所ロナシトス故ニ利介カ明細書中往々圈點ヲ挿入スルモ此レ又政府君上ニ對シ敬禮ノ意ハ存セサルヘカラサルヲ以テ忌諱明言ス可カラサル云々ノ陳述ハ信認ヲ措キ難キ者トス如何トナレハ假リニ該文中往々圈點ヲ施シタルハ必竟敬禮ノ意ヲ存セシ者トセンモ何ヲ以テ敬禮上ヨリ政府及ヒ當局等ノ文字ハ別ニ忌諱メ明言スル能ハサルノ理由アル乎或ハ東京裁判所ニ於テ政府ヲ顚覆セントスル旨趣ヲ揭載シタル云々申渡セシヲ不法ナリト信セハ何ソ該四字ノ圈點ハ政府顚覆ノ文字ニ換用シタルニハアラサル反對ノ證據ヲ將テ別ニ之ニ確當スルノ文字ヲ開示セサル乎故ニ該文中ヨリ往キニ抄摘シタル個條ヲ詳密ニ照會スレハ該文一篇ノ成立ハ全ク逆論ヲ述ヘテ政治ヲ破擊シ人民ヲ導ヒテ騷亂ヲ誘起シ以テ政府ヲ顚覆セントヲ要スルニ在ルヤ更ニ辨論ヲ待タスシテ明白ナリトス又利介ハ立論ノ精神ニ關ハラス只其言語ノ激切ナルヲ以テ眞ニ顚覆論ト見做サレタル旨辨護スルト雖モ本文ノ全面ノ玩味スレハ元來精神ノ徹底スル所ロ議論過激ニ涉リタルト又ハ立論ノ本躰タル政府顚覆論ニ在ルトノ鑒定ハ事實上ノ推測ニ據リテ分明ナリトス故ニ利介カ內强外弱ハ云々ト題シタル一篇ノ行文ニ關シ其旨ハ憂國志念ノ發表スル云々トノ陳述ハ相ヒ立サルノ陳述ナリトス

第三條

鹿島利介ハ東京裁判所ニ於テ本論者カ忠意ハ滅却シ獨リ政府顚覆論ト同一視シ情狀ノ酌

量モナク重罪ニ擬セラレタルハ不法ナル旨陳辨スルト雖ヒ犯狀ヲ酌量輕減スルハ裁判官ノ權限内ニ專任セルヲ以テ其刑罪ニ輕減ノ處分ナキニ不服ヲ唱ヘ上告スルモ本院ニ於テ之ニ對シ原裁判ヲ破毀スル事ヲ得ス右第一條第二條ニ辨明スル如ク利介カ北辰雜誌中ニ集會條例ヲ論スル文幷内强外弱云々ノ一篇ヲ出板セシハ新聞條例ヲ犯セシ者ナレハ編輯人漆間眞學ノ從ヲ以テ論スヘキヿナリトス依テ東京裁判所ニ於テ出板條例罰則第五條及ヒ新聞條例第十三條ニ依リ云々申渡シタルハ適當シタル裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年五月二十九日東京裁判所ニ於テ鹿島利介ニ申渡シタル裁判ハ破毀ス可キ理由ナキニ依リ上告狀却下スル者也

第六百十九號

○判文〔竊盜三犯ノ件〕明治十三年七月八日上告
明治十三年十月一日判決

新潟縣新潟區上大川前通七番町
平民榮松長男
小山勇大郎
明治十三年六月
二十九年五ヶ月

右勇太郎ノ所爲ニ對シ明治十三年六月二十九日新潟裁判所ニ於テ左ノ如ク裁判言渡シヲ受タリ

其方儀明治十一年十二月十八日北浦原郡新谷村清田彦三郎幷ニ甲斐國北巨摩郡穗垂村清水藤太郎ヲ同意セシメ新潟上大川前通十番町大鹽利平方ヘ忍入リ鐵瓶壹個外五品盜取タルヿハ無之湊町通二丁目吉田清太郎外一名ヘ藥價及ヒ謝金ノ代リニ附與シタル鐵瓶壹個外貳品ハ藤太郎ヨリ買取シタルモノニテ該品及ヒ代金授受ノ際細山「ヤマ」其場ニ在テ見聞セル處ニシテ竊取シタル物品ニハ非ラス又監獄未決第二番圈ニ拘留中其隣圈ニ在ル清田彦三郎ヘ既ニ竊盜三犯ニ至ルヲ以テ重刑ニ處セラル可キモ計リ難キニ依リ事實ヲ供吐セサル所存ユヘ黨類ナルヿハ申立呉間敷ト依賴セシヿハ無之旨縷々陳辨スト雖モ彦三郎ニ於テハ入監中黨類ナルヿヲ擁蔽シ呉レ可キトノ依賴ニ應シ一旦ハ不實ノ申供ヲ爲シタルモ事實其方及ヒ藤太郎ト竊盜ヲ爲シタルニ相違ナキ旨陳述シ又藤太郎彦三郎ニ於テ新潟警察署及ヒ新潟縣舊警察課ニ於テ拇印シタル口書中其方ノ發意ニ同シ大鹽利平方ヨリ物品ヲ竊取シ俱々其物品ヲ分配セシ旨申供シアリ且吉田清太郎外一名ニ附與シタル物品ハ現ニ大鹽利平カ盜難ニ罹リタル品ニテ即チ彦三郎等カ分配セシト言フノ品ナリ又細山「ヤマ」ニ於テ藤太郎ヨリ其方ヘ物品ヲ賣渡シ代金ヲ受取シヿヲ見聞セサル旨陳述セリ故ニ竊盜ヲ爲サストノ申供ハ不實ノ陳辨ニシテ藤太郎彦三郎ヲ同意セシメ大鹽利平方ヨリ物品ヲ竊取シタルモノト認定ス因テ右竊盜班金三圓拾五錢ノ科賊盜律竊盜條ニ依リ竊盜三犯ナルヲ以テ懲役十年申付ル

勇太郎ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年七月八日上告要領左ノ如シ

自分於テ鐵瓶外貳品ハ清水藤太郎ノ依賴ニ依リ代金八拾錢ニテ買受タルモノナリ又右ノ内湯涌シハ關屋駒藏ヘ藥價ノ代リトシテ授與シ鐵瓶皮合利ハ吉田清太郎ヘ日當料ノ代リ

トシテ差遣シタル譯ニシテ自分於テハ竊盜ヲナシタルヿハ勿論清田彦三郎ヘ對シ自分ハ竊盜三犯ニ付重刑ニ處セラル可キモ計リ難クニ依リ黨類ナルヿハ申立呉間敷ト依頼セシヿハ曾テ無之トノ事

辨明

原裁判所ノ簿記ヲ渉獵スルニ上告人ノ黨類ナリシ清水藤太郎カ明治十二年七月十二日新潟縣警察課ニ於テ爲シタル口供ヲ閲スルニ明治十一年十二月十八日當港大川前通七番町小山祐太郎發意ニ同シ清田彦三郎自分三人ニテ該家ニ至リ忍ヒ入ラントスル際右祐太郎儀家内ノ樣子存居候趣ニテ壹人ニテ忍ヒ入リ壹升余入鐵瓶壹ツ外五品盜出候ニ付自分ハ壹合入位鐵瓶壹ツ配分殘品ハ祐太郎彦三郎ニテ配當致シ鐵瓶壹ツ所持罷在候トアリ又清田彦三郎ノ口供ニ於テモ藤太郎ノ口供ニ符合シ而シテ彦三郎ハ銅水指壹ツ配當受タリトアリ後チ藤太郎彦三郎トモ前口供ヲ反異シ該竊盜ハ土方稼小山要太郎ト共盜シタルヿニシテ祐太郎トハ共盜シタル覺ヘナシト一旦供出セリト雖モ彦三郎ニ於テハ爾後即明治十三年五月二十五日新潟裁判所ニ於テ吐白ニ小山勇太郎ノ發意ニ同シ清水藤太郎俱々大鹽利平方ニテ鐵瓶外五品盜取タル次第ハ明治十二年六月四日新潟縣警察課ニ於テ拇印シタル口供ノ通相違無之又糾問掛等ニテ取調ノ節前口供ヲ反異シ供ニ大鹽利平方ノ竊盜ハ東京出生土方職ノ勇太郎ナル旨詐リ申立タレトモ明治十二年六月中ト覺ヘ强竊盜犯罪ニ依リ新潟縣監獄本署未決壹番監ニ罷在候砌其隣圈ナル貳番圈ニ小山勇太郎罷在リ竊カニ自分ヘ申聞ルニハ同人儀大鹽利平方ヨリ盜取リタル贓品ノ遺拂ヒヨリ盜罪發覺シ捕縛セラレタレトモ此度ハ竊盜三犯ユヘ重キ御處刑ヲ受クルモ難計ニ付決シテ盜業ハ致サスト申張リ候積リ故自分ニ於テモ同人ノ黨類ナルヿハ申立呉間敷樣只管依頼有之候ニ付憫然ニ思ヒ自分ハ他ニ强竊盜ノ犯罪有之事故難免ニ付同人ノ黨類ナルヿハ申立間敷旨承諾致遣シ候然ルニ清水藤太郎ヘモ同樣依頼セシト相見ヘ明治十二年七月十二日新潟縣警察課ヘ自分及ヒ藤太郎御喚出ノ節繩取方ノ透ヲ窺ヒ藤太郎ヨリ竊カニ自分ヘ申聞ルニハ小山勇太郎ノ黨類ナルヿハ押包メル丈ケ押包ミ遣シ度ニ付大鹽利平方ヘ忍ヒ入タルハ東京出生土方職ノ者ナル旨ニ詐リ申立可遣樣話シ有之候ニ付夫ヨリ前供ヲ反異シ事實無之東京出生土方職勇太郎ナルモノト盜ミ致シタレトモ小山勇太郎ト盜業ヲ爲シタルヿハ無之旨詐リ申立置候得共追々ノ御吟味ニ到底詐リ遂ケ難クト存事實申立タリトアルニ據レハ即此供出ハ眞實ノ白狀ナリト認定セサルヲ得サルモノトス故ニ新潟裁判所於テ被告カ竊盜ヲ爲サストノ陳辨ハ不實ノ申供ニシテ藤太郎彦三郎ヲ同意セシメ大鹽利平方ヨリ物品ヲ竊取シタルモノト斷定シ賊盜律竊盜條ニ依リ竊盜三犯贓金五拾圓以下懲役十年ニ處分シタルハ相當ニシテ敢テ不法ノ裁判ト云ヲ得ス

判決

右ノ如クナルニ依リ明治十三年六月二十九日新潟裁判所於テ小山勇太郎ニ云渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スル者也

第六百二十號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十三年六月九日上告
明治十三年十月一日判決

福岡縣筑前國那珂郡春吉村
平民　日高惣六
明治十三年五月
四十九年

右惣六ニ明治十三年五月三十一日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀春吉村家盛藤平ヨリ賃借セシ荷車ヲ博多上土居町瀬戸磯次郎ヘ抵當ニ爲シ金圓借用セシハ民事ノ取引ニ止マリ罪ノ問フヘキナシト雖ヒ其荷車ヲ抵當ニ爲ス際磯次郎ヘ差入レタル貳枚ノ證書ニ無實ノ人名ヲ記載シ當時有合セノ印ヲ押捺シタルハ詐爲私文書ヲ以テ論シ例第二百四十六條ニ據リ雜犯律不應爲輕キニ問ヒ懲役三十日申付ル

福岡縣七等警部藤本重威ハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年六月九日付司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送付シタル上告狀左ノ如シ

右日高惣六カ明治十三年五月廿六日長崎裁判所福岡支廳糺問掛判事補値賀亘ノ面前ニ於テ爲シタル口供第二項ニ兼テ貧困罷在リ云々該車ハ渡世入用ニハ無之候得共一時金策ヲナサン爲メ虛言ヲ以テ借リ受ケ直ニ瀨戸磯次郎ヘ該車ヲ抵當トシ云々トアリ同第二項ニ右車力抵當ニ差入ル丶節云々賣渡シ證モ抵當證ニ相添ヘ差入レ置キ候トアリ同第三項ニ磯次郎ヘ差入レタル車力抵當證並賣渡證共藤崎七平ヲ本人トシ云々全ク文書ヲ詐爲シタル者ニテ實際藤崎七平ト云フ姓名ノ者ハ無之印判ハ自分持合セノ古印ヲ捺用致シ候トアリ而シテ其所謂抵當證ナルモノヲ閲スルニ荷車入質ノ期限ハ明治十二年十一月廿日限リノ契約ナル文面上ニ判然タリ抑モ賃借セル物品ヲ私擅ニ他ニ典賣スルモ其物品ノ種質其契約ノ如何ニ從テ或ハ罪トシ罰ス可カラサル道理アリト雖ヒ其物品ヲ賣却スルカ若クハ詐爲ノ術ヲ用ヒテ之ヲ典賣シ期限ノ經過スルモ之ヲ顧ミサルカ如キハ決シテ罪無シト云ヲ得サル者ナリ被告人日高惣六ノ如キハ初メヨリ車主ヲ欺クニ賃借ノ名ヲ以テシテ直チニ之ヲ他ヘ賣却シテ自己ノ利慾ヲ逞フシタル者ニシテ其賣却ノ際瀨戸磯次郎ニ對シ抵當證ナルモノヲ差入レアレハ之レ賣却ニ非スト云ト雖ヒ是レハ之レ被告カ一時ノ計畧ヲ以テ詐爲シタル文書ナレハ其質ノ期限ハ既ニ過去リテ其荷車ノ所有權ハ早ク瀨戸磯次郎ニ移リタルモノニ非スヤ況ンヤ別紙明文ノ賣渡シ證アルニ於テハ何ンソ民事上ノ所以ト云ヲ得ンヤ然ラハ則チ被告人日高惣六ノ罪ハ詐欺取財ヲ以テ論決スヘキモノニシテ長崎裁判所福岡支廳カ單ニ文書詐爲ノ罪ノミヲ罰シタルハ不法ノ裁判ト考量シ及上告候也

辨明

被告人日高惣六カ口供ニ〔自分義兼テ貧困罷在リ數多ノ借金相嵩ミ日々督促ヲ受ケ金策差迫リタル處ヨリ明治十二年十月廿六日同村家盛藤平方ヘ參リ同人所持ノ車力ヲ借リ受ケ渡世致度旨相談ニ及ヒタル處一ケ月借リ賃壹圓ニテ貸渡スヘクトノ事ニ付該車ハ渡世入用ニハ無之候得共一時金策ヲナサン爲メ虛言ヲ以テ借受ケ直ニ博多上土居町瀨戸磯次郎方ヘ該車力ヲ抵當トシ金六圓借リ受ケ一時窮迫ヲ相償イ外ニ金策ヲナシ該車力ハ請戻シ返却致スヘク所存ノ處金策心底ニ任セス荏苒日ヲ送リ候中車主藤平ヨリ磯次郎方ヘ金六圓ノ代リニ差入レアル義ヲ發見セラレ申譯無之候事右車力抵當ニ差入ル丶節磯次郎ヨ

リ申ニハ賣渡シ證モ相添ヘサレハ抵當證而已ニテハ金圓貸渡サハル旨申スニ付不得止賣渡證モ抵當ニ相添ヘ差入レ置キ候事磯次郎ヘ差入レタル車力抵當證並賣渡證共藤崎七平ヲ本人トシ自分ハ請人ト相記シタルモ全ク文書ヲ詐爲シタルモノニテ實際藤崎七平ト云フ姓名ノ者ハ無之印判ハ自分持合セノ古印ヲ捺用致シ候事」ト既ニ自ラ供出シ其車主藤平等ヨリ差出シタル始末書ニ於テモ其旨趣皆符合スルヲ觀レハ惣六カ貸借セント虛言ヲ以テ藤平ヲ欺キ該車ヲ取リ得タル其顚末ヲシテ尋常貸借ノ所爲ト爲シ民事上ノ所分ニ附スヘキモノニアラサルナリ故ニ惣六カ罪ハ賊盜律詐欺取財條凡官私ヲ詐欺シテ財物ヲ取ル者ハ並ニ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論ストアルニ照ラシ仍ホ詐僞律私ノ文書ヲ詐爲スル罪ヲ併セ名例律二罪俱發以重論條ニ依リ一ノ重キニ從ヒ處斷スヘキモノトス然ルニ長崎裁判所福岡支廳ニ於テ單ニ詐爲私文書ノ罪ヲ論シ例第二百四十六條ニ據リ不應爲輕キニ問ヒタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ長崎裁判所福岡支廳ニ於テ日高惣六ニ言渡シタル裁判ヲ破毀シ更ニ熊本裁判所ニ於テ審判ヲ爲スニ付福岡縣七等警部藤本重威ニ於テハ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第六百二十一號

○判文（證券印紙犯則ノ件）明治十三年七月廿八日上告
明治十三年十月一日判決
京都府上京區第三拾三組
菊鋒町平民
桑原藤五郎
明治十三年七月
五十六年

右藤五郎カ明治十三年七月廿二日京都裁判所ニ於テ審問ヲ受ケ陝述シタル口供左ノ如シ

自分儀ハ兼テ金物商業ニ用ユル一ケ年限リノ金物渡帳簿ニ付貳拾錢ノ證券印紙更ニ貼用可致筈ノ處其貳拾錢ヲ儉約セン爲メ一回相用ヒタル印紙ヲ貼用致シ商用ニ相用ヒ申候事」明治十三年六月十九日右ノ帳簿檢査ノ爲メ戸長役場ヘ差出候處何分ニモ不正ノ所爲アルニ付發覺ヲ畏レ其帳簿中書損ノ廉有之旨申僞リ一應差下ケ致シ賞ヒ候上明治十三年六月二十四日右再用ノ始末京都府ヘ悔悟自首仕候事

右ノ口供ニ依リ明治十三年七月二十三日京都裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲナシタリ

其方儀金物商業ニ用ユル金物渡帳簿ヘ一度用ヒタル貳拾錢ノ證券印紙ヲ再貼スル科證券印稅規則第四則第十二條ニ照シ罰金四圓、處自首スルヲ以テ犯罪自首條ニ依リ其罰ヲ免ス

京都裁判所詰檢事山根秀助ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年七月廿八日司法卿ヲ經由シテ大審院檢事ヨリ本院ヘ送付シタル上告ノ旨趣左ノ如シ

桑原藤五郎カ物品判取帳ニ一度用ヒタル證券印紙ヲ再貼シ隨テ該帳簿ハ脫稅ニ屬スル犯則ノ廉ヲ以及公訴候處當裁判所ニ於テハ別紙宣告書ノ如ク證券印紙再貼ノ科ハ自首スルヲ以テ犯罪自首條ニ依リ其罰ヲ免セリ然ニ該帳簿ニ貼用ノ證券印紙ハ再用ニ係ルヲ以テ本年一月ヨリ六月迄ノ間全ク脫稅ノ帳簿ヲ以テ物品渡シ來リタルモノナリ故ニ藤五郎ノ

犯則ハ證劵印税規則第四則第十二條及ヒ同則第五條ヲ併セ科スルモノト思量ス抑別段規則アルモノハ名例律犯罪自首條ニ照依ス可キ法理ハ無之ト雖モ暫ク印紙再貼ノ廉ハ自首ヲ假釋スルモ脫税帳簿ノ犯則ヲ不問ニ措クトキハ總テノ規則條例ヲシテ徒法ニ屬セシムルモノナリ依テ該裁判ヲ不當トシ一件書類相添此段上告仕候也

辨明

桑原藤五郎カ商業ニ用フル金物渡帳簿ニ一度貼附シタル貳拾錢ノ證劵印紙ヲ再用シタル所爲ト明治十三年一月ヨリ六月迄第三類ノ帳簿ニ印紙ヲ貼用セサル脫税ノ所爲トヲ兩分シテ之ヲ論スルヲ得ス何トナレハ證劵印税規則第四則第十二條ニ一旦相用ヒ調印セシ證劵印紙ヲ再用セントシテ之ヲ剝取リ調印ヲ洗滅スル者或ハ洗滅シタルモノト知テ之ヲ再用スル者ハ云々六拾圓以下ノ過料タルヘキ事又第五條ニ第三類ノ諸帳簿ヘ證劵印紙ヲ貼用セサル者ハ脫税高ノ六倍過料タルヘキ事ト兩規則ヲ揭載セリト雖第五條ハ單ニ第三類ノ諸帳簿ニ印紙貼用セサルノ所爲ヲ支配シ證劵印税規則第四則第十二條ハ印紙ヲ再用スルノ所爲ヲ支配シ而テ本件帳簿上脫税ノ如キハ其結果ノ及フ所ニシテ其再用シタル所ノ帳簿ニハ脫税ノ所爲從テ生スヘキ者ナレハナリ故ニ京都裁判所ニ於テ右十二條ノ罰金四圓ヲ科スヘキ處自首シタルヲ以犯罪自首條ニ依リ其罰ヲ免スト言渡シタルハ不法ノ裁判ニアラスト爲ス

判決

右ノ如クナルヲ以明治十三年七月二十三日京都裁判所ニ於テ桑原藤五郎ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス

第六百二十二號

○判文（枉法ノ件）明治十三年八月五日上告
明治十三年十月一日判決

福岡縣筑前國怡土郡高來寺村
士族
岸原鴻太郎
明治十三年五月
二十四年八ケ月

右鴻太郎カ明治十三年五月二十四日福岡縣警察署ニ於テ審問ヲ受ケ爲シ口供左ノ如シ

自分儀明治十三年二月廿五日頃同村手島重助ト共有セシ山林ニ於テ同郡高祖村大江傳四郎養子末吉及杉伊右衛門二男杉竹次郎ノ兩名雜木等盜伐致シ居ルヲ右重助見認メ差押ヘシ趣聞及ヒ居タル末竹次郎方ヨリ該村笠鏃ヲ以テ內濟ニ致シ呉度ト斷リ申入タル故則誤證書ヲ受取リ用捨致シ遣シタリ然ルニ大江末吉ハ自分共山林ニ無之村持山林ト申メ更ニ斷リニ來ル摸樣モ無之ニ付地圖等取調シ處全ク自分共ノ山林ニ相違ナキヲ以テ官ニ出訴セント考ヘシ折柄又々笠鏃ヲ以テ內濟ニ致シ呉度申參リタレトモ斯ク强情申張リ居リシニ內濟ニ致シ置キナハ向後ノ取締モ立カタクト存シ一應相斷タル處向來山ノ見ケ𡸁ヲナサシムヘク其保證ノ爲メ金拾三圓預ケ置トテ强テ依賴スルヨリ其情ニ泥ミ承諾シテ金拾三圓所持セシ金七圓ハ該金ノ內ニ有之候及誤リ證ヲ笠鏃及同人父菊地喜平ノ兩名持參シタルヲ以テ則受取リ用捨致シタリ而メ該金子ハ重助ヨリ半金渡シ呉トノヿニ付キ六圓ヲ同

人ニ渡シ殘リ七圓ハ自分預リ居タル處今般御引揚ケ相成タリ然ニ其節自分及重助ヨリ該金子ノ預リ證書ヲ笠鍬ヘ差遣シ置タル處本月十日頃該預リ證ハ宛名無之トテ記入致シ呉度申聞ケラレ全ク自分失念致シ居タル故則大江末吉ト宛名ヲ記入シテ差遣シ置タリ

一明治十三年三月二日前書重助ト共有セル山林ニ同郡高祖村松本八百左衛門妻「トヨ」同人悴茂吉妻「ハナ」ノ兩名立入リ枯枝ヲ伐リ取リ居ルヲ右重助見認鎌二挺取揚ケシ趣聞及ヒ居リシ後同郡大門村川原半七川原甚三郎ノ兩名ヨリ内濟ニ致シ呉度申シ頼ム故其情ニ泥ミ誤リ證書ヲ受取リテ用捨致シ遣シタリ

一前同日前書共有ノ山林ニ同郡高祖村八木茂吉立入リ雜木伐採致シ居ルヲ手島重助見認鎌一挺ナタ一挺取揚ケシ末該村西原俊郎今泉汲彌ヲ以テ内濟ニ致シ呉度申向タレヒ是迄數度盜伐致サレ迚モ取締行届カサル故出訴セント存シ相斷リタレヒ前顯大江末吉ノ如ク保證金拾五圓ヲ預ケ置トテ强テ依頼スルヨリ又々其情ニ泥ミ承諾メ自分ハ直ニ他出致シ居タル處其留守中金拾五圓及誤リ證書ヲ手島童助方迄差遣シタル趣聞及タル迄ニテ未タ自分ハ受取ラス候然ル處明治十三年五月七日前原分署ニ於テ關渉ノ者共御呼出シノ上御取糺之レアリタル旨同月十日頃長崎表ヨリ歸宅ノ上承知シタルニ付直ニ笠鍬西原俊郎今泉汲彌ヲ自分方ヘ招キ御吟味ノ顛末相尋タル處末吉及茂吉ヨリ自分共受取リ居ル金子ハ斷リ金トシテ差遣シタル旨申立置キシ旨申答フルヨリ元來該金ハ保證金ニ預リ則確證モ受與致シ置キシニ何故斷金ト不實ノ事ヲ申立シヤ實ニ遺憾ノ至リナリト申聞ケ置キ而メ自分警察本署ニ出頭シテ其始末ヲ辨解セント考ヘ居ル折柄五月十二日巡査出張拘引相成タリ

一前顯ノ如ク保證ノ爲メ預リタル金子ハ唯名義ヲ預リ金ノ体ニ取捗其實斷リ金トシテ取與シタル旨笠鍬外數名ノモノ申立ル趣ヲ以テ自分ノ申立ハ不實ニ之レアルヘク亦末吉ヘ遣シタル金子預リ證ハ今般長崎表ヨリ歸宅ノ後本件發覺致シ居タルヲ以テ事實ヲ隱サン爲メ今般故ラ取捗ヘタルモノナラントノ御尋ナレヒ決テ右等ノ譯ニハ無之前ニ申述タル通聊相違無之ナリ

一松本「トヨ」及「ハナ」ノ兩名ヨリ内濟ニ致シ呉タル禮トシテ酒一舛カスノコ五合ヲ自分及重助ヘ遣シタルヲ重助受取リ同人自分方ヘ持參リ共々喰用シタル旨重助申立ル趣ニテ右ハ相違無之哉ト御尋ナレヒ自分ハ更ニ喰用シタルヿ無之ナリ

右ノ口供ニ依リ明治十三年七月三十一日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ」

其方儀本年二月廿五日頃手島重助共有ノ山林ニ於テ大江傳四郎養子末吉及杉伊右衛門二男竹二郎同年三月二日八木茂吉及ヒ松本八百右衛門妻「トヨ」同人悴茂吉妻「ハナ」等カ雜木又ハ枯枝等ヲ盜伐セシ件ニ付「トヨ」「ハナ」竹次郎等カ右ノ盜罪ヲ私和シ殊ニ末吉茂吉等ト私和セシ節將來山ノ見ケヾナナス保證ノ爲メ末吉ヨリ金拾三圓茂吉ヨリ拾五圓ヲ預リタレヒ斷リ金トシテ受ケタルモノニ無之旨ニ申立シ末吉茂吉ヨリ金ト名稱シ其實斷金トシ請求シテ私和セシ旨ニ申立シニ五月七日ニ於テ其方ト謀リ預リ金ト名稱シ其實斷金トシ請求シテ私和セシ旨ニ申立シニ付當時過錢セシ笠鍬西原俊郎今泉汲彌ノ供狀ニ依リ菊地忠三八木常右衛門川原半七川原甚三郎ノ申立幷ニ十等警部宮川轍次ノ報告書等ヲ參照スルニ重助カ最初ノ申立ハ眞實ニ

ノ其方ニ於テモ預リ金ノ名義ヲ以テ其實斷リ金ヲ請求シテ盜罪ヲ私和セシ者ト認定セリ
右科例第百三十八條ニ依リ受贓律官吏受財條ニ依リ枉法ニ準シテ論シ贓金貳拾圓以上懲
役九十日士族ナルヲ以テ稱等內人條ニ照シ尙ホ閏刑ニ換ヘ幷ニ雜犯律違式輕ニ問ヒ懲役
十日贖ヲ聽ルシ一ノ重ニ從ヒ禁獄九十日申付ル
但大江末吉八木茂吉等ヨリ手島重助兩人間ニ領受シタル右金廿八圓誤證書二通共取揚
ケ費用セシ薪木ノ贓金ハ追徵ノ上下ケ渡ス
岸原鴻太郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年八月五日大審院ニ上告ノ旨趣左ノ
如シ

第一條

御判文ニ「將來山ノ見ケ〆ヲナス保證ノ爲メ末吉ヨリ金拾三圓茂吉ヨリ金拾五圓ヲ預リ
タレモ斷リ金トシテ受ケタルモノニ無之旨ニ申立ルト雖モ重助ハ最初即チ明治十三年五
月七日ニ於テ其方ト謀リ預リ金ト名稱シ其實斷金トシテ請求シテ私和セシ旨ニ申立シニ
付當時過錢セシ笠鏃西原俊郎今泉汲彌ノ供狀ニ依リ菊地忠三八木常右衛門川原半七川原
甚三郎ノ申立幷ニ十等警部宮川轍次ノ報告書等ヲ參照」云々トアルハ了解セス如何トナ
レハ夫レ法ノ起立スルヤ必ス條理ト事實ヲ包含セサルハナシ然ルヲ該裁判ハ理實共ニ其
ノ針路ヲ誤リタルモノト云サルヲ得ス請フ之ヲ說ン初メ手島忠助カ前原分署ニ於テ供
述セシ所ハ全ク鞭撻ノ苦楚ト十等警部宮川轍次ノ申分ニ其方カ證トスル八木茂吉等カ誤
證ハ無効ノモノニシテ保證金ト認定スルヲ得ヘキ書類ニ非ストノ儀ナリシニ依リ不得已
斷金ノ樣申立居タル由ナルモ重助カ右最初ノ申立ハ全ク空言ナリシニ依リテコソ福岡警
察本署ニ於テ以前ニ結ヒタル口供ハ破毀シテ後ノ口書ニ拇印セシメラレタルニ非スヤ假
令手島重助カ最初即チ明治十三年五月七日ニ於テ結ヒタル口書ヲ以テ確實ナル者トセラ
ルヽモ笠鏃以下數名カ種々ノ虛陳ヲ逞シ斷金ナリト誣言スルヲ以テ自分儀ハ本年六月十
日ニ於テ笠鏃西原俊郎今泉汲彌等ヲ相手取リ長崎裁判所福岡支廳ニ對決ヲ歎願セシ所即
時御聞屆ト相成即チ彼等ヲ相手トシ同裁判所詰牧判事ノ面前ニ於テ對論セシ所笠鏃等ハ
申分不相立語塞リテ默口シ私ノ申立ハ通暢スルヿヲ得タリシニ非スヤ此ノ時ニ當リテ笠
鏃已下數名ハ該金ハ元來山見ケ〆ヲ確實ナラシムル爲ノ保證金ナリシモ手島重助カ前原
分署ニ於テ斷金ノ樣申立タルヲ以テ斷金ナラント思シモ其實ハ保證金ナリト申立タルヲ
以テ判事牧殿ハ八木茂吉大江末吉及ヒ其他一切之ニ關係アル者ヲモ御前ニ召サレ手島重
助カ福岡警察本署ニ於テ拇印シタル口書ヲ手ツカラ取ラレ口ツカラ朗讀セラレ保證金ニ
相違ナキヤト被仰タル所彼等一同叩頭シテ相違ナキ旨ヲ奉答シタルニ非スヤ是レソ誤リ
證預リ證ヲ確實ナラシムル明證ニシテ西原等カ虛陳ヲ擊破スル之ヨリ大ナルハナシ右對
決ノ顚末ハ十有餘名カ記スル所ニシテ判事牧殿ノ關知セラルノ所ナルヲ今日ハ如斯明證
アルニモ係ラス西原等カ對決已前ニ結ヒタル口供ヲ實トシ決裁ヲ與ヘラレタルヿ不服ニ
堪ヘサルナリ

第二條

又御判文ニ「川原半七川原甚三郎ノ申立」云々トアルハ了解セス是レソ裁判ノ不當ヲ一月

シテ知ルノ明證ト言ハサルヲ得サル也如何トナレハ右兩人ハ松本「トヨ」松本「ハナ」カ爲メニ內濟ニ致シ呉ヨト申入レタル迄ノ者ニシテ八木茂吉大江末吉カ事件ニ至リテハ毫モ關知シタルモノニアラサル也關知セサル者ヲ取テ刑罰ヲ施スノ標目トセラルヽハ甚タ謂レナキ裁判ト言ハサルヲ得ス是レ亦承服スルヿヲ得サル所ナリ

第三條

前條業ニ既ニ陳スル如ク笠鏃等カ申立ハ悉皆虛言ナルヲ猶之ヲ信セラレテ私ノ口供ハ毫モ御採用ナキハ何故ソ焉ソ推考憶度ノ御裁判ト言ハサルヲ得ンヤ凡ソ夫レ刑ハ人民ノ惡行ヲ止メ國法ヲ保護スルニアリ而テ諸ノ惡業ハ人ノ內部ニ於テ發生セサルハナシ故ニ之ヲ懲戒スル者ハ裏心誠ニ悔悟シ其刑ヲ甘受以テ心服セシムルニ在ルナリ然ルヲ本人ノ口供ハ措ヲ以ヲ無實トシ他人ノ口供ヲ取リテ以テ之ヲ其ノ本人ニ適應セラルヽハ嗚呼果テ何故ソ苟モ如斯ナラハ世間焉ソ寃枉ニ死シ寃枉ニ泣ク者ナカランヤ他人ノ口供而已ヲ以テ之ヲ直ニ本人ニ施シ果シテ誤謬ナシトセハ一ケ人ノ生命財產ハ數人ノ左右與奪スル所ト成ルモノト云フ可キ而已夫レ如斯然ルヲ笠鏃等カ口供ノミヲ取テ私ノ口供ヲ捨テ憶度ノ裁判ヲ與ヘラレタルヿ最モ不服ニ堪ヘサル也

第四條

前數條ニ於テ既ニ開陳スル如ク判事ハ笠鏃西原俊郎等カ口供ヲ以テ實事トシテ裁判ヲ下サレタリト雖モ笠鏃等ハ本年七月三十一日拘置檻內ニ於テ私ニ向ヒ此マテ虛陳ヲ逞シタル旨ヲ自白シタリキ檻中只獨リ笠鏃西原俊郎等ニ止マラス多數ノ人モ係リ聞ケリ御尋アラハ明瞭ス可キナリ笠鏃等カ言ニ曰ク始メ前原分署ニ於テハ保證金ナル旨再應上申セシモ宮川警部ハ毫モ採用セスシテ手島重助八木茂吉カ口供ヲ示シ兩人共斷金ト申立タル上ハ其方共ニ於テ保證金ト申立ルモ採用ス可キニ非サレハ寧ロ重助等カ申立通リ申立福岡本署ヘ拘留セラルヽ如キヿナキ方コソ宜シカル可キニアラスヤトノ儀ナルニ付斷金ト申タリトテ自分共ニ罪アル可キヿモアル間敷ト存シ一時ノ繁(原ノマヽ)ヲ免レンカ爲メ斷金ナリト警部ノ意ニ從ヒ申シ置タル末手島重助並ニ貴殿共入獄トナリタルニ就キテハ自分共モ安然ト致シ居ル可キニ非サルヲ以テ前原分署ノ口供ヲ破毀シ更ニ眞正ノ手續キヲ上申スル方可然ト相考タルモ自分儀上申ノ手續等不案內ノ事ニ付一族伊藤重幾ハ警部宮川轍次ノ叔父ナルニ付同人ヲ賴ミ何ントナシ尋問セシ所前原ニテノ申立ヲ變更スル時ハ上申不實ノ罪ニテ懲役ニ下サルヽトノヿナリシヲ以テ自分共ヘ難ノ及ハンヿヲ恐レ愈虛陳ヲ逞クセシ所豈圖乎自分共迄過錢セシト云フヲ以テ懲役被仰付案外至極全ク法律ヲ知ラサルヨリ保證金ト云フモ斷金ト申スモ同樣ノ事ト相考居タル而已ナラス伊藤カ申タルヿヲ信實ト存セシヨリ貴殿ヘモ寃枉相掛タルナリト陳告セリ右御疑アラハ御尋問被下度候

第五條

八木茂吉カ初メ前原分署ニ於テ虛陳ヲ逞シタル遠因ハ如左手島重助カ從妹ニ手島某女アリ曾テ八木茂吉ニ嫁セリ然ルニ某女ハ八木茂吉ヲ嫌ヒ引取タルヲ茂吉ハ尙ホ余情アリケンソ之ヲ呼戻ントセシ由ナルモ之ヲ承引セサリシヨリ茂吉ハ奮怒ニ堪ヘス手島カ家ニ闖入シ某女ヲ毆擊シタルヿモ有之由ケ樣ノ義ナルニ付八木茂吉ハ某女カ衣服器具等ノ嫁具ヲ

差押テ返サス手島方ヨリハ頻リニ手ヲ入レ返却ヲ請フモ承引セス其儘遷延致居候中八木茂吉盜伐致シタルヲ以テ手島重助ハ一層ノ奮怒ヲ重ネ斷然出訴ノ積リナリシモ西原等カ周旋ニテ手島某女カ衣服モ取リ戻シ保證金相預リ内々事濟タルモ右茂吉ハ當時内心ニ不快ト存シ居タルナラント被相考候然ル所八木茂吉事盜罪露見ニ及ヒタルヲ以テ茂吉ハ到底盜罪ノ免レ難キヲ知リ遂ニ手島重助ヲ誣ヒ宿怨ヲ報イント企タル「明ナリ此等ハ御吟味被下候ハヽ明瞭可仕候

第六條

斷金ニ無之證跡ハ誤證預證ニテ明瞭スル而已ナラス筑前國怡土郡高來寺村農手島藤市ナルモノ其ノ證人タリ之ヲ如何ント云フニ同人儀ハ笠鏃カ依賴ニヨリ保證金云々ノ談判中列坐シタルモノナリ右ノ者ヘ御尋問アラハ明瞭可仕候

上告ノ主點

第一　手島重助カ前原分署ニテ斷ハリ金ト申供セシハ誣服ニシテ福岡警察本署ノ口供ニ於テ之ヲ改正シ且長崎裁判所福岡支廳ニテ笠鏃等ト對審ノ節モ同人等保證金ト明言セリトノ事

第二　判文中川原半七川原甚三郎ノ申立云々トアレモ右兩人ハ八木茂吉大江末吉カ事件ニ關係無之トノ事

第三　他ノ申述ヲ採テ本人ノ口供ヲ捨ラレシハ不法ナリトノ事

第四　笠鏃等檻内ニ於テ詐僞ノ供述セシヿヲ自分ヘ謝言シ又八木茂吉カ前原分署ニテ虚僞ノ申供ヲ爲セシハ手島重助ト宿怨アル故ナリトノ事

第五　保證金ナル「ハ誤證書預證書ニテモ明瞭ナル上手島藤市之カ證人ナリトノ事

辨明

第一條

被告鴻太郎ハ手島重助カ前原分署ニテ斷ハリ金ト申供セシハ誣服ニテ福岡警察本署ノ口供ニテ之ヲ改正シタリト申立レモ口供ハ本人自由ノ供述ヲ其儘記載スルモノナレハ口供讀聞ノ節相違ノ稜アリト思料セハ即時申立改正ヲ求ムヘキニ重助カ異議ナク之ニ拇印セシハ當時其罪ニ甘服シタルモノニテ福岡警察本署ニ於テ前供ト相違ノ陳述ヲ爲セシハ却テ詐僞ナル「以下數條ニ辨明スルカ如クナルニ付原裁判所カ之ヲ採用セサルハ至當ノ「ナリトス

被告ハ原裁判所ニ於テ笠鏃等ト對審ノ節同人等保證金ナリト明言セシト申立レモ其證據ナキノミナラス上告書中ニ「右對決ノ頓末ハ十有余名カ記スル所ニシテ判事牧殿ノ關知セラルヽ所云々」トアレモ右書ハ一件書中絶テ無之ニ付該申立ハ採用致サヽルモノトス

第二條

被告ハ判文中ニ川原半七川原甚三郎ノ申立云々トアレモ右兩人ハ八木茂吉大江末吉ノ事ニ關係無之ト申立タリ右半七外一名カ明治十三年五月二十一日福岡警察署ニ差出シタル始末書ヲ閲スルニ左ノ如シ

本年三月中日ハ不覺岸原幸太郎手島重助兩名ノ抱山ニテ松本「トヨ」同「ハナ」兩名シテ

カレコギヲ盗取リタル趣ニテ差押ヘラレタル節鎌二挺取リ上ケラレタルニ付先方ヘ斷申呉レ候樣同人共ヨリ私共ヘ依頼スルニ付幸太郎重助等ヘ私共ヨリ斷ニ罷越シタル處斷金貳圓差遣シ候樣初發申サレタレ𪜈兎ヤ角私共盡力致シ先方ヘ両度斗リ罷越タル處其末證人相立テ誤證差入レヘク處ニテ漸々相片付申候依之該誤書ヲ一通先方ヘ持行申候テ彌斷相濟申候此段始末書ヲ以申上候也

右ニ據レハ被告ハ最初松本「トヨ」外一名カ内濟ノヿヲ半七外一名ヨリ申入シ𪜈モ斷ハリ金貳圓差出スヘクト申タルヲ以テ推知スレハ茂吉末吉ニモ斷金差出サシメシヿ倍々明白ナルニ付原裁判所カ之ヲ引證シタルハ相當ナリトス

第三條

被告ハ他ノ申供ヲ取テ本人ノ口供ヲ捨ラレシハ不法ナリト申立レ𪜈本人ノ口供ハ詐僞ニシテ他ノ申述ハ眞正ナル證據ナレハ原裁判所ニ於テ斷罪依證ニ基キ之ヲ取捨シタルハ至當ノヿナリトス

第四條

被告ハ笠鏃等檻内ニ於テ詐僞ノ供述セシヿヲ謝言シ又八木茂吉カ前原分署ニテ虚僞ノ申供ヲ爲セシハ手島重助ト宿怨アルニ因レリト申立レ𪜈其證左ナケレハ採用スルノ限ニアラストス

第五條

被告ハ大江末吉外一名ヨリ受取リシハ保證金ナルヿ誤證書預證書ニテモ明瞭ナリト申立レ𪜈證人笠鏃西原俊郎外一名カ明治十三年五月二十四日福岡縣警察署ニ於テ爲シタル口供ヲ閲スルニ左ノ如シ

笠鏃口供要旨

自分儀明治十三年二月廿五日頃同村平民大江傳四郎養子末吉義同郡高來寺村岸原鴻太郎手島重助共有ノ山林ニ立入リ雜木等伐採致シ居ルヲ右重助見認メ差咎メルモ末吉ニ於テハ村持山林ナルトテ服罪致サヽルヨリ重助等地圖等ヲ取調タル處全ク重助等ノ山林ニ相違無之趣ニテ出訴スヘキ勢ニ付是非内濟示談ノ都合ニ盡力致シ呉度末吉實父同村菊地喜平ヨリ依頼スルヨリ其情ニ泥ミ承諾シテ則自分岸原鴻太郎手島重助ヘ向來末吉ヲシテ該山林ノ見ケ占メナサシムルカ或ハ苗木ヲ植付ケサスル故内濟ニ致シ呉度ト申シ斷リ入リタレ𪜈聞入レス金拾三圓差遣シナハ承諾スヘクトノ申シ答ニ付其由喜平ヘ相話シタル處則直ニ金拾三圓（金ハ明治通寶拾圓紙幣一枚余ハ覺）差出シタル故喜平供々鴻太郎方ヘ持參相渡シタリ然ルニ岸原鴻太郎ヨリ申スニハ金子ヲ取リテ内濟シタルト世人ヨリ申サレテハヒトヒ事故名義ノ處ハ向後山ノ見ケ𪜈チスルニヨリ其保證ノ爲メ金子ヲ預ケ置キタル樣致シ呉レトノヿニ付則其意ニ從ヒ誤リ證ニ其旨趣ヲ記入シテ金子ト共ニ岸原鴻太郎ヘ相渡シ置タル處云々

西原俊郎今泉汲彌口供

自分共儀明治十三年三月二日同村八木茂吉同郡高來寺村岸原鴻太郎手島重助共有ノ山林ヲ盗伐致シ居ルヲ重助ニ差押ラレ甚タ相濟サルヿニ付向後屹度相慎ミ山見ケ𪜈チス

ルカ或ハ苗木ヲ植立ヘクニヨリ内濟示談ノ都合ニ盡力致シ吳度右茂吉ヨリ申頼ムヨリ宜シカラサルヿトハ考ヘナカラ其情ニ泥ミ承諾致シ則岸原鴻太郎手島重助ヘ右ノ趣申聞ケ詫ヒ入リタレヒ聞入レス金子廿圓差遣シナハ承諾スヘクトノヿニ付其段茂吉ヘ申聞タル處廿圓トテハ差出シ難クユヘ金拾五圓ニテ聞入レ吳レル樣談判ナシ吳レトノヿニ付鴻太郎等ヘ示談ヲ遂ケ竟ニ該金員ニテ承知セシヲ以テ則今泉汲彌金拾五圓金ノ種類ハ覺ヘヲ茂吉ヨリ受取リ重助ヘ相渡シ事濟トナリタリ尤該金員ヲ渡スノ前鴻太郎等ヨリ斷リ金ト申シテハ相濟マサル事故名義ノトコロハ山見クヽヲナスニ付其保證ノ爲メ金子ヲ預ケ置クト誤リ證書ヲ認メ吳トノヿナリシユヘ則其意ニ從ヒ誤書ニ其旨趣ヲ記入シテ金子ト共ニ重助ニ渡シ置タル處明治十三年五月七日前原分署ニ呼出サレ御取糺ヲ受ケタリ

前顯ノ如ク前原分署ニ於テ御尋ノ節有体申立置キシ末岸原鴻太郎長崎表ヨリ歸村ノ上右御吟味始末ヲ自分共ヨリ承知セシ上斷リ金トシテ受與ナシタルト申立ラレシハ甚遺憾ノ至リナリト甚立腹ノ顏色ニ之レアリ亦其後鴻太郎實父彌一郎ヨリトヲカ助ケ樣ハアルマヒカト申聞ケラレ自分共ニ於テモ少シク氣ノ毒ニ存シタル故明治十三年五月十五日警察本署ニ於テ御尋問ノ節一時誤證書面ノ如ク預ケ金ナリト申立レヒ全ク其實金子ヲ遣シ內濟シタル譯ニテ敢テ預ケ金ト申ス義ニ無之ナリ

右ノ各供ト前ニ引用セシ川原半七外一名ノ申立及ヒ八木茂吉菊地喜平大江末吉ノ陳述モ皆同樣ナルヲ以テ見レハ斷リ金ナルヿ明白ナリトス

被告ハ保證金ナルヿハ手島藤市ナル者證人ナリト申立レヒ果シテ然ラハ之ヲ原裁判所ニ申立ヘキモノナリトス然ルヲ今ニ至テ之ヲ申述スルモ本院ハ法律ノ統一ヲ掌ル所ニシテ紛問ヲ受理スル所ニアラサレハ右ハ採用セス故ニ原裁判所ニ於テ例第百三十八條ニ依リ受班律官吏受財條ニ依リ枉法ニ準シテ論シ班金廿圓以上懲役九十日士族ナルヲ以テ稱等內人條ニ照シ尙ホ閏刑ニ換ヘ並ニ雜犯律違式輕ニ問ヒ懲役十日贖ヲ聽シ一ノ重ニ從ヒ禁獄九十日ト申渡シタルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如ク判ヲ以テ明治十三年七月三十一日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ岸原鴻太郎ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ付上告狀却下スルモノ也

第六百二十三號

○判文（密品賣買ノ件）明治十三年八月七日上告
明治十三年十月一日判決

福岡縣豐前國仲津郡大橋村士族　丸山瀧男　明治十三年七月　三十八年九ヶ月
同村士族　中尾勇次郎　明治十三年七月　三十二年一ヶ月
同村平民

右瀧男外三名カ明治十三年七月廿九日長崎裁判所管内小倉區裁判所ニ於テ審問ヲ受ケ陳述シタル口供左ノ如シ

末廣文六　三二　明治十三年七月　四十一年一ヶ月

同村士族　武久楯城　明治十三年七月　三十二年四ヶ月

自分義貸倉會社ノ社主トナリ同村平民長野嘉六宅ニ於テ小笠原勘八ヲ社長トシ武久楯城ヲ一日金壹圓ニ中尾勇次郎及ヒ末廣文六ヲ一日金三拾錢差遣ハス約定ニテ該社ノ手傳又ハ書記等ニ雇ヒ入レ明治十三年七月八日ヨリ石灰ノ空物ヲ限月賣買致シ居ル處巡査御立込御拘引ノ上取調ヲ受ケ恐入リ候事

丸山瀧男

中尾勇次郎
末廣文六
武久楯城

自分共儀明治十三年七月八日以降丸山瀧男社主トナリ小笠原勘八社長トナリ長野嘉六宅ニ於テ貸倉會社ノ名義ニテ石灰ノ空品ヲ限月賣買スル情ヲ知リ一日ニ付武久楯城ハ金壹圓中尾勇次郎末廣文六ハ一日金三拾錢ノ手當ヲ受クル約定ニテ該社ヘ雇ハレ賣買ノ手傳又ハ書記等致居候處今般御拘引ノ上御取調ヲ蒙リ恐レ入候事

丸山瀧男

右ノ口供ニ依リ明治十三年七月二十九日長崎裁判所管内小倉區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ中渡シタリ

其方義貸倉會社ノ社主トナリ明治十三年七月八日以降長崎嘉六宅ニ於テ石灰ノ空物ヲ限月賣買スル科明治十三年第二十一號布告ニ擬シ罰金三拾圓中付ル

中尾勇次郎
末廣文六
武久楯城

其方共儀明治十三年七月八日ニリ丸山瀧男等ノ石灰空物ヲ限月賣買スル情ヲ知リナカラ同人等ニ雇ハレ賣買ノ手傳書記等ヲスル科明治十三年第二十壹號布告ニ擬シ各罰金拾圓中付ル

福岡縣七等警部秋永蘭二郎ニ於テハ明治十三年八月七日右ノ裁判ヲ不當ナリトシ司法省ヲ經由シテ大審院檢事ヨリ本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

丸山瀧男外三名ノ犯罪タル明治十三年七月八日以降豐前國仲津郡大橋村平民長野嘉六方ニ於テ貸倉會社ト唱フル一社ヲ設ケ丸山瀧男該社主トナリ石灰空物ヲ限月賣買シ及ヒ其情ヲ知リ該社ニ雇ハレ空物賣買ノ手傳並ニ書記等ヲ爲ス者ナリ抑諸物產空品ノ賣買不相成義ハ一昨明治十一年九月本縣甲第百九十號ヲ以テ別紙寫ノ通布達有之故右丸山瀧男外

三名ノ犯罪タル即チ該縣達ニ違反スル者明治十年第十三號公布ニ據リ處分スヘキ者ト見
込小倉區裁判所ヘ求刑シタルニ該區裁判所ニ於テハ之レヲ本年即チ明治十三年第二十一
號公布ニ擬シ其罪ヲ處斷シタリ夫レ右二十一號公布ノ精神タル全ク米穀並ニ金銀貨幣及
ヒ株式ニ限リ限月若クハ定期ヨリ起リタル現場賣買其他之ニ類似スル取引ヲナス者ヲ制
止セタルヽ者ニテ百般ノ物品ニテモ限月若クハ現場賣買其他之ニ類似スル取引ヲナス者
マテ該公布ヲ以テ處分スヘキニ非ラス然ルニ該區裁判所ニ於テ右公布ニ據リ所斷シタル
所以ノ者ハ蓋シ右公布ノ文中其他之レニ類似スル云々トアルヲ以テ其他ナル字ヲ米穀金
銀貨幣及ヒ株式ニ繫ケ百般物品ノ限月等ニ類似スル賣買取引ヲナスモノモ右公布中ニ包
轄スルモノト解シタルモノヽ如シ本職ヲ以テ之レヲ見レハ其他ナル字ハ賣買取引手續ノ
限月若クハ現場ニ類似スルモノニテ其本体タル米穀金銀貨幣及ヒ株式ノ範圍外ニ及スヘ
キ者ニ非スモ其範圍外ニ及ハサルヤ明ナリ然ルヲ嚮キノ石灰空物ヲ限月賣買シタル丸山
瀧男外三名ノ者ヘ該公布ヲ以テ比擬所斷シタルハ認テ不當トナサヽル可カラス是本職ノ
上告破毀ヲ求ムル所以ナリ

辨明

明治十三年四月十五日第二十一號布告ニ〔法律定規ニ遵ヒ官許ヲ得タル米商會所株式取引所
及ヒ横濱取引所外若クハ内タリトモ竊ニ米穀並金銀貨幣及ヒ株式ノ限月若クハ現場定期ヨリ
起リタル相場ヲ云フ賣買其他之レニ類似シタル取引ヲ爲シタル者及ヒ情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ
給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ拾圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ其賣
買取引ハ無効ト爲スヘシ〕トアリ抑該公布ハ要スルニ官許ヲ得スシテ竊カニ限月賣買取
引等ヲ爲シ法律定規ニ違反スル者ヲ豫テ制止スルノ主意ナレハ固ヨリ米穀並金銀貨幣株式
ノ賣買取引ニノミ限ルヘキニアラス諸物品ノ賣買取引ニ於テモ亦其ノ制外ニ措ク可キ條
理無キ事ニシテ〔其他之レニ類似シタル取引ヲ爲シタルモノ云々〕ト明文アルニアラスヤ
左スレハ原裁判所ニ於テ瀧男外三名カ石灰ノ空物ヲ以テ限月賣買ヲ爲シタルハ即チ第二
十一號ノ布告ニ違背セルモノトナシ瀧男ハ罰金三拾圓勇次郎外二名ハ各罰金拾圓宛申付
タルハ不當ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年七月二十九日長崎裁判所管内小倉區裁判所ニ於テ瀧男外三
名ニ言渡シタル裁判ヲ破毀ス可キ理由ナシトス

第六百二十四號

○判文〔實子ノ盜罪ヲ私和セシ件〕明治十三年八月十一日上告
明治十三年十月一日判決
福岡縣筑前國怡土郡高祖村
平民　菊地喜平
有喜平カ明治十三年五月二十四日福島縣警察署ニ於テ審問ヲ受ケシ口供左ノ如シ
自分儀明治十三年二月廿五日頃實子同村大江傳四郎養子末吉儀同郡高來寺村岸原鴻太郎
明治十三年五月
四十八年四ヶ月

手島重助共有山林ニ立入リ伐採致居ルヲ重助ヨリ差押ラレタルニ付向後山ノ見ケ次ヲ爲サシムルカ又ハ苗木ヲ植附クヘキニヨリ内濟示談ノ都合ニ周旋致シ呉レ度旨同村笠鍬ヘ依頼シタル處則承諾ナシテ岸原鴻太郎等ヘ斷リ申入ルヽモ金拾三圓差遣サステハ内濟ヲ承諾致サヽル趣申旨鍬ヨリ自分ヘ申聞タル故固ヨリ寶子ニ於テ不正ノ處爲ヲ爲シタルヿナレハ致方無之ニ付則金拾三圓金ノ種類ハ明治通寶拾圓紙幣一枚同貳圓札壹枚同壹圓札一枚ナリヲ笠鍬ト共々鴻太郎方ヘ持參リ相渡シタリ尤金子ヲ取リ内濟ニ致シタルト世人ヨリ申サレテハヒトヒ故向後山ノ見ケ次ヲナスヿヨリ其保證ノ爲メ預ケタル名義ニ致スヘクトノヿニ付則末吉ヨリノ誤リ證書ニ其旨記載シテ金子ト共ニ鴻太郎ヘ相渡シタル處其後同人ヨリ預リ證書ヲ笠鍬迄遣シタル趣ニテ鍬ヨリ自分ヘ相渡タレハ宛名無之故其儘笠鍬ヘ差遣シ置タル處明治十三年五月七日前原分署ヘ寶子末吉外數名呼出サレ其儘福岡表ヘ御拘引相成タリ而メ其後四五日ヲ經テ鴻太郎義該預リ證書ニ宛名記入セシ趣ニテ鍬ヨリ尚又自分ヘ渡シタル故則所持罷在ル處五月十四日御召喚御取糺ヲ受ケ該預リ證ハ御引揚相成タリ

前顯預リ證ハ該件發覺シタルヲ以テ事實ヲ隱サン爲メ故ラ取拵ヘタルモノニアラスヤト御尋問アレハ右ハ全ク該件發覺以前認メタルモノニ相違無之ナリ

右ノ日供ニ依リ明治十三年七月三十一日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀寶子末吉カ明治十三年二月廿五日頃岸原鴻太郎手島重助共有ノ山林ナルヿヲ知ラスシテ該山林ニ立入伐採ナシタル件ニ付笠鍬ヘ依頼シテ内濟ヲ示談セシ末金拾三圓ヲ差遣ハサスシテハ承諾致サス迚右金員ヲ預ケソ名義ニシテ鴻太郎重助ニ與ヘタルモ畢竟事主ノ請求ニ强迫セラレタルニ由ルヲ以テ其罪ナク其盜罪ヲ私和セシモ實父ナルヲ以テ親族相爲容隱條ニ依リ其罪ヲ論セス

但保證金ノ名義ニテ鴻太郎重助等ヘ遣シタル右金拾三圓ハ追徵ノ上下渡ス兩人ヨリ受取リシ預リ金名義ノ證書ハ取揚ル

福岡縣八等警部大崎利三郎ニ於テハ石裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年八月十一日付司法卿ヲ經由シ本院按事ヨリ送付シタル上告ノ旨趣左ノ如シ

被告菊地喜平ノ罪迹タルヤ明治十三年五月廿四日當警察本署及ヒ長崎裁判所福岡支廳ニ於テ爲シタル口供ヲ閲スルニ寶子末吉當時大江傳四郎養子トナリ四ナル者怡土郡高來寺村岸原鴻太郎手島重助ノ共有山林ニ立入リ伐採致シ居ルヲ重助ヨリ差押ヘラレ其末笠鍬ヲシテ内濟ヲ請フタル處金圓差遣サスシテハ承諾セサル趣ニ付固ヨリ寶子ニ於テ不正ノ所爲ヲナシタルヿナレハ致方之レナシニ付金拾三圓持參云々トアリ鴻太郎重助ノ供出モ亦タ共有ノ山林ニ於テ盜伐セルヲ差押ヘタレハ末吉ハ村持ノ山林ナルトテ更ニ斷リニ參ル摸樣モ之レナキ故ヘ地圖等取調ヘ見シ處全ク自分共ノ山林ニ相違之レナキニ付出訴シ相當ノ御處置ヲ受ント存スル折柄笠鍬ヲ以テ内濟請ヒタルヲ一應相斷リタレトモ向後山林ノ見ケ締ヲナスニ付其保證ノ爲メ金拾三圓預ケ置ク故ヘ是非内濟致シ呉レ度申スニヨリ其情ニ泥ミ承諾云々トアリ故ニ被告喜平カ其盜業私和ノ如キハ容隱ヲ得ルノ親屬ナレハ不問ニ置クモ財ヲ物主ニ與フル罪ハ與フル所ノ財ヲ計ヘ受贓律以財請求スル條ニヨリ坐贓ニ依リテ論シ其贓ハ取與共ニ罪アルモノナレハ宜シク官沒ス可キモノナルヲ長崎裁判所福岡支廳ニ

於テハ被告喜平ニ對シ別綴宣告書ノ通リ實子末吉カ盗業内濟示談ノ末預ケノ名義ニテ金拾三圓差遣スモ畢竟事主ノ請求ニ強迫セラレタルニ由ルヲ以テ其罪ナク盗罪私和セシモ親屬相爲容隱條ニ依リ其罪ヲ論セス鴻太郎重助等ニ遣シタル金拾三圓ハ追徵ノ上可下渡トノ處斷ヲ爲シタリ然ルニ受財者鴻太郎重助ノ兩名ニ於テ被告喜平ヲ恐喝若シクハ强迫ノ意ナク取與共ニ和セシモノタルヿハ前顯口供節錄中明了ナリ夫レ取與共ニ和スルモ既ニ罪アルノ賍ニ係ラハ與フル者モ取ル者モ均シク法章ノ宥サヽル所ナルニ該支廳ニ於テハ受財者即チ鴻太郎外一名ハ枉法ニ準シテ論シ獨リ授與者喜平ハ强迫セラレタルト云フヲ以テ與フル所ノ罪ヲ問ハスシテ其金員追徵下付セシハ豈不適當ノ裁判ト云ハサルヲ得ンヤ之レ徵官上告シテ破毀ヲ需ムル所以ナリ

辨明

被告菊地喜平カ實子大江末吉ノ山林盜伐シタル罪ヲ隱掩セシカ爲メ笠鏃ニ依賴シ金拾三圓ヲ以テ事主岸原鴻太郎外壹名ト私和セシハ受賍律以財請求條凡諸人事アリ財ヲ以テ官吏ニ請求シ法ヲ枉ルヿヲ得ント欲スル者ハ與フル所ノ財ヲ計ヘ坐賍ニ依テ論ストアルニ比擬シ改正七賍圖ニ照シ處分スヘキモノトス然ルヲ長崎裁判所福岡支廳ニ於テ畢竟事主ノ請求ニ强迫セラレタルニ由ルヲ以テ其罪ナク云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年七月三十一日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ菊池喜平ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スルヿ左ノ如シ

菊池喜平

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ賍金拾三圓懲役二十日ノ處父子ノ至情ニ出ルヲ以テ一等ヲ酌減シ懲役一十日仍ホ贖ヲ聽ス

贖罪金七拾五錢

但賍金及ヒ證書ハ官沒ス

第六百二十五號

○判文（竊盜ノ件）明治十三年九月十四日上告
明治十三年十月一日判決

石川縣越前國足羽郡福井錦下町八拾壹番地平民

五十嵐磯八

明治十三年四月
三十七年十ケ月

右磯八カ明治十三年四月二十七日金澤裁判所福井支廳ニ於テ審問ヲ受ケタル口供左ノ如シ

盜取掛ケ幕一張今般御取調ノ上代價ニ積リ金五圓ニ相成候旨御申聞ニテ承知仕候其餘福井警察署ニ於テ申立タル通聊相違無御座候

磯八カ明治十三年四月二十三日福井警察署ニ於テ吟味ヲ受ケ陳述シタル口供左ノ如シ

自分儀曾テ貧窮ノ者ニ是レアリ所々雇ハレ口糊罷在候處明治十三年三月十五日ヨリ福井九十九町橋下ニ於テ足藝興行有之ニ付該興行中元方福井手寄下町藤田岩吉ト申者ニ一日金拾五錢宛ト手間料ニテ木戸番ニ被雇罷在候内明治十三年三月廿九日ハ雨天ニシテ休興

行致シ候ニ付其節自分ハ該興行場看守罷リ在リ候處雨天ノ日ハ漸ク五錢ノ雇ヒ料ニテ妻子共ノ飯料ニ充ルヿ不能殆ント困難ノ折柄不斗惡意ヲ生シ右小屋ノ内ニ掛ケアル左ノ品盜取中候然ル后四月一日事主藤田岩吉ヨリ幕無之ハ如何致セシヤノ尋ヲ受ケ候得共更ニ存セス旨申隱シ候

一金巾四幅紋付掛ケ幕　一張

是ハ盜情ヲ不明シテ手間料ノ方ニ受取來リタル旨申僞リ自分妻「サク」ニ持參爲致福井錦中町質屋業牧野彌助方ヘ金貳圓ニ入質シ金子ハ飯料等ニ費用致候前述ノ如ク惡事ナシタル始末發覺シタル哉福井佐久良上町稻澤久太郎方ニ於テ明治十三年四月十九日午后十時過御捕獲相成當御署ニ於テ御糺治ヲ受今更奉恐縮候事

右ノ口供ニ依リ明治十三年五月四日金澤裁判所福井支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀藤田岩吉ナル者ニ雇ハレ足藝興行小屋番中右小屋ニ掛ケ有之幕壹張盜取賍金五圓ノ科雇人家長ノ財物ヲ盜ム者ニ擬シ竊盜ヲ以テ論シ一等ヲ加ヘ懲役七十日申付ル

大審院檢事野村維章ニ於テハ右裁判ヲ不當ナリトシ明治十三年九月十四日ヲ以テ本院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

本犯カ一時藤田岩吉ナル者ニ被雇中同人所有ノ物品ヲ竊取セシハ竊盜ヲ以テ論セサルヲ得ス然ルヲ原裁判所ニ於テ雇人家長ノ財物ヲ盜ム者ニ擬シ處斷シタルハ不當ナルニ付期限外ノ破毀ヲ求ム

大審院ニ於テ辨明スル事左ノ如シ

磯八カ口供ヲ聞スルニ〔藤田岩吉ト申者ニ一日金拾五錢宛ノ手間料ニテ木戸番ニ雇ハレ罷在候内云々〕トアリ即チ足藝興行中日雇ヒノ者ニシテ明治十年二月五日司法省甲第一號布達ニ〔去明治六年十二月十日當省第百九十號布達ヲ以テ雇人名稱ノ儀相達置候處今後戸籍屆濟ノ有無ニ拘ハラス雇主雇人相許諾シテ一月以上ノ期限ヲ定メ雇使スル者ハ雇人ヲ以テ論スヘシ候條此旨布達候事〕トアルニ照セハ磯八ハ岩吉ノ雇人ト名稱スル事ヲ得サル者ナリトス

然リ而シテ又口供ニ〔明治十三年三月二十九日ハ雨天ニシテ休興行致シ候ニ付其節自分ハ該興行場ヲ看守罷在リ候處云々〕トアルニ據レハ磯八ハ岩吉ノ寄託ヲ受ケ自ラ看守スル小屋内ノ幕ヲ竊取シタルモノナレハ其賍金五圓ノ罪ハ明治九年五月十九日第七十四號ヲ以テ布告アリシ竊盜條例ニ客屋倉戸及ヒ工人舟子脚夫馬丁車力等其寄託ヲ受ル所ノ財物ヲ盜ム者ハ幷ニ竊盜ヲ以テ論シ一等ヲ加フトアルヲ以テ論シ賊盜律竊盜條ニ依リ竊盜賍金壹圓以上一等ヲ加ヘ懲役七十日ヲ科スヘキモノトス

然ルヲ原裁判所ニ於テハ雇人家長ノ財物ヲ盜ム者ニ擬シ竊盜ヲ以テ論シ一等ヲ加ヘ懲役七十日申付タルハ適當セサル不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年五月四日金澤裁判所福井支廳ニ於テ磯八ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スル事左ノ如シ

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ明治九年第七十四號布告竊盜條例ヲ以テ論シ賊盜律竊盜條ニ依リ竊盜贓金壹圓以上懲役六十日ニ一等ヲ加ヘ

懲役七十日

第六百二十六號

○判文〔不應爲ノ件〕明治十三年八月廿四日上告
明治十三年十月一日判決

德島縣阿波國麻植郡川田村
平民
江崎周堅
明治十三年八月
六十六年一ケ月

右周堅カ明治十三年八月十八日德島縣脇町警察署ニ於テ吟味ヲ受ケ陳述シタル口供左ノ如シ

明治十三年七月八日不應爲ノ輕ニ問贖罪金貳圓貳拾五錢申付ケラル

自分儀明治十二年八月七日死亡相成候近親麻植郡川田村江崎彌太郎跡相續人願ノ儀ニ付彌太郎妻「キン」ナル者ヨリ孫テ血統ニ有之長女「スカ」儀ハ根元彌太郎ノ私通ヨリ出生相成タル者ナレハ譬ヒ長女ト雖ヒ愛情無之トノ始末ヲ樣々ニ申語リ平素同居ニ相暮ス右彌太郎ノ甥壽八郎ナル者ニ相續爲致度ト相談ニ預リ右ハ立嫡違法ノ事トハ乍心得事情尤ノ樣有之候間同シテ其後倶ニ係リ幸ヒ「スカ」儀其以前ヨリ病症ヲ發シ已ニ自分モ療治ヲ施シ病氣頻中ニ有之候間生質麁弱ト申唱ヘ一家永續ノ目的無之抔ト詐言ヲナシ自分ヨリ當時美馬郡拜原村ニ寄留罷在曾テ懇意ノ醫師三橋瑞伯ナル者ニ依賴シ前顯相續願ニ入用ト而已申聞ケ「スカ」ノ病症ヲ程能勝手ニ語リ其通ナル診斷書ヲ認メ貰ヒ親屬山下友三郎等ニハ全ク「スカ」ニモ承服ノ事ト申僞リ出願書ニ連印ヲ受ケ「スカ」壽八郎兩人印判ノ儀ハ「キン」ナル者有合ヲ用ヒ自分モ其願書ニ連名致シ協議相整ヒ候義ニ有之樣申立明治十二年九月十四日壽八郎ニ家督相續ノ儀及出願則相續爲致候事

明治十三年八月十九日高知裁判所管內脇町區裁判所ニ於テ審問ヲ受ケ陳述シタル口供左ノ如シ

右ノ之通相違無御坐候事

右ノ口供ニ依リ明治十三年八月廿日高知裁判所管內脇町區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀近親江崎彌太郎明治十三年八月七日死亡セシヨリ右跡式相續ハ長女「スカ」ニ願出可キ處右「スカ」ハ亡彌太郎私通ノ子ニシテ且別居ナルヨリ亡彌太郎後家「キン」ナル者亡跡ハ同居ノ甥壽八郎ニ相續致サセ度頻リニ依賴スルヨリ之ニ應シ當時「スカ」ナル者ハ病症ニ罹リ自身療治ヲ施セシヲ以テ美馬郡拜原村醫師三橋瑞伯ナル者ニ「スカ」ノ病症ヲ程能ク申語リ診斷書ヲ乞イ受ケ長女「スカ」ハ生質麁弱ニシテ一家相續ナサシメ難キヲ以テ甥壽八郎ニ亡跡相續爲致度トノ願書ニ「スカ」ノ姓名捺印ハ詐僞ニ係ルヲ情ヲ知テ連印シ之ヲ高知縣令ニ差出シ明治十二年九月廿二日聞屆ヲ得甥壽八郎ニ彌太郎ノ亡跡相續ナサシメタル罪雜犯律不應爲條不應爲輕ニ問ヒ懲役三十日ノ贖罪金貳圓廿五錢申付ル

德島縣八等警部井水幸三郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年八月廿四日本院ニ上告スル爲メ控訴上告手續第二十九條ニ循ヒ差出シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

江崎周堅

右ノ者別紙口供ノ通リ親屬阿波國麻植郡川田村平民江崎彌太郎死亡跡相續立嫡違法セシ亡彌太郎妻「キン」ナル者ノ存志ニ同シ其長女「スカ」ナル者ヲ生質虛弱ト唱ヘ且ツ賺言ヲ以テ外醫ヲ欺キ同女ニ病症アル診斷書ヲ受ケ一家永續ヲナス目的ナキモノト詐稱シ惡ク事情ヲ知テ明治十三年九月十四日亡彌太郎甥江崎壽八郎ナル者ニ亡跡相續爲致度段連名ヲ以テ及出願則血統ノ順序ヲ越ヘ壽八郎ニ相續ナサシメタリ依之該犯ハ雜犯律不應爲輕ニ問ヒ懲役三十日ヲ贖罪ニ換ヘ贖罪金貳圓廿五錢ヲ科スヘキ者トスルモ已ニ明治十三年七月八日等キ罪先ニ發シ論決ヲ經ルモノニ付名例律二罪俱發以重論條ニ照シ云々一罪先ニ發シ已ニ論決ヲ經テ餘罪後ニ發シ輕ク若クハ等キハ論スル「勿レトアル」ニ據テ處斷シ適當ト見込明治十三年八月十八日高知裁判所管內脇町區裁判所ニ求刑セシ處之ヲ雜犯律不應爲輕ニ問ヒ懲役三十日ノ贖罪金貳圓廿五錢ヲ科シ其儘斷定セシメタリ依テ頗ル不法ノ裁判トス如斯ニ付脇町區裁判所ノ裁判ハ破毀セラレ更ニ公正ノ裁判相成度一件書類ヲ具シ及上告候也

辨明

被告人江崎周堅カ近親ナル江崎彌太郎ノ死後其相續人ハ彌太郎ノ長女「スカ」ヲ以テ相當トナスヲ彌太郎ノ妻「キン」ナル者之ヲ厭ヒ彌太郎ノ甥壽八郎ヲシテ相續セシメントスルノ協議ニ周堅同意シ「スカ」ヲシテ生質虛弱ナル者ト僞唱シ曾テ知己ナル醫師三橋瑞伯ヲ欺キ不實ノ診斷書ヲ作ラシメ即チ壽八郎ヲ以テ相續セシムルノ手續ヲ遂ケ縣廳ノ許可ヲ得タル所爲ハ雜犯律不應爲輕ニ問ヒ懲役三十日ノ贖罪金貳圓廿五錢ヲ科スヘキモノトス然ルニ周堅ニ於テハ明治十三年七月八日不應爲輕ノ贖罪金貳圓廿五錢ノ一罪先ニ發シ已ニ論決ヲ經タルモノニ付名例律二罪俱發以重論條凡二罪以上俱ニ發覺スレハ一ノ重キ者ヲ以テ論シ各等キハ一ニ從テ科ス若シ一罪先キニ發シ已ニ論決ヲ經テ餘罪後ニ發シ輕ク若クハ等キハ論スル「勿レトアル」ニ因テ處斷スヘキモノトス故ニ高知裁判所管內脇町區裁判所ニ於テ壽八郎ヲシテ江崎彌太郎ノ相續ナサシメタル罪ヲ不應爲輕即懲役三十日ノ贖罪金貳圓廿五錢ニ擬シタルハ其當ヲ得ルモ已ニ論決ヲ經タル前罪ヲ推究セシテ直チニ贖罪金ヲ科シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年八月廿日高知裁判所管內脇町區裁判所ニ於テ江崎周堅ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

右ハ前ニ辨明スル如シナルニ因リ名例律二罪俱發以重論條ニ照シ其罪ヲ論セス

江崎周堅

第六百二十七號

○判文（詐欺取財ノ件）明治十三年八月九日上告
明治十三年十月二日判決

福岡縣筑前國那珂郡住吉村

右義巳ニ明治十三年七月三十日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀明治十三年六月上旬宇美村入江新次方ニ宿泊シ其止宿料ヲ不拂逃走スルノミナラス尚同人ヨリ蝙蝠傘壹本欺キ取ル科賊盜律詐欺取財條ニ依リ贓金壹圓以下除族ノ上懲役五十日申付ル

永島義巳ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年八月九日大審院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

自分儀明治十三年六月上旬日不覺筑前國福岡區福岡船津町士族上野定雄ヨリ金子取引ノ儀ニ付同國粕屋郡障子岳村平民安武清市ヘ書簡送達致シ呉候樣依賴致ニヨリ則チ明治十三年六月上旬福岡出發同村安武清市方ヘ罷越書簡正ニ送附致シ同日暮ニ及ヒ候條同國同郡宇美村平民宿屋渡世入江新次ハ兼テ存シ居ル者ニ付同家ヘ一泊仕酒肴等少々相用翌日仕拂フベク旨促シ候處持合ノ金員ニテハ何分不足ヲ生シ候條障子岳村安武清市ヨリ金員借用致シ相拂フヘク存意ニテ宇美村宿所ヨリ使差立候處遂ニ其儀モ相運兼候條圖ラスモ三泊ニ及ヒ候次第ナリ然ル處出發ノ際ニ當リ止宿料ヲ相尋レバ一泊止宿料金拾八錢都合三泊止宿料金五拾四錢ナル儀申向ケ候條內場金貳拾錢ハ宿主入江新次ヘ正ニ相渡ス殘金ハ歸宅ノ上自分持參相拂ヘク旨申入タルニ異變ナク承諾致シタリ最止宿中酒肴等相用候分ハ別途自金ヲ以テ償却致シ候義ナリ將タ宿屋出發ノ際炎暑ニテ何分難相凌候ニ付新次要ニ傘借用致度旨相談ニ及ヒタレハ快ク蝙蝠傘ヲ貸渡シ素ヨリ新次モ承知罷在候得ハ自分ニ於テモ何意ナク歸宅ノ上傘殘金一同返還致ヘクト口約致置候歸路朋友筑前國那珂郡春吉村士族矢柄强太郎方ヘ立寄同方ヘ蝙蝠傘ハ預ケ置キ歸村直チニ右殘金調達ノ儀ニ專ラ心配仕居候處或日福岡區福岡因幡丁探偵懸リ知已貫猷方ヘ要用アッテ罷越候折節探偵懸リ某推參致サレ突然自分儀ヲ拘引ニ相成福岡警察署ニ罷越候處入江新次ヘ係リ止宿料不拂逃走シ且ツ蝙蝠傘ヲ欺キ取タル段圖ラサリキ御審問ヲ蒙リ甚以テ當惑罷在自分儀ハ前顯ノ通リニテ曾テ止宿料ヲ不拂逃走シ蝙蝠傘ヲ詐欺シタル覺無之本人相對熟談ノ上借用シタル儀ナレハ廉潔ナル儀ト相心得毫末モ欺キ取ルノ思慮無之且ツ逃走等ノ陰謀ハ決シテ無之ニ豈圖ランヤ別紙寫ノ通リ御裁判則チ明治十三年七月三十日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ受ケタルハ不當ノ御裁判ト認メ候條更ニ至當ノ御裁判奉仰候也

大審院ニ於テ裁判スル左ノ如シ

辨明

義巳ニ於テハ前記ノ如ク申立ルト雖抑口供ハ犯人ノ申供スル所ヲ記載スルモノナレバ口供讀聞ノ時相違ノ廉アリト思量セハ即時申立改正ヲ求ム可ク自ラ犯サヽル罪狀ヲ記載アル口供ニ拇印ス可キ筈ナク又官吏ニ於テモ本人カ供出シタル所ト其事實ト相違ノ口供ヲ記載シ拇印セシム可キ條理ナシトス然ルニ義巳ハ明治十三年七月二日福岡縣警部ノ面前ニ於テ〔粕屋郡宇美村姓名不知旅舍ヘ一泊スルノ積ニテ金貳拾錢ヲ家主ヘ差出シ是ニテ

泊ラセ呉レヨト相談シ其儘逗々ニ三泊シタルニ依リ終ニ金三四拾錢モ宿料ノ拂不足相立タレトモ返金スルノ目的モナク困迫ノ餘リ不都合ノ所業トハ被存宿拂ノ出來サルヨリ無據逃走セントスルモ好キ間合モナク困却ヲ極メ偽ハリテ家主ヘ向ヒ今ヨリ障子岳村ヘ罷越スヘクニ付キ傘壹本ヲ借用致シ度ト相談シタル處蝙蝠傘壹本ヲ貸與ヘタルヲ幸ヒトシテ該家ヲ立出直チニ歸宿シ蝙蝠傘ハ那珂郡春吉村字三番丁矢柄强太郎方ヘ預ケ置キ其後素知ラス躰ニテ罷在候云々〕トアル口供ニ拇印セシノミナラス尙又明治十三年七月八日警部ノ面前ニ於テモ〔右口供ノ通リ粕屋郡宇美村當時姓命不知入江新次方ニ止宿シ止宿料ヲ拂ハス且蝙蝠傘壹本借受ケ障子岳村迄參ルヘキ旨申欺キ該家逃走シタルニ相違無之云々〕トアル口供ニモ拇印シテ既ニ其罪ヲ自認シタリ加之義已カ犯狀ハ事主入江新次カ差出シタル始末書ニ符合スルヲ觀レハ證憑明白ナリトス故ニ長崎裁判所福岡支廳ニ於テ詐欺取財條ニ依リ贓金壹圓以下除族ノ上懲役五十日ニ處シタルハ適當ノ裁判ナルヲ以義已カ申立ハ相立サル申立ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以明治十三年七月三十日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ永島義已ニ申渡シタル裁判ヲ破毀ス可キ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第六百二十八號

○判文〔不應爲ノ件〕明治十三年八月廿七日上告
明治十三年十月二日判決

埼玉縣武藏國新座郡志木宿

百九十二番地平民　三上七十郎

右七十郎カ明治十三年八月十四日靜岡裁判所濱松支廳紀問懸ニ於テ爲シタル口供左ノ如シ

自分儀學問修業ノ爲メ明治十一年ノ冬本國ヲ立出攝州大坂和州郡山邊遊歷イタシ明治十二年十二月中歸國シ明治十三年三月央頃再ヒ國許出立尾州名古屋本町五丁目旅店丸屋治兵衛方ニ止宿中尾州三州邊處々招待ニ應シ演說イタシ明治十三年六月下旬當濱松宿ニ於テ演說ヲ開キ七月十二日頃即明治十三年長上郡掛塚村ニ相越シ同月十六日頃即明治十三年七月豐田郡二俣村ニテ演說シ續ヒテ廿二日ヨリ廿四日マテ山名郡袋井宿ニ廿五日ヨリ二十八日マテハ磐田郡見附宿ニ演說開會ノ積ニテ明治十三年七月十八九日頃ト覺ヘ二俣村ニ於テ山名郡川井村永井定勝ヲ自分代理トシ二十二日ヨリ二十四日マテ袋井宿太田榮太郎方ニ於テ演說開會ノ事項屆書ヲ見附警察署ヘ差出サシメ又見附宿夏山彌平ヲ代理トシテ二十五日ヨリ二十八日マテ見附宿劇場ニ於テ演說イタシ候段是亦事項屆書ヲ同警察署ヘ差出サシメ候處代人ニテハ受付不相成ニ付本人出頭イタシ候樣警察署ニ於テ被命候趣報知ニ付即七月二十一日明治十三年自分義見附警察署ヘ出頭候處一應自分ノ履歷ヲ尋ヲラレ並ニ演說事項中一二質問ノ廉アリ且該屆書ニ開場持主ノ連署ヲ要スル旨被申聞候ニ付抑モ開場持主ノ連署スルト云フハ集會條例ニモ明文ナキヲ以テ一應其旨意ヲ相伺候處劇場規則ニ依リ連署セシムルモノナリトノ說明ニ付然ラハ演說ノ儀ニ付テハ別ニ規則モ無之義ニ付持主ヨ

リハ別ニ届書ヲ呈スヘシ自分ヨリ差出シタル届書ハ此儘受理相成度申入候處聞届ケニ相成候ヘ共是ヨリ曩キ袋井宿ニ於テ開會届出ノ儀ニ付自分代理人永井定勝ヨリ届書ヲ呈セシニ其日明治十三年七月十八九日頃午十二時頃ニ相成候由然ルニ警察署ニ於テハ同日明治十三年七月十八九日頃受付無之明日明治十三年七月持參スヘシト被命候ニ付定勝儀其翌日明治十三年七月再ヒ出頭候處席貸人出頭候樣トノフニ付袋井宿太田榮太郎代人出頭セシ由ノ處尚亦演説者本人出頭候樣ニ被命候ニ付七月二十三日明治十三年自分儀見附警察署ヘ出頭署長ニ面謁シ最前ノ届書ニ席貸人ノ連署無ニ付受付難相成旨ニ候ヘ共抑モ席貸人連署ニ非レハ届書ヲ受付ケスト云フノ法律ナキヲ以テ假令其連署ナクトモ採用セラレ可然存スル旨相伺候處素ヨリ連署スヘシト云法律ハナシト雖モ連署セストモ無差支旨ノ法文モナケレハ連署ヲ要スルト要セサルトハ署長ノ腦髓ニアリト被申候ニ付署長ト雖モ法律ヲ新ニ拵ラヘ人民ニ其通リセヨト命セラルヘキ權ハアルマシト押返シ質問ノ末結局連署ヲナサス席貸人ハ別ニ届書ヲ呈スルフニ申入レ退散イタシ右等彼是ニテ袋井宿ノ開會ハ兼テ定メタル期日ニ間ニ合ハサルニ付先ツ見附宿ヲ先ニシ後ニ袋井ニ於テ開會セント同二十五日明治十三年七月ヨリ見附宿劇場西坂町磐田座ニ於テ演説開會イタシ同日明治十三年七月廿五日夜十時過夢ノ説ト云ヲ演説シ夾ハシヲ出張警察官ヨリ停止ヲ命セラレ尚其演説ノ主意ヲ書面ニ認メ差出スヘシトノ達ニ付始末書ヲ差出シタル處拘留相成候事

見附警察署ノ捕造並警察官巡査等ノ擬樣目擊ノ次第御尋ノ處先ツ警察署ハ門ノ柱ヲ白塗ニシテ上ニランプヲ設ケ柵モ白塗ナリ玄關ノ正面ニ菊御紋ヲ付ケ障子ハ不殘ガラスナリ柵内ニ樹木モ少々植付アリト存シ候警官ハ黑キ上衣ニテヅボンモ黑ノ樣ニ覺ヘ劍ハ帶ヒス應接中側ニ巡査一人陪座セリ巡査ハ黄筋入ノ服ヲ着シ居リ候事

明治十三年七月二十六日夜自分演説中昨夜夢ニ一奇國ニ到ル此國至テ温飩屋多ク一兩人予ニ温飩ヲ食センフヲ勸ム依テ共ニ温飩屋ニ至リシニ日本ノ温飩屋トハ全ク其趣キヲ異ニシ外圍ハ白クシテ多ク草木ヲ養ヒ其職人ハ皆棒ヲ携ヘリ之レ其温飩ヲ製ス爲メナラン其番頭ハ盡ク劍ノ如キモノヲ持テリ之レ其温飩ヲ切ル爲メナラン又タ此温飩屋ヲ人呼テ黄筋屋甚三郎出張警官巡査聽衆ニハト曰フ蓋シ職人ノ着服ニ黄筋アル故ナラン而メ其職人番頭ハ客ヲ待スル甚タ無禮ニシテ動モスレハ客ヲ罵ル且時間ニヨリテ商業ヲ爲ス者ニシテ予輩ノ到リシハ十二時頃ナリシカ十一時後ハ一切温飩ヲ賣ラサル旨ヲ以テ斷ハラレタリ豈ニ奇ナル温飩屋ナラスヤ然レトモ予輩ハ温飩ヲ食セントスル慾心猶ホ止マス明日重ヲテ到リシニ此度ハ若シ温飩カ買ヒタクハ知己ノ奥印ヲ以テ來ルヘシ否ラサレハ一切温飩ヲ賣ラスト予輩ハ思フニ日本ノ温飩屋ノ如キハ如此繁勞ナシ然ルニ此温飩屋ハ知己ノ奥印ナケレハ温飩ヲ賣ラサルハ甚タ不審ナリト依テ此等ノ手續キヲ爲サヽレハ温飩ヲ賣ルヘカラストノ一定ノ規則アルヤト問ヒシニ別ニ一定ノ規則ハナケレトモハ腹中ノ規則ナリト嗚呼之レ何ノ言ソヤ腹中ノ規則ヲ以テ他人ヲ制ス他人ノ迷惑此上ナシ然レトモ之レ憂ノフナレハ仕合ナレトモ若シ警察署抔ニシテ如斯アレハ人民ノ迷惑如何ソヤ扨テ此職人ノ給金ハ甚タ廉ニシテ大抵六圓以上拾五圓以下位ノ者ニシテ夫レ故カ無學無智ノ者極メテ多シト右樣演説ニ及ヒシハ則チ見附警察署ヲ温飩屋ニナソラヘ同署ノ警官巡査ヲ罵詈

セシモノナリト御糺問ヲ蒙リ候ヘ共自分演説ノ精神ハ夢ハ想像ノ力アルヲ説キタルモノニシテ其例トシテ昨夜夢ニ由テ天道ノ正直ナルヲ發明シタルヲ擧ケタルモノニ御座候然レトモ央ニシテ停止セラレ其精神ノアル所ヲ説キ了ル能ハサリシト雖モ全ク夢ニ由テ天道ノ正直ナルヲ發明シ喜ニ堪ヘスシテ直ニ演説セシ義ヲ警官巡査ヲ罵詈セシ如ク聞ヘ候哉ハ不存候ヘ共是ハ演説者ノ罪ニ非ス聽ク人ノヒガメルナリ如何トナレハ假令ハ赤キ色ヲ朱ノ如シト云ヒタリトテ朱ナリトスルハ非ナリ又男女同權ト説キタルヲ聞キテ夫婦喧嘩ノ際夫カ婦ヲ毆チタリトテ婦モ亦夫ヲ毆チテヨシト解スルハ是亦聽ク人ノ心得違ニシテ自分カ夢ニ見タリト説キタル温飩屋ノ景況警察署ニ似タリトテ警部巡査ヲ罵詈セシト思量スルモ聽ク人ノヒガメルナリト存シ候間右夢ノ説ハ自分ニ於テ罪アリトハ思量不仕且自分ノ罪アリト思量セサル子細ハ精神ノ異ナル所ニ在リ假令ハ團々珍聞ノ如キ政府ヲ罵ルニ似タルヲモ許多掲載シアリト雖モ政府ニ於テ之ヲ咎メサルハ是其精神ノ異ナル所以ナリ又造化機論ノ如キ甚シキ猥褻ノヲヲ記載スト雖モ春畫ノ類ト精神ヲ異ニスルヲ以テ差停メラレサル所以ナリ抑モ自分ノ演説モ警官巡査ヲ罵詈スルノ精神ニアラス夢ニ由テ天道ノ正直ナルヲ發明シ夢ハ想像ノ力アルト云説ノ異ナルヲ知リタルトノ演説ノ精神トイタシ候義ニ付御諫察ヲ仰キ候又自分カ演説央ニシテ警官ヨリ停止セラレタルハ最モ了解シ難シト存候何トナレハ演説ハ文章ト同シク一篇ノ首尾ヲ熟讀セサレハ其精神在ル所ヲ知ル不能然ルヲ演説半ニシテ差停ラレタルハ抑モ警官ハ如何シテ罵詈スルト認メラレタルヤ自分ニ於テ了解不仕候事

右ノ口供ニ依リ明治十三年八月二十五日静岡裁判所濱松支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十三年七月二十五日遠江國見附宿磐田座ニ於テ説キタル夢ニ一奇國ニ到ル云々ノ演説ハ未タ全局ヲ結了セサルヲ以テ該説ノ精神ハ何レノ點ニ在ルヲ知ルニ由ナク因テ警察官吏ノ行事ヲ譏毀嘲罵セシモノト見認メ難シ況ンヤ公衆ニ向テ之レヲ揚言スルモノハ法憲ニ觸レサルヲ以テ搆ナシ

静岡縣濱松警察署詰同縣六等警部伊藤泰敎ニ於テハ明治十三年八月二十七日右ノ裁判ヲ不法ナリトシ司法卿ヲ經由シ明治十三年九月十七日大審院撿事ヨリ送付スル上告狀左ノ如シ

三上七十郎

右ノ者明治十三年七月二十五日遠江國磐田郡見附驛劇場ニ於テ夢物語ト題シ出張警察官ヲ罵詈嘲哢セシ演舌ヲ爲シタルニ付静岡縣見附警察署詰九等警部市川久義外一人ヨリ告訴スルヲ以テ同署ヨリ送付依テ一應静岡裁判所濱松支廳糾問係ノ糺問ヲ求メ明治十三年八月十八日演舌中警察署抔ニシテ如斯アレハ云々無智無學ノ者極メテ多シトハ正ニ出張警察官ヲ罵詈嘲哢スルヲ以テ改定律例第二百三十四條同第二百三十七條名例律二罪俱發條ニ依リ懲役六十日ノ見込ヲ以テ静岡裁判所濱松支廳ヘ求刑候處明治十三年八月二十五日左ノ通宣告相成タリ

〔宣告文略之〕

然ルニ該裁判ノ趣意ハ演舌ノ結了セス説ノ精神何レノ點ニ在ルヲ知ルヲシト公衆ニ向テ揚言スル者ハ法律ニ明文ナシトナリ第一項ノ趣意ニ依テ之レヲ見レハ説ノ精神ニノミ拘

泥スル者カ畢竟法律ハ無形無聲等ノ精神ニ施ス者カ否其言語動作人ノ損害ヲ受クル者ニ施スハ言ヲ俟タス出張警察官及公衆ニ向テ該官ヲ適切ニ無智無學云々ト揚言スレハ該官ニ於テ汚辱ヲ蒙リ榮譽ヲ害セシル、亦甚シ然ルヲ單ニ被告ノ供述ニ精神ハ云々ト目觀ルナシ耳聞クナキノ遁辭ニ就キ其外形ニ彰々タル人ノ榮譽ヲ害シタル言語ヲ捨テ裁判スルハ不當ノ裁判ト言ハサルヲ得ス況ンヤ兩人ノ證據人アルニ於テヲヤ且第二項公衆ニ向テ之ヲ揚言スルモノハ云々之ヲ揚言スルト之ノ字ハ何等ノ代名詞ナルヤ何レノ點ニアルカ知レサル精神ヲ指ス者トモ難見做定テ演舌中ノ若警察署ニシテ云々ノ點ヲ指ス者ナラン果シテ然ラハ該場ニハ公衆ノミナラス殊更ニ二名警察官出張スレハ均シク該官ニ對シテ罵詈嘲弄ヲ爲セシ者ナリ該裁判ノ趣意ニ依テ之ヲ見レハ甲人アリ乙人ニ愚ナリ痴ナリト云フ乙人之ヲ怒ル甲人曰ク言語終ラス後ニ賢ナリ智ナリト云フ精神ナリト云フカ如シ既ニ一度受ケタル汚辱ハ云々ノ精神ト云フヲ以テ挽回スヘキ者ニ非ス誰カ之ヲ許サンヤ故ニ靜岡裁判所濱松支廳ノ宣告ハ不當ノ裁判ト思量候條明治十年第十九號公布ニ依リ此段上告仕候也

辨明

被告三上七十郎カ明治十三年七月二十五日遠江國磐田郡見附驛劇場ニ於テ夢ニ一奇國ニ到ル云々ノ演說ハ出張官吏ニ對シ罵詈セシ者ニハ非スト雖モ暗ニ見附警察署ヲ溫飽屋ニ擬シ被告カ曩ニ袋井宿ニ於テ演說會ヲ爲スノ屆書ヲ同署ニ出セシ件ノ顚末ヲ誹議シタルハ假令其說ヲ終ヘサルモ判然タルニ因リ律令ニ正條ナシト雖モ情理ニ於テ爲スヲ得應カラサル事ナルヲ以テ不應爲條ニ問擬スヘキモノトス然ルヲ靜岡裁判所濱松支廳ニ於テ法憲ニ觸レサルヲ以テ擯ナシト中渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルニ依リ明治十三年八月二十五日靜岡裁判所濱松支廳ニ於テ三上七十郎ヘ申渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

三上七十郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ雜犯律不應爲條不應爲輕ニ問ヒ懲役三十日贖ヲ聽シ贖罪金貳圓貳拾五錢

第六百二十九號

○判文（竊盜三犯ノ件）明治十三年七月廿日上告
明治十三年十月四日判決

兵庫縣播磨國印南郡牛谷村
平民
谷山恒太郎
明治十三年七月
三十四年九ケ月

明治十三年七月十四日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ左ノ如ク裁判ノ言渡ヲ受タリ

其方儀明治十三年五月二十二日夜捕獲ノ際着用シタル衣類四點ハ酒井福藏宅ニテ作劫出生文助ヨリ典賣ノ依賴ヲ受ケ岩邊佐太郎ヨリ請取リ「ナイフ」ハ岸藤助ヨリ質受ケタル旨供出スト雖モ各證人ノ口供ト事實背馳スルノミナラス贓證並ニ犯罪前后ノ景況ニ依リ同

國飾東郡南八代村内藤彌平宅ニ忍入リ或ハ河間町前田和三郎宅ニテ藤助等ノ知ラサルニ乘シ右衣類四點外十六點ヲ竊取シタルモノト確認セリ因テ右科賊盜律竊盜條竊盜三犯班金五拾圓以下ナルヲ以テ懲役十年ノ處情法ヲ酌量シ一等ヲ減シ懲役七年申付ル

谷山恒太郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年七月二十日本院ニ上告ノ要領左ノ如シ

廿二日ノ夜ハ酒井福藏方ヘ宿泊シタルニ相違之レナク然ルニ佐太郎ト對質ノ請求モ採用ナクシテ内藤彌平方ヘ忍入リ盜取シタルハ自分ナリト係リ官ニ於テ見認メラレタルハ不法ナリトノ事

辨明

原裁判所ノ簿記ヲ渉獵スルニ酒井「ミノ」及ヒ渡邊作左衛門等ノ口供ヲ閲スルニ上告人恒太郎ハ五月廿二日ノ夜中其止宿所ヲ立チ出テタル事實ヲ陳述シ又タ捕縛景況書ニ依ルモ恒太郎ハ現在内藤彌平カ盜取セラレタル衣類ヲ五月廿二日ノ夜重襲シ居タリト然リ而シテ事主内藤彌平ノ盜難届書ノ時日ニモ亦符合シ且岩邊佐太郎カ申供ニモ佐太郎ハ恒太郎ヘ贓物ヲ交付シタリトノ申供ナシ左スレハ原裁判所カ恒太郎カ竊盜ノ犯跡明白ナリト心證ヲ定メ佐太郎ト對質ヲ要セス直チニ賊盜律竊盜條竊盜三犯班金五拾圓以下懲役十年情法ヲ酌量シ一等ヲ減シ懲役七年ト宣告シタル裁判ニ付敢テ不當トナスヲ得ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年七月十三日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ谷山恒太郎ニ言渡シタル裁判ハ破毀ス可キ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノ也

第六百三十號

○判文（證券印税犯則ノ件）明治十三年八月一日上告
明治十三年十月四日判決

開拓使渡島國亀田郡函館區
東濱町七拾七番地平民
金澤彌惣兵衛
明治十三年七月
四十三年十一ヶ月

右彌惣兵衛カ明治十三年七月廿一日函館裁判所ニ差出シタル始末書左ノ如シ

右者本年一月中浦川產鹽引鮭凡貳百石目餘山本己之助ヘ賣渡候節約定證書ニ貳拾錢印紙貼用相渡候始末今般更ニ刑事御課ニ於テ再度御尋問ノ上始末書ヲ以テ可申上旨御申渡ニ付左ニ

私儀本年一月二十日山本己之助ヘ賣渡候目的ハ大榮丸積來ノ浦川產鹽鮭ニテ量目ハ貳百五拾石目餘直段壹圓ニ付撰並ノ兩品ハ鮭六本ノ分キス、ヒン、（方言）ノ兩品ハ三割下ケ即チ八本壹分九厘ニ候得ハ貳百五拾石目餘ノ本數ハ豫定相成候得トモ其代價金員ハ前后確定不相成候ニ付請取候約定則證據金貳百圓ニ相當ノ印紙貼用消印ノ上證書授受致候得ハ脫税ノ廉無御座旨本年六月廿八日附ノ始末書ヲ以テ奉申上候處今般御呼出ノ上該賣買ノ儀ハ貳百五拾石目餘ノ本數壹万五千百六拾本ノ鹽鮭直段壹圓ニ付六本三分ニ候得トモ往々キス、ヒン、等ノ物品混淆シアル者ニ付若シ万ヶ一右兩品有之ハ三割直引シテ賣買可

致旨ノ約束ト御法則ニ於テ御見做相成候得ハ正則ハ六本三分ニテ三割直引ハ變則ニ付六本三分ノ直段ニテ壹万五千百六拾本ノ物品ヲ扣除算出シ代價金員貳百四拾圓六拾三錢四厘九毛ニ相當ノ印紙貼用可致義當然ノ道理ナリ若シ然レトモ本數ノ中ニ於テ心定有之者ト做サハ三割直引ニ付本數ノ中ニ於テ三割方ノ混淆ト見做サヽルヲ得ス果シテ然ル時ハ本數ノ中三割方ヲ扣除シテ殘ル本數ハ六本三分扣除シタル三割方ノ本數ハ八本壹分九厘ノ割合ニテ代價算出シ相當ノ印紙貼用セサル可カラサル理由ナル旨御申渡ニ候得トモ靑物屋ニテ大根ヲ買ヒ太物店ニテ反物購フカ如キ逸々物品ヲ點檢シ眞否ヲ撰拔シテ后賣買ノ約束ヲ取結者ニ非ラス若シ然ルモ之レノ手數ヲ盡ス者ト做サハ壹艘ニ積載ノ物品モ夥多ノ義ニ付賣買ヲ爲スニ際シ幾百返モ點檢ノ手數ヲ煩ハサヽル可カラス果シテ然ルトキハ點檢ノ場所ナキハ勿論物品ノ價格ヲ落シ入費ヲ嵩マシ時日ヲ移ス而已ナラス或ハ腐敗ニ屬シ或ハ紛失ヲ釀ス如キ情實ナル者ニテ到底賣買ノ結了ヲナスニ至ラサルハ衆人ノ得テ了知スル處ニシテ而シテ如此迂濶ナル賣買ヲ爲ス者之レナキハ亦諸人ノ輙ク詳知セラル、處ナリ玆ニ因テ當地舊來物産ノ賣買ハ或ハ增毛或ハ浦川或ハ根室等每年收獲ノ産物ニテ毛色並ニヒン等ノ品格ハ兼テ詳知シアル者ニ付一應物品ヲ點檢シ毛色ノ物質ヲ概覽シキス、ヒンノ品体モ略算シテ撰品並品キス、ヒン品ノ三等ヲ區別シ撰品ハ並品ヨリ三割上キス、ヒン品ハ三割下ケトナシ或ハ區別セスシテ上下三等ヲ打込ミトナシ賣買ノ約束ヲ取結ヒ物品請取渡ヲ結了スルニ前項ノ場合ニ於テハ物品ノ中撰品ハ幾件ニテキス、ヒン品ハ許多ナルヤ並品ハ幾多混淆シアル乎前后豫定ス可カラサルヨリ其代金ノ員數モ確定難相成義ニ付約定證書ヘハ壹錢ノ印紙ヲ貼用スル乎或ハ約定金有之節ハ該金相當ノ印紙ヲ貼用シテ證書ヲ授受シ置追テ物品請渡ノ際相方立會ノ上寸尺ヲ謀リ壹尺八寸以下ハヒン品トシ壹尺六寸以下ハヒンノ撰トナシ壹尺八寸以上ヲ撰トシ貳尺以上ヲ眞撰トナシテ請渡ヲ結了シ而シテ後代價ヲ精算シ仕切狀ヲ作爲シ代價相當ノ印紙貼用ノ上代金引替授受スル者ニテ後項ノ場合ニ於テハ之レニ反シ上下三等ノ物品混淆ニテ賣買セル者ナレハ前后代金確定シ得ル者ニ付約束證書ヘ代價記載シ金員相當ノ印紙貼用ノ授受スル一般ノ舊慣ニテ普通ノ道理タリ本件ノ如キモ前項ノ賣買ニテ二等ニ區別シタル者ニテキス、ヒン品ハ決メナキ者ト做スニ非ス必ス乎混淆シアル者ナルハ相方ニ於テ篤ト詳知シアル者ニ付三割直引ノ約定アル而已ナラス約定證書ニ於テモ現ニ若シ万ケ一之レアル節ハ云々ノ明文ナキヲ以テ觀ルモ正則變則ヲ區別シタル者ニ非スシテ兩樣ニ直段シアルハ明瞭タリ且約定物品ノ中ニ於テキス、ヒン品ハ凡三割方ノ混淆ト見做ス可キニ非ス三割直引直上ハ物産賣買上一般ノ舊慣ニテ直上ハ直下ヲ平均メ凡上下三等ノ區別ヲ概畧等一ナル者トノ商算ヨリ出ツル者ナリ然レトモ牽强メ若シアリシ者ト見做スモ豫定ノ目算ニテ確定ノ決算ニ非サレハ之ヲ區別メ代價ヲ取極メサル可カラサルトノ道理ハ御座有間敷候然ハ則本件賣買約定ノ如キハ前后直段ハ確定シアルモ代價ハ豫定シ得可カラサルハ明瞭タリシト雖モ御稅則上ニ於テハ過剩ハ犯則ニ觸レス不足ハ脫稅ニ罹ル御法則ニ付譬ヘ豫定ナシ雖キモ强テ代價ヲ豫定セサル可カラス若シ豫定スルモ確定ノ時日ニ至リ加除セサレハ亦犯則ニ觸レ脫稅ニ罹ルトノ御法理ニハ之レアル間敷義ト奉存候ニ付彌惣兵衛ニ於テハ本

年六月二十日日付ノ始末書ヲ以テ申立ル如ク脫稅ニ罹ラス犯則ニ觸レサル者ト奉確眞候」

明治十三年七月廿三日函館裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀當明治十三年一月中鹽鮭壹万五千百六拾本價金貳千四百六圓餘ヲ以テ山本己之助小中治右衛門ヘ賣拂フ定約ノ際手金貳百圓ヲ受取リ該證書ニ貳圓四拾錢ノ證劵印紙ヲ貼用スヘキ所貳拾錢ノ印紙ヲ貼用シテ渡シ與ヘ該品ノ創及ヒ品等未タ點檢セサルニ於テ金員モ亦豫定ナル〔原ノ〕旨供述スト雖ヒ固ト該品ノ前數ハ確定ニテ創及ヒ品等ノ優劣ヲ生スルハ却テ未定ニ屬スルヲ以テ明治八年第五十一號布告改正證劵罰則第七條ニ依リ減稅高ノ十倍科料金貳拾貳圓申付ル

金澤彌惣兵衛ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年八月九日大審院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

第一條

函館御裁判所ノ御處罰ニ服從ナシ難キ趣意ヲ伸暢スルニ先タチ當地ニ於テ商人相互ニ產物賣買ノ手續ヲ陳述シ服從ナシ難キ點頭ノ禆補ニ供セン夫レ商人相互ニ產物ヲ賣買スルニ際テハ數年ノ功績ヲ以テ物品収獲ノ土地ニ就キ舊來出產ノ摸樣ニ依リ毛色〔正白黑班〕ノ物質若干ヨリ大小〔方言壹尺八寸以上ヲ撰ト云ヒ貳尺以上ハ精撰ト云フ壹尺八寸以下ヲヒシト稱ヘ壹尺六寸以下ヲヒンノ撰ト稱フ〕ノ物体幾許アル事ハ豫メ了知シ得ルカ故ニ最初ニ於テ逐巡ニ物品ヲ點檢シ良否ヲ撰拔シテ賣買ヲ約定スル者ニアラス唯單ニ物品積載ノ船舶又ハ倉庫ニ就キ上並並ニ周圍ヨリ一應ノ臨檢ヲ經タル上ニテ上品〔撰品ヲ云フ則チ壹尺八寸以上ナリ〕下品〔疵ヒンノ兩品ヲ云フヒンハ壹尺八寸以下ナリ〕ヲ打込ミ良否ヲ混淆スルアリ或ハ二等三等ニ區別シ中品〔通常品ナリ〕ヨリ上品ハ三割直揚ケ下品ハ却テ三割直引トナシ直段ヲ取極メ賣買ヲ約束シ證書ヲ交換スルニ前項ノ場合ニ於テハ上下等品共混淆ニテ價格ヲ定ムル者ナレハ代價ノ金高ハ前后確定シ得ル者ニ付價格ヨリ代價金高ニ至ル迄詳細ニ記載シ相當ノ印紙ヲ貼用スルト雖モ之レニ反シテ後項ノ場合ニ於テハ大小良否ハ區別シ直段ヲ極ムルカ故ニ上品ハ幾許ニテ下品ハ許多ノ混淆ナルヤ前后豫定シ得可カラサレハ隨テ代價全金モ確定シ能ハサル者ニ付直段ハ記載スルモ代價ノ全金ハ記載シ得ヘカラサルニ依リ壹錢印紙ヲ貼用スルカ或ハ約定金員ヲ授受スル時ニ於テハ其金員相當ノ印紙ヲ貼用シ置キ追テ物品請渡ノ際相方ノ立會ニテ尺度ヲ謀リ點檢ヲ經タル上漸ク上品ハ幾許ニテ下品ノ許多ニ混淆シアリシ事ヲ覺擧シ初メテ代價全金ヲ了知シ得ル者ニシテ而シテ后チ仕切狀ヲ調製シ全價金高相當ノ印紙貼用代價金員ト交換授受シテ全ク賣買ヲ結了スル北海道一般ノ舊慣ニシテ實地ノ景況タリ如斯賣買ノ最初ニ於テハ品ノ優劣物ノ大小ハ必定アル者ト確定スルモ幾許ノ優劣ニシテ許多ノ大小アルヤ豫定シ得可カラス物品請渡ノ最後ニ於テ初メテ之レノ如何ヲ詳カニ了知シ得ル者ナリ

第二條

本件賣買ノ如キハ前條賣買手續中後項ノ方法ニ準據セル者ニテ則チ賣買ノ目的タル鹽鮭凡貳百五拾石目余此本數凡壹万五千百六拾本ト豫定シアルモ直段ハ壹圓ニ付撰並ノ兩品ハ六本三分ニテ疵ヒンノ兩品ハ三割直引則チ八本壹歩九厘ト兩樣ニ區別シタレハ賣買本

數ノ中撰並ノ兩品ハ幾許ニテ疵ヒンノ兩品ハ許多ノ混淆アリシヤ前后豫定シ得可カラサルヨリ隨テ代價全金モ確定シ能ハス故ニ入手セシ約定則チ證據金員相當ノ印紙ヲ貼用セシ上ハ犯則ニ觸レス脫稅ニ罹ラサル者ト確認シアルニ函館御裁判所ニ於テハ該品ノ全數ハ確定ニテ創及ヒ品等ヲ優劣ヲ生スルハ却テ未定ニ屬セル者ト信認スト御決斷サルヽト雖モ物ノ大小品ノ優劣アルハ普通ノ公法一般ノ道理タルニ函館御裁判所ハ何ノ道理アツテ以テ該品ニ而已限リ等一ノ者ニテ等差ナキ物品ト爲シタル乎請渡後ノ當時ニ際リ現ニ壹万五千零拾七本ノ中壹万三千五百六拾本〔撰並ノ兩品〕ト壹千四百五拾七本〔ヒン品〕トノ優劣ヲ釀生シタルヲ以テ觀ルモ等一ノ者ニテ等差ナキ者ト爲スヲ得可カラサル事明瞭タラン然ラハ則請渡前ノ當時ニ於テハ創及ヒ品等ノ優劣ヲ生スルハ未定ニ屬スルニ非スシテ必ス乎等差ヲ釀スハ確定ニ存スルト雖モ之レノ幾許多少ナル事ヲ豫定シ能ハサルハ論ヲ俟タスシテ而シテ兩樣ニ直段セシトノ感覺ヲ發起ス可シ然ルニ函館裁判所ハ牽强附會シ物品ノ等差ナクシテ壹樣ニ價格ナシタルモ若シ万ケ一等差アリシトキハ直引ナル價格ヲ特約ナセシ者ト爲ス乎脫稅ナリト處罰サレタルハ御稅則上過剩ハ犯則ニ觸レス不足ハ脫稅ニ罹ルトノ御法理ナルモ此レハ是レ確定ノ塲合ヲ指シ未定ノ約定ヲ示スニ非サル者ニテ假令豫定ナシ難キ約束モ强テ豫定セサル可カラス若シ豫定スルモ確定ノ時日ニ至リ加除セサレハ尙犯則ニ觸レ脫稅ニ罹ルトノ御法理ニハ之レ無キ者ト確認スルニ依リ不當モ亦甚敵者ニテ服從ナシ難キ趣意タリ

第三條

本件ノ賣買ハ小中治右衛門ノ申立ニテ山本己之助ヘ賣渡ノ約定ナリ既ニ彌惣兵衛ヨリ己之助及ヒ扱人ノ名稱ニテ治右衛門ト兩名ニ充タル證書ハ勿論民事御裁判上ニ於テモ三名ノ供述ニテ判然タルニ函館御裁判所ハ山本己之助小中治右衛門ヘ賣拂ヲ定約ノ際云々ト決斷サレタルハ蓋シ民事御裁判上ノ感覺ヲ起サシメントノ故造ナルニアラスシテ却テ御訊問ノ疎漏ニ出タル過誤ナラント想像スルモ現ニ兩人ヘ賣渡シタル者ト斷決サレシ上ハ或ハ民事御裁判上ニ於テノ感覺ヲ來タサヽル者ト保證シ能ハサルヲ以テ假令誤謬ニ出タル者ト做スモ彌惣兵衛ニ於テハ服從爲シ難キ義ニ付破毀ヲ上請スル者ナリ右ノ理由ニ付上告仕候間厚ク御審理ノ上至正ノ御裁斷奉仰候以上

上告ノ主點

第一　品高ニ依テ代價ハ知リ得ルモ良否ハ未定ナルニ付金額ヲ記載スル事ヲ得ストノ事

第二　小中治右衛門ハ扱人ナルヲ同人ヘ賣渡シタリトセラレシハ誤謬ナリトノ事

大審院ニ於テ裁判スル左ノ如シ

辨明

第一條

金澤彌惣兵衛カ小中治右衛門ノ取扱ヲ以山本己之助ニ鹽鮭ヲ賣渡シタ節其雙方ノ間ニ授受シタル約定書ヲ閲スルニ左ノ如シ

記

帆前大榮丸積來リ

一浦川産鮭鹽引　凡貳百五拾石餘

此本數万五千百六拾本

直段壹圓ニ付六本三分替

代金

但シキスヒン三割直引ニテ相渡可申定

右内

金貳百圓　約定金トシテ正ニ受取置候也

右ノ通リ賣渡約定致シ前顯ノ金圓正ニ請取候也尤請渡ノ義ハ明廿一日船改所波止場ニ於テ受渡シ約定渡方ニ付一切苦情無之候且亦請渡シ濟殘金速ニ請取可申候定依テ鹽引鮭賣渡約定假證書如件

明治十三年第一月二十日　山本己之助殿　金澤彌惣兵衛

扱人　小中治右衛門殿

右證書中此本數壹万五千百六拾本直段壹圓ニ付キ六本三分替ト云々之ヲ明記セリ推テ之ヲ計算スレハ其代價ノ金額貳千四百零六圓餘トナルハ更ニ明瞭ナリト爲ス乃チ該判文中該品ノ前數ハ確數ニシテ疵及ヒ品等ノ優劣ヲ生スルハ却テ未定ニ屬スルト云々記載シタルカ如シ前件賣買契約ノ性質ハ鹽鮭本數壹万五千百六拾本此直段壹圓ニ付キ六本三分ト定メ其請渡ヲ爲ス者ナリ而テ疵及ヒ品等ノ優劣ヲ生スルハ實ニ豫定ス可カラサルノミナラス時トシテ疵及ヒ品等ノ優劣ヲ生セサルノ場合ナキヲ保チ難シ而テ該證書其代價ノ金額ヲ明記セサルモ此本數壹万五千百六拾本直段壹圓ニ付六本三分替ト明記シタル以上ハ其價額ノ既定ニ屬スルハ疑ヒヲ容ル、可カラサルナリ若シ後日ニ當リ疵及ヒ品等ノ優劣ヲ生シ三割ノ直引ヲ爲スモ賣渡人ヨリ買取人ニ對シ万一疵及ヒ品等ノ優劣ヲ生スレハ夫々算計シテ損失ナキ樣其引直ヲ爲スヘキ旨該賣買契約ノ確實ナルヲ表スル爲メ豫メ優劣ヲ生スル場合ヲ慮リ其保證ヲ爲スニ外ナラス故ニ其保證スル所ヲ以賣買契約ノ證書中明記スル所ノ本數ト壹圓ニ付キ六本三分トノ定價ニ對シ未定ノ性質ヲ有スルトノ申立ハ相立サルノ申立ナリトス

第二條

彌惣兵衛ニ於テ小中治右衛門ハ扱人ナルヲ同人ヘ賣渡シタリト裁判相成シハ誤謬ナリト申立ルニ付キ取調フル處第一條ニ引用シタル證書ノ同人肩書ニ扱人トアルハ媒介人ニシテ買取者ニ非ラサレトモ本案ノ罪ニ差違ヲ生セサルニ付キ破毀ノ限リニ非ラスト爲ス故ニ函館裁判所ニ於テ鹽鮭壹万五千百六十本價金二千四百六圓餘ヲ以山本己之助小中治右衛門ヘ賣拂フ定約ノ際手金貳百圓ヲ受取リ該證書ニ貳圓四拾錢ノ證券印紙ヲ貼用スヘキ所貳拾錢ノ印紙ヲ貼用シ該品ノ創及ヒ品等亦タ點檢セサルニ於テ金員モ亦豫定ナル旨供述スト雖固ト該品ノ前數ハ確定ニテ創及品等ノ優劣ヲ生スルハ却テ未定ニ屬スルヲ以明治八年第五十一號布告改正證券罰則第七條ニ依リ減稅高ノ十倍科料金貳拾貳圓ト申渡シ

タルハ不法ノ裁判ニアラスト云

判決

右ノ如クナルヲ以明治十三年七月二十三日函館裁判所ニ於テ金澤彌惣兵衛ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ付上告狀却下スルモノ也

第六百三十一號

○判文〔山林盜伐ノ件〕明治十二年十二月廿二日上告
明治十三年十月五日判決

愛媛縣讃岐國大内郡白鳥村
平民六平養子
大住林平
明治十二年十二月
三十六年一ヶ月

右林平カ明治十二年十二月十一日松山裁判所高松支廳ニ於テ爲シタル供狀左ノ如シ

松山裁判所高松支廳ニ於テ爲シタル口供

自分犯罪ハ明治十二年十一月二十日高松警察署ニ於テ申上候口供ノ通リ相違無之候

右毀伐セシ松木代積金貳圓八拾貳錢ニ相成旨承知仕候事

高松警察署ニ於テ爲シタル口供

自分儀本年八月三十日同郡西山村ニ有之字倉谷ト唱フル村方共有之山林伐木シタル一件御尋ニ付左ニ詳細申上候事

該山林ハ元來村方ノ共有ニノ往古ヨリ貧民救助ノ資ニ充テシ爲メ共有スル處ノ山林ニ候處本年四月ノ頃別段協議ハ无之候得共右山林入札拂ノ上金額ハ物テ村方學校費ニ充テルトカ申事ニテ同月六日ヲ期トシ有志ノモノハ入札可致樣戸長塲村丁ヲ以相觸タル趣ニテ其入札ノ法タルヤ山林悉皆ヲ入札スルヲ大札ノ入札トナシ又該山林ヲ甲乙丙丁ノ四分ニナシ一部ツヽ入札スルヲ小札ノ入札トナシ代價ノ高キモノヘ賣渡ス由承候ニ付自分モ該山林ノ二分則甲部ハ金百圓丙部八十圓ニ入札致シ候處甲乙ノ兩部ハ村方平民森米造瀧井九平ノ兩名ヘ落札ト相成リ自成入札シタルハ甲丙ノ兩部ニ非スメ乙丁ノ兩部ナリト申立自分ハ甲丙ノ二部ヲ入札シタルト主張シ自分最初ノ意見ト齟齬スル耳ナラス大札ノ入札ハ同村平民岡田孫平ナル者三百八拾五圓ニ入札シ大札ノ分ハ同人第一番ノ高札ニ候得共前顯小札落札合計ノ代價ノ方大札ノ落札高ヨリ代價高キヲ以テ前顯ノ通自分等ヘ落札相成候得共右ノ次第ニテ入札ノ部所相違シタルニ付遂ニ自分ハ破約致シ候然ル處戸長山本啓藏同村平民小島茂七郎ノ兩名ニテ右乙丁ノ兩部ヲ入札シタル金高ニテ同村平民小島平吉及ヒ右小島茂七郎自身兩人ニテ引受ケ買取ル趣ニ候處兼テ小島茂七郎ナル者ハ先年ヨリ村内共有金取扱ノ義擔當致シ居候處往々不明瞭ノ取扱有之ヨリ村方ノ者多クハ不承諾ノ趣ニテ村内一統紛議ヲ生シ前顯自分入札ヲ破約シタル以上ハ二番札ナル岡田孫平ヘ賣却スヘキコソ至當ナルニ自分カ入札シタル金高ニテ小島茂七郎等自儘ニ引受タルハ不都合ノ所爲ナリト申立遂ニ本年七月ノ頃岡田孫平高松裁判支廳ヘ勸解ヲ願出候得共折柄原告岡田孫平及ヒ被告茂七郎モ疾病ニ罹リ結局原告ヨリ願下ケヲナ

シ而ノ是ヨリ先キ村内ノ者ヨリ自分ヘ申シ出ルニハ該山林ハ元來貧民救助ノ爲メヲ謀リシモノナルニ村方一統ハ協議モ無之戶長並ニ小嶋茂七郎ノ兩人等入札ヲ取計茂七郎等自儘ニ買取リタルハ不公平ノ所爲ニ付自今以後此山林賣渡一件ハ自分ヘ委任致度迎同村平民森永林藏始メ外二百八拾名程ノ連印ニテ委任狀相渡シ候故自分擔當致シ村方ノ者申立ノ如ク岡田孫平ニ賣渡ス方ニ致同人ヨリ直チニ代金三百八拾五圓ヲ受取リ內百四拾圓ハ自分ヨリ村方ノ者ヘ分配シ殘金貳百四拾五圓ハ積金ニ可致積ニテ自分ニ預リ居候ヘ共自分儀時々當市街ヘ出町シ不在勝ヲ故同村平民大住辨五郎ニ預ケ置有之候故何ヒ御尋ニ相成候共可差出候然ルニ前陳ノ如ク該山林一件ニ付テハ斯ク葛藤ヲ生シ未タ落着不致ヲモ不省小島茂七郎等此山林ノ持主（其有物ナレモ假ニ持主ヲ定シヲ云）ナル高島爲七郎ナルモノハ既ニ昨十一年八月ノ頃死亡シタルモノナルニ同人ヨリ小島茂七郎始メ右落札セシ四名ヘ該山林讓リ渡シタル体ニ出願シ地券狀ヲ受取リ代金分配ヲ二重ニナシ（自分ヨリモ百四十圓ヲ分配致居ル故自カラ二重ト）ナル其處置如何ニノモ不都合ナルニ付小島茂七郎及同村議員平民田中和四郎等ニ屢々應接致候ヘ共充ニ地券狀ヲ領収シタル以上ハ致方無之抔ト不法ノ答辨ヲナシ兎ヤ角ト埒明カサル故自分等右地券狀受取又ハ代金分配等致シ居ルヲ拒ミ支障ヲ爲シ遣ント同年八月三十日岡田孫平ヲカタラヒ村方ノ者六名ヲ引連レ兼テ伐木スル者茂七郎ヘ通報シ併セテ丹生分署ヘモ御屆致シ置（御採用ハナケレモ）該山林ヘ入込ミ飲酒ヲシナカラ數十本ノ立木ヲ枝打等致居候處同村用係ナル同郡三本松村村上伊作等取押ニ參ラレ候處折節岡田孫平ナルモノ醉狂ノ餘リ暴行致シ用係ヘ對シ手向ヒ等致シ候得共自分ハ孫平ヲ取押ン爲メ却テ自分ノ額ニ少々疵ヲ受ケシト雖モ自分決シテ拒捕シタル義ニ無之前陳ノ次第ナルヲ以テ自分カ伐木シタルハ毫モ盜心アルニアラス全ク小島茂七郎等ノ處爲ヲ不當ト見込妨害セン爲メ右ノ擧動ニ及ヒタル義ニ御坐候事

茂七郎ヨリハ右入札ノ義議員議決ニ出ルト申立ル由ニ候ヘ共其頃議員ハ無之故村方ヘノ協議ハ無之全ク專斷ノ處爲ト存候事

右ノ口供ニ依リ明治十二年十二月十三日松山裁判所高松支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀同郡西山村字倉谷ニ有之白鳥村々民共有ノ山林入札拂ノ節同村小島茂七郎外三名ヘ落札相成同人共々地券狀ヲ申受ケシハ不當ニ付之レカ障碍ヲ爲ス可シト明治十二年八月三十日岡田孫平ヲ語ラヒ右倉谷山林ニ立入濫リニ松木數十本ヲ毀伐スル賍金貳圓八拾貳錢ノ科棄毀器物稼穡律ニ照依シ毀伐スル賍ヲ計ヘ竊盜ニ準シテ論シ懲役六十日ヲ換ヘ杖六十申付ル

但毀伐セシ松木ハ追徵ス

大住林平ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法トナシ明治十二年十二月二十二日本院ニ差出タル上告狀ノ要旨左ノ如シ

同郡西山村字倉谷ニ之レアル白鳥村々民共有ノ山林入札拂ノ節同村小島茂七郎外三名ヘ落札シ且茂七郎等カ該地券狀ヲ申受シハ不當ノ所爲ナルニ依リ岡田孫平ト謀リ之レカ妨害ヲ爲サンタメ右山林ニ立入リ松木數十本ヲ伐木シタレモ其所爲ハ盜心ヨリ出タル者ニアラサレハ竊盜ニ準擬セラルヘキ謂レナシ云々

辨明

原裁判所ハ林平カ所爲ヲ棄毀器物稼穡條凡人ノ器物ヲ棄毀シ及樹木稼穡ヲ毀伐スル者ハ賍ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論ストアルニ照シ其毀伐セシ松木ヲ估計セシメテ之レヲ賍ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論シタル者ニシテ裁判其當ヲ得タル者トス如何トナレハ棄毀器物稼穡條ハ盜心ノ有無ニ關セス故意他人ノ物ヲ侵損スレハ賍ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論スヘキ律意ナレハナリ故ニ林平カ上告ノ旨趣ハ相立サルモノトス而シテ上告狀中小島茂七郎等ヘ落札セシ手續及ヒ同人等カ地券狀ヲ申受タル等皆不當ノ所爲ニ係ルトナシ種々ノ申立ヲ爲スモ到底林平カ受ケタル刑ニ對シ關係ヲ生スヘキ事件ニアラサルヲ以テ更ニ辨明ヲ與ヘス

判決

右ノ如クナルヲ以テ松山裁判所高松支廳ニ於テ大住林平ニ言渡タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スル者ナリ

第六百三十二號

○判文（得遺失物ノ件）明治十三年六月五日上告
明治十三年十月五日判決

島根縣出雲國神門郡日御崎
九十九番屋敷平民市五郎長男
齋藤浦市
明治十三年五月
二十五年十ヶ月

同百一番屋敷平民
西惣太夫
明治十三年五月
五十一年三ヶ月

同百七番屋敷平民十三郎長男
安田源吉
明治十三年五月
四十二年七ヶ月

同三十五番屋敷平民
浦生助太郎
明治十三年五月
三十六年九ヶ月

同六十三番屋敷平民
安田捨之助
明治十三年五月
二十四年十一ヶ月

同五十二番屋敷平民和三郎長男
齋藤甚八
明治十三年五月
三十四年六ヶ月

同五十三番屋敷平民
安田由助
明治十三年五月
五十一年九ヶ月

同四十四番屋敷平民新四郎長男

右浦市外十人カ明治十三年五月三十一日松江裁判所管内杵筑區裁判所ニ於テ審問ヲ受ケタル口供左ノ如シ

自分儀當明治十三年四月十二日居浦沖合ニ於テ漁業罷在候折柄乗組人ナキ破船積荷共々漂流スルヲ見當リ錨其外數品銘々船ニ積込日御崎字皆字濱ヘ歸着物品陸揚ケノ際安田金作浦生助太郎兩人ノ船ニ積込品ノ内帆木綿一卷端物貳拾五反都合貳品ハ船中ニ隱シ置キ追テ分配可致ト右兩人ノ發意ニ同意シ先ニ陸揚ケセシ物品御出張官檢査濟ノ上御引取ニ相成候跡ニテ隱シ品ノ内端物陸揚ケノ際高木儀助ニ被見認一應尋問ヲ受クルモ盜情ヲ押

浦生德太郎　明治十三年五月二十九年八ケ月
同九十二番屋敷平民

村尾興八　明治十三年五月四十六年一ケ月
同五十一番屋敷平民

高木松之助　明治十三年五月五十年三ケ月
同三十八番屋敷平民

安田金作　明治十三年五月二十三年八ケ月

包ミ全ク屆洩レナル由相答候處迅速相屆出ヘク旨申聞ル二付該品ハ同人方ヘ持參屆方依賴シ尚又新キ帆木綿壹卷ハ儀助所有ノ納屋ノ前ニ隱シ置キタル處其翌日右儀助ヨリ先キニ屆ケアル端物貳拾五反ハ銘々共ニ於テ分配シテ差支ナキ旨申聞ル二付一同喜ヒ該品干方等ノ手續キヲナシ其后明治十三年四月十四日右儀助納屋ニ入レアル物品警察官ノ再檢査ニ當リ古帆木綿切々苧綱一櫻櫚綱一都合三品ハ初發檢査洩ノ分ニ付銘々分ケ取リ可致旨儀助ヨリ申聞ケ候ニ付齋藤浦市浦生德太郎兩人ニテ村尾興八所有ノ納屋ニ隱シ置明治十三年四月十七日生河豚ノ價額豫定ノ爲メ銘々共拾壹人同浦浦生菊太郎宅ヘ寄集ノ際高木儀助モ臨席致候ニ付同人方ニ預ケ置ク處ノ端物貳拾五反ヲ銘々貳反ツヽ分配シ殘ル大和紡壹反木綿壹反ハ高木儀助ヘ配當シ大和紡壹反ハ同人下女高木「サヨ」ヘ遣シ尚又帆木綿苧櫻櫚綱ノ類ハ追テ賣却シ代金ヲ自分共十一人ニテ分配ノ積ニ有之候處矢田宇左衛門及ヒ高木儀助等ノ自首ニ依リ御調ヲ受ケ白狀致シ候事

右ノ口供ニ依リ明治十三年五月三十一日松江裁判所管内杵筑區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方共儀明治十三年四月中漂着物ヲ得テ一旦屆ケ出ツルモ高木儀助ノ故ラニ教令スルニ從ヒ尚隱匿スル賍金四拾圓以上ノ科改定律例第百三十二條ニ依リ竊盜ヲ以テ論シ懲役百日可申付處情ヲ量リ四等ヲ減シ懲役六十日宛申付ル

島根縣杵筑警察署六等警部久保庸臣ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法トナシ大審院ニ上告スル爲メ司法卿ヲ經由シテ大審院檢事ヨリ明治十三年六月五日本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ

如シ

齋藤浦市外拾名ノ擬律ニ曰漂流物ヲ得テ一旦屆出ルモ人ノ敎令スルニ從ヒ尙隱匿スル賍金四拾圓以上ヲ犯スモノ內國船難破及ヒ漂流物取扱規則第二十八條第三十六條漂着物ヲ得テ浦役人ニ報知スルヿナク使用或ハ賣却スル者ハ難船ノ節救助ニ托シ物品ヲ竊盜シ及掠奪スルモノ云々律ニ照シ處分ストアルニ照シ處分スヘシト云ニ據リ改定律例第百三十二條ニ依リ竊盜ヲ以テ論シ懲役百日情ヲ量リ四等ヲ減シ各懲役六十日ト抑內國船難破及漂流物取扱規則第二十八條難船ノ節救助ニ托シテ積荷船具其他ノ物品ヲ竊盜或ハ掠奪スル者云々律ニ照シテ處分スヘシト其難船ノ節トハ難船ノ當時ヲ云ヒ律ニ照シテ處分スヘシトハ所犯ノ罪名ニ依リ各律ニ照擬スヘシトノ意ニメ之ヲ約言スレハ難船ノ當時本條掲ル所ノ罪ヲ犯ス者ハ律ニ照シテ區處スヘシト言フノ意ニ出テス而メ其三十六條漂流物ヲ見付タル者之レヲ浦役人ニ報知スルヿナク其物品ヲ私カニ使用シ又ハ云々二十八條ニ照シ處分スヘシトハ二十八條ノ精神乃チ律ニ照シテ處分スヘシト云フノ一點ヲ指示シタルモノニシテ該條掲ル所ノ犯者ト同罪ニ處スヘシト云フノ意ニアラサルヤ明カナリ然ルニ杵筑區裁判所ニ於テハ第三十六條ノ犯者ハ第二十八條犯者ト同罪ニ處スヘキモノトシ所有者ノ雖タルト漂着ノ原因トヲ知ヘカラサル漂流品ヲ拾得シ官司ニ送ラサル罪ヲ以テ破船ノ當時其遭難者已レノ生命自カラ保全アル能ハサルノ災變ニ乘シ之レヲ奇貨ナリトシ惡意ヲ逞フシ財物ヲ竊取スルカ如キ匪徒ニ同視シ律例第百三十二條ニ依リ竊盜ヲ以テ處斷セシハ其當ヲ失フモノトス且浦市等ノ口供ニ初メ安田金作浦生助太郎ノ兩人發意トナリ新帆木綿一卷及端物二十五反ヲ隱匿セント浦市等ニ謀リ新帆木綿ハ已ニ隱藏シ端物二十五反ハ陸揚ノ際日御崎議員高木儀助ノ見認ムル所トナリ該品ハ儀助ヲシテ浦役場ニ屆出ツヘキニ決シ則事ヲ儀助ニ委托セシニ彼レ却テ浦市等ニ敎令シ端物二十五反外ニ古帆苧綱纜綱綱ノ三品ヲ併セテ分配セシメンヿ掲テ明記シアルニ依レハ首從ノ別判然タリシニ之レヲ分タス處斷セシハ是レ何等ノ點ニ據リ然ルヤ其明文ヲ掲ケサルヲ以テ之レヲ知ルニ由ナシト雖モ固ヨリ浦市等ノ罪ハ首從ヲ分ツヘキニ之レヲ分タス處分セシハ是又不當ノ裁判ト云ハサルヲ得ス以上陳述セシ如クナルヲ以テ庸臣於テハ浦市等海上漂流物ヲ得テ官ニ送ラサル罪ハ明治九年四月十九日太政官第五十五號布告改正得遺失物律ニ比擬シ竊盜ニ準シテ論シ一等ヲ減シ尙首從ヲ分チ處分スヘキ意見ナルニ依リ謹テ上告シ破毀求ムル所以ナリ

辨明

齋藤浦市外十名カ居浦沖合ニ於テ乘組人ナキ破船積荷共々漂流スルヲ見當リ錨其外數品銘々船ニ積込歸リ陸揚ケノ際安田金作浦生助太郎ノ發意ニテ帆木綿一卷端物二十五反船中ニ隱シ置キ先キニ屆出ノ分出張官檢査濟ノ上該品陸揚ケノ際高木儀助ニ見認ラレ止ヲ得ス反物ノミ屆出方儀助ニ依賴シ置キ后同人ヨリ該反物ハ銘々分配ノ差支ナキ旨ノ意ヲ受ケ尙古帆木綿切々苧綱纜綱綱一都合三品ハ檢査洩ノ分ニ因リ銘々分取致スヘクト儀助ノ言ニ從ヒ右品各分配シタルハ內國船難破及ヒ漂流物取扱規則第三十六條凡漂流物ヲ見附ケタル者之ヲ浦役人ニ報知スルヿナク其物品ヲ私カニ使用シ又ハ之ヲ賣買スル者ハ第

二十八條ニ照シテ處分スヘシトアル法規ニ違反シタル所爲ナリトス因テ之レヲ同規則第二十八條ニ照スニ難船ノ節救助ニ托シテ積荷船具其他ノ物品ヲ竊盜又ハ掠奪スル者又ハ云々律ニ照シテ處分ストアリテ其各犯ス所ノ所爲ニ對シ相當ノ刑ニ處スヘキ事ヲ示シタル主義ナルヲ以テ浦市等カ所爲ヲ法律ニ照スニ其難船救助ニ托シ物品ヲ竊取シタルニ非ス又掠奪シタルニモ非ラスシテ漂流物ヲ拾得隱匿シテ分配シタルモノナレハ改正得遺失物條凡遺失ノ物ヲ得隱匿シテ官ニ送ラス及ヒ主ニ還サヽル者ハ官私ヲ分タス竊盜ニ準シテ論シ一等ヲ減シトアルニ準擬シ贓金四拾圓以上懲役百日ヨリ一等ヲ減シ九十日ノ處金助助太郎ハ帆木綿等隱匿ノ主犯ナリト雖ヒ古帆木綿切々外二品ハ儀助ノ發意ニ從ヒ隱匿シタルモノニテ該品ノ評價代金八圓改定律例第七十二條凡二次以上盜ヲ爲シ首從ノ贓並獲スル者ハ首從ノ贓ヲ併セテ罪一等ヲ減スストアルニ因リ一等ヲ減シ懲役八十日浦市外八名モ從ニ付一等ヲ減シ懲役八十日倘情狀ヲ酌量シ減等シテ處斷スヘキモノナリトス然ルヲ杵筑區裁判所ニ於テ改定律例第百三十二條ニ依リ竊盜ヲ以テ論シ首從ヲ分タス懲役百日ヨリ減等シテ各懲役六十日ト處斷シタルハ不當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルニ因リ明治十三年五月三十一日松江裁判所管内杵筑區裁判所ニ於テ齋藤浦市外十名ヘ申渡タル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

齋藤浦市　安田源吉
西物太夫　浦生助太郎
安田捨之助
齋藤甚八
安田由助
浦生德太郎
村尾與八
高木松之助
安田金作

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ改正得遺失物條ニ照シ贓金四拾圓以上從ニ付一等ヲ減シ懲役八十日情狀ヲ酌量シ四等ヲ減シ

各懲役四十日

但贓品ハ追徵シテ本主ニ還ス

第六百三十三號

○判文〔漂流船ヲ拾ヒシ件〕明治十三年七月八日上告
明治十三年十月五日判決
福岡縣筑前國怡土郡鹿家村
寄留山口縣平民
雪村平九郎

右平九郎外二名カ明治十三年六月十九日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ審問ヲ受ケ陳述シタル口供左ノ如シ

雪村平九郎口供

一自分義明治十三年一月頃ヨリ筑前國怡土郡鹿家村ニ寄留シ漁業罷在シ處同年五月十七日自分國元ヨリ同行シタル中村甚吉高地喜代藏ナル者共同日早曉出漁ノ際漁船壹艘漂流スルヲ見認メ拾ヒ揚タリ然ル處同日午后十二時頃長崎縣肥前國東松浦郡滿島ノ者トカニテ右漁船ヲ流失シタル處自分拾ヒ揚ケタル趣キヲ聞知シ右船ヲ貰ヒ受ケ度旨ヲ以テ怡土郡鹿家村吉村彌吉ナル者ヲ仲人ニ相立申入ルニ付自分相答フルニ右漁船ハ自分國元ヨリ同行シタル者共ノ拾ヒ揚ケタル者ナルニ付一應相談可致旨申聞置直ニ甚吉喜代藏共ニ示談スル處右漁船ヲ差返サヽル存念ハ無之ト雖モ拾ヒ揚ケニハ手數モ餘程掛リタルニ付酒代トノ四五圓計リ貰ヒ呉ルヘキ旨申聞右漁船渡方等ノ事一切依頼致シタルニ付承知ノ上

同　中村甚吉　明治十三年六月二十七ケ月

同　高地喜代藏　明治十三年六月四十年六ケ月

七八

明治十三年六月六十三年

尚又彌吉ニ相答ルニ若者共ニ示談シタル處四五圓位貰ヒヤレトノ事ナレトモ酒代ノ印ニ貳圓斗リモ差遣スヘク然ルトキハ右漁船ハ直チニ差返スヘクト申聞タル處金圓ノ事ハ更ニ何等ノ返答モ不致只明日貰ヒニ參ルト申シ彌吉並ニ滿島ノ者共モ罷歸リタリ其習日右漁船ヲ貰ヒニ參ルヘキ乎ト相待居リタレトモ其后何等ノ事モ申參ラサルニ付漁船壹艘並ニ艦貳挺木ノ錨壹箇バラ繩三十ヒロ斗リ鰍網壹ツ竹ノ皮笠貳箇小桶壹箇其他右船ニ附屬スル板等壬今相預リ置キ時日ヲ經過スルト雖モ等閑ニ打過キ其旨官ニ届出モ不致段警察本署ヘ御召喚ニ相成リ御尋問ヲ蒙リ重々恐レ入有体申上タル義ナリ

中村甚吉外一名口供

一自分共義明治十三年一月頃ヨリ同村雪村平九郎ト申ス者同行シ筑前國怡土郡鹿家村ニ寄留シ漁業罷在シ處同年五月十七日早曉ヨリ出漁致シ居タル處漁船壹船漂流致シ來ルニ付直チニ拾ヒ揚ケ其旨雪村平九郎ニモ申聞ケ置タル處長崎縣肥前國東松浦郡滿嶋ノ者所有ノ船ニテ流失シタル旨ヲ以テ貰受ニ參リタル趣ニテ雪村平九郎ヨリ示談スルニ付右漁船ヲ差返サヽル存念ハ無之ト雖モ拾ヒ揚ルニハ余程手數モ掛リタルニ付酒代ノ四五圓モ貰ヒ呉ルヘキ旨ヲ以テ右船相渡方ノ儀一切依頼致シ置キタリ然ル處平九郎ヨリ貳圓斗リノ酒代差遣ス節ハ漁船ハ直チニ差返スト申聞タル處金圓ノ事ハ更ニ何等ノ返答モ不致只明日貰ヒニ參ルト申シ滿島者共ハ罷歸リタル由其后右船貰ヒ受ケニ參ルヘキ乎ト相待チ居タレトモ何等ノ事モ申シ參ラサルニ付右漁船壹艘並ニ附屬品等壬今相預リ置キ時日ヲ經過スルト雖モ等閑ニ打過キ其旨官ニ届出モ不致段警察署ヘ御召喚相成御尋問ヲ蒙リ重

七九

々恐入有休申上タル義ナリ

右ノ口供ニ依リ明治十三年六月廿九日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ左ノ裁判ヲナシタリ

其方共儀明治十三年五月十七日出漁ノ際漁船壹艘漂流スルヲ見認メ拾ヒ揚ケタル處該船ハ長崎縣肥前國東松浦郡滿島ノ者カ流失シタル旨ニテ受取ニ來ル際該船拾ヒ揚クルニ付テハ手數掛リタルニ付酒代若干申受度旨申立之ヲ不引渡リシト雖モ其手數ノ報ヒヲ得ントシタル迄ノモノニシテ到底該船ヲ差歸ス事ヲ拒ミシモノニアラサレハ其取引ハ民事ニ止マルモノナレハ罪ノ問フヘキナキヲ以テ無搆

福岡七等警部藤本重威ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年七月八日ヲ以テ司法卿ヲ經由シテ大審院檢事ヨリ送付シタル上告ノ旨趣左ノ如シ

右三名カ公訴サレシ所爲ハ明治十三年五月十七日筑前國怡土郡鹿家村ノ海上ニ於テ當時物主ノ分明ナラサル漂流船ヲ拾得テ成規ノ報知ヲ爲サヽル而已ナラス物主肥前國東松浦郡滿島村平民靑木又兵衛外壹名カ漂流船ノ所在ヲ知テ被告人等ニ就テ其所有物タル事ヲ證明シ以テ之カ還付ヲ請求セシニ被告人等ニ於テハ物主ヨリ金圓ヲ出スニ非サレハ敢テ之ヲ還付セストテ專横ニ其船ヲ領置シテ物主ノ請求ヲ肯セサリシ者ナリ如此ハ現今ノ刑律之ヲ罪トスルノ明文在ルニ非ラスト雖モ然レトモ物主ヨリ正當ノ請求ヲ爲スニ當テ妄リニ酒代ト稱シ金圓ヲ出スニ非ラサレハ其請求ヲ肯スル能ハスト云ヒ而テ其物品ヲ還付セサリシハ情理ニ於テ爲ス可ラサルノ所爲ナリトス依テ雜犯律不應爲條ニ問擬シテ被告人ノ罪ヲ斷シ其物品ハ速ニ物主ニ還付スヘキノ宣告ヲ爲スヘキモノナリ然ルヲ長崎裁判所福岡支廳ノ裁判ノ如ク其取引ハ民事ニ止マルモノトセハ或ハ恐ル漂流物取扱規則及ヒ名例律斷罪無正條々ノ精神ヲ害セン〻ヲ是ヲ以テ一件書類相添及上告候也

辨明

雪村平九郎外二名カ靑木又兵衛等ノ所持船流失シタルヲ拾揚ケ其筋ニ届出サルハ明治八年第六十六號布告內國船難破及ヒ漂流物取扱規則第二十九條凡原因ノ知レサル難船漂着物及ヒ乘組人ナキ漂着船ヲ見附ル者ハ之ヲ浦役人ニ報知スヘシ云々トアルニ違背シタルヲ以テ雜犯律違令條凡令ニ違フニ重キ者ハ笞四十輕キ者ハ一等ヲ減ストアルニ照シ處分スヘシ本則ノ第二十八條第三十六條ニ依ラサルモノハ該船ヲ私カニ使用シ又ハ之ヲ賣買スル者ニアラサレハナリ而テ靑木又兵衛外一名ニ於テ被告ノ者共拾揚タルヲ聞知シ漁舟並ニ諸品共悉皆貰受度示談ニ及ヒタレトモ更ニ聞入レサリシヲ乍併金五圓差遣スヘシ左スレハ速ニ相渡可申旨申張リ和熟難整段之ヲ申立被告人雪村平九郎外二名ニ於テハ右漁船ヲ差返サヽル存念ハコレナシト雖拾揚クルニ手數モ餘程相掛リタルニ付キ酒代トメ金四五圓貰呉ルヘクト云々又右漁船ハ直ニ差返スヘクト申聞ケタル處金圓ノ事ハ何等ノ返答モ致サス只明日貰ニ參リ可申旨申述ヘ滿嶋ノ者トモ罷歸リ其翌日右漁船ヲ貰ニ參リ可申ト相待居タレトモ何等ノ事モ申參ラサル段之ヲ申立雙方口供相齟齬スル既ニ斯ノ如シ要スルニ是亦唯口頭ノ陳述ニ止マリ別ニ確認スヘキ證據コレナキ以上ハ孰レカ眞孰レカ僞之ヲ判定スルニ由ナシ之ヲ以靑木又兵衛カ請求ヲ拒絕シタル所爲ヲ審理ス可カラサルナリ故ニ雪村平九郎外二名ノ所爲ハ雜犯律違令條ノ支配ニシテ其贖ヲ聽スヘキ者ト爲ス然ルヲ長崎裁判所福岡支廳ニ於テ其取引ハ民事ニ止マル

モノナレハ罪ノ問フヘキ無キヲ以無擇ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以明治十三年六月二十九日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ雪村平九郎外二名ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

雪村平九郎
中村甚吉
高地喜代藏

右前ニ辨明スル如クナルニ依リ違令輕ニ問擬シ懲役三十日贖ヲ聽ス

贖罪金貳圓貳拾五錢

第六百三十四號

○判文（犯姦ノ件）明治十三年八月九日上告
明治十三年十月五日判決

山口縣長門國阿武郡萩橋本町平民要七叔父
富田理一
明治十三年七月二十八年十ケ月

右理一カ明治十三年七月卅日廣島裁判所ニ於テ爲シタル口供左ノ如シ

自分儀犯罪ノ始末ハ明治十三年七月十七日廣島縣警察官ニ對シ申立タル口供ノ通相違無之候以上

右理一カ明治十三年七月十七日廣島縣警察署ニ於テ審問ヲ受ケ陳述シタル口供左ノ如シ

一自分儀廣島縣四等巡査在職中同縣安藝國廣島區鷹匠町宍戸常助妻「タイ」ナル者ト姦通シ共末夫婦ノ約ヲ結ヒ明治十三年六月十九日竊カニ「タイ」ヲ連レ出シ郷里ヘ逃走シ自分ノ妻ト爲シ居タル義ニ可有之旨御取糺ヲ蒙リ此儀右「タイ」ト明治十三年六月日不覺タイハ三月ト姦通シタルモ該人儀ハ戸籍面上未タ常助ノ妻ニハ無之一時逗留人ナル旨承リ候ニ付云フテハ子細無之ヿト存シ夫婦ノ約束ヲ結ヒ居候處明治十三年六月十九日郷里ヨリ實母病死シタル旨報知アリタルニ付自分ハ病氣引籠中ノ身分ナルモ歸省ノ念慮難制卒ヒ右「タイ」ト夫婦ノ約束ヲ爲シ居ル義ナレハ内輪締向ノ都合モ有之同人ヲ連レ歸リ自分ノ妻ト成サシト存シ忌引ノ屆書ヲ差出置キ同日同道歸郷致候處不計實母ハ存命罷在候ニ付報知ノ間違ヒナルヲ怪ミ一ツハ喜ヒ一ツハ當惑致シ尚母ヘハ「タイ」ヲ面會爲致彼是致居ル内忽チ萩警察署ヘ拘引相成候得共自分ニ於テハ右「タイ」ハ眞ノ逗留人ト存シ居タルニ付同人ト姦通シ且ツ妻トシテ連レ歸リタル義ニ有之候事

一然レ共右「タイ」ト姦通ノ義ハ宍戸常助ヘハ極メテ隱密ニ致居候事

一宍戸常助ハ自分ト「タイ」ト姦通致居ルヲ探知シ或ル日「タイ」ニ向ヒ自分ト犯姦ノ始末相明スヘシト責問シタル義有之「タイ」ニ於テ遂ニ自分ト犯姦シタル旨吐露シ「タイ」ハ誤リ書ヲ認メ常助ヘ渡シタル義ハ能ク承知罷在候事

一「タイ」ヲ郷里ヘ連レ歸ル節モ常助ヘハ勿論雄之助ヘモ一言ノ相談モ不致夫婦ノ約ヲ結ヒ共ニ竊カニ廣島ヲ逃走致候事

一「タイ」ヲ郷里ヘ連レ歸リタル節ハ既ニ自分ノ妻ト成シタル心得ニ有之候事

一母病死シタル旨ノ届書中ニ電報ヲ以テ云々ト記載有之ノ眞ニ電報ナルヤノ旨御尋ヲ受ケ右ハ自分ノ親友山口縣下大島郡居住三上千之助ナル者カ東京ヘ趣ク途中廣島ヘ立チ寄リ自分母病死シタル旨申聞候ニ付驚愕狼狽ノ余リ誤テ電報ト書載致タル儀ニ候事

一自分ノ母ノ名ハ「チカ」ト唱フルニ右届面ニハ「マツ」ト記載有之ハ如何ノ旨御尋ヲ蒙リ自分母ノ名ハ是迄「マツ」ト唱ヘ來リ候ニ付右樣相認メタル義ニ候得共戸籍面ニハ「チカ」ト有之旨被申聞始メテ承知致候事

一右等ノ擧動及ヒ「タイ」ニ於テモ現ニ常助ノ本妻ナリト云ヒ常助モ已レノ妻ト申述並ニ「タイ」ノ母ナル「キク」兄ナル雄之助ニ於テモ未タ送籍セサルモ實際常助ノ妻ニ差遣ハシタルニ相違無之旨申立ルヲ以テ見レハタトヒ送籍ハセサルモ明治十一年一月ヨリ今日ニ到ルマテ二年有余間常助ト寢食ヲ共ニシ居タルハ判然タリ然ルニ一ツノ逗留人ト見認メ自分ノ妻トナシタル旨申立ルト雖モ右ハ只送籍ノ濟マサルヲ口實トナシ名分上妻ニアラサル旨申立ルマテニテ假リニ其申口ヲ眞實ナリトセハ右等ノ如ク竊カニ逃走スル筈ナク且ツ「タイ」ニ於テ一旦犯姦ノ誤書ヲ常助ニ出シタル事實ヲモ能ク承知致居ル義ナレハ內實常助ノ妻タルヿハ熟知ノ上斯ク姦通シ自分ノ妻ト爲タルニ相違有之間敷尙又實母病死ノ届書ハ前述ノ如ク事實相違モアレハ右届書ハ自カラ無實ノヿヲ詐書シ僞ハツテ忌引キヲ爲シ其際ニ於テ逃走セント企テタル爲メニナシタル書面ニ可有之旨御申聞ニ相成リ自分ニ於テハ「タイ」ハ常助ノ妻タルヿハ承知不致自分ノ妻ト爲シ且右届書ハ全ク自分ノ疎忽ヨリ誤書シタル儀ナレ共右樣ノ運合ヒヲ以テ御押合ニ相成ル時ハ御答ノ致方無之候事」

一「タイ」ト逃走ノ節常助所有ノ金拾五圓ヲ持チ出サシメタル義ハ無之哉ト御尋ヲ蒙リ候得共更ニ覺無之逃走ノ旅費モ「タイ」ト申合セ同人ノ衣類ヲ島津シゲナル者ヘ依賴賣却シ該代金ヲ以テ出立シタル程ノ義ニテ金員持チ出サシメタル義ハ更ニ覺無之候事

右ノ口供ニ依リ明治十三年八月六日廣島裁判所ニ於テ言渡シタル裁判左ノ如シ

其方儀廣島縣巡査奉職中宍戸常助妻「タイ」ト姦通ノ末同人ヲ和誘シ鄕里ニ連レ歸リ已レカ妻トナシタルハ「タイ」カ戸籍上井上雄之助妹ナルヲ以テ常助ノ妻ニ非ス逗留人ナリト心得タリト申立レモ「タイ」ニ於テ未タ送籍セサルモ常助カ妻ナリト申立親族隣佑モ常助カ妻ト見認メ加之「タイ」カ姦通ノヿヲ常助ニ責問セラレ詫書ヲ差出シタルヿアルハ承知セシト自白スル所ナレハ「タイ」カ常助妻タルヿヲ知テ犯シタルヿ明白ナリ因テ右科改定律例第百四十九條ニ依リ懲役三年申付可キ處情ヲ量リ一等ヲ減シ懲役二年半申付ル

富田理一ニ於テハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十三年八月九日大審院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

第一條

上告人富田理一ニ於テハ宣告文中ニ宍戸常助妻「タイ」ト姦通ノ末同人ヲ相誘ヒ鄕里ニ連レ歸リ已レカ妻トナシタル云々ト有之候得共自分儀ハ過ル明治十二年十二月下旬廣島表ヘ罷越シ其趣意タル哉當縣ニ於テ巡査職致度ニ付罷越候處幸ニシテ明治十三年三月下旬巡査職拜命仕候就テハ其際廣島區鷹匠町山科保二郎方ヘ止宿仕居リ候處不斗宍戸常助ナル者方ヘ時々通ヒ行キ居リ候處或日右常助ト自分儀ト四方山ノ咄シヲ致右常助ナル者申候ニハ右「タイ」ナル者ハ此方ノ妻ニハ無之唯逗留人ナリト申且「タイ」ナル者逗留人ナリ

ト申其上送籍モ不致申候ニ付自分儀モ夫ヨリ時々常助方ヘ參リ候節唯逗留人ト見留メ右「タイ」ト妻ノ約束致シ候事

第二條

自分儀本年六月十九日山口縣大島郡居住三上千之助ナル者ハ自分儀ト故舊ニ候處右千之助ナル者申候ニハ自分儀ノ母病死致候旨申候ニ付始テ驚キ直樣止宿所ヘ立歸リ廣島警察署ヘ忌引届差出届而已ニテ歸縣ノ心仕度ノ致居候處其砌右「タイ」ナル者自分儀ノ止宿所ヘ來リ右「タイ」ナル者申候ニハ常助方ハ歸リ候由申候ニ付自分儀モ兼テ約束モ有之候ニ付右「タイ」ナル者ヲ鄕里ニ連歸リ候處豈圖乎母病氣ニハ候得共全ク存命ニ候故一ツハ驚キ一ツハ悅ヒ直樣歸廣致居リ候處萩警察署ヨリ御呼出ニ相成廣島警察署ヨリ御掛合ニ相成候由申聞サレ自分儀忌引届ニテ猥ニ歸縣ノ云々御尋問ニ相成恐入候然ル後チ井上雄之助ナル者ノ妹「タイ」ナル者ヲ連レ歸リ候哉是亦御尋ニ付連レ歸リ候由申上候處右「タイ」ナル者ハ宍戸常助ナル者ノ權妻ニ有之候由申聞サレ始テ驚キ入候加之右「タイ」ナル者ハ常助ナル者ノ金員ヲ盜ミ忍出ノ掛合ニ候故申聞サレ亦々驚入候然ルニ右「タイ」モ直樣御呼出ニ相成右權妻ニ有之哉且金員ヲ盜出候哉ト御尋問モ有之候處右「タイ」モ大キニ驚キ金員ノ儀ハ一向存シ不申且權妻ニハ無之逗留人ト相答候由就テハ自分儀萩警察署ニ於テ拘留ニ相成リ過ル七月三日萩警察署ヨリ廣島警察署ヘ拘引ニ相成廣島警察署ニ於テ取糺シ相成候得共自分儀ニ於テ先ニ常助且「タイ」ナル者モ逗留人ト申シ其上送籍モ不致ト相答今般ニ至テ妻ト唱ヒ候テハ自分儀ハ不都合ハ奉察候其上廣島御裁判所ノ申渡ニハ右「タイ」ニ於テモ未送籍セサルモ常助カ妻ナリト申立親族隣佑モ常助カ妻ト見認メ加之「タイ」カ姦通ノ事ヲ常助ニ責問セラレ詫書ヲ差出シタルアルハ承知セシト自白スル所ナレハ「タイ」カ常助妻タルヿヲ知テ犯シタルヿ明白ナリト有之候得共自分儀ニ於テハ右「タイ」カ詫書ヲ差出タル哉一向存不申且萩警察署ヘ廣島警察署ノ御掛合ノ書面ニモ井上雄之助妹「タイ」ト有之上宍戸常助ナル者ノ届ニモ權妻ト有之萩警察署ニ於テ御讀聞サレ自分儀ハ常助カ妻トハ難服就テハ今般ノ御裁判ハ飽マテ不服ニ候依テ此段奉上告候

辨明

上告第一節ニ宍戸常助カ井上「タイ」ナル者ハ同家逗留人ニテ送籍モ致サヽル者ナル旨申聞ケ上告第二節ニ常助及ヒ「タイ」カ俱ニ常助妻ニ無之同家逗留人ナル旨申聞ケタルニ今般常助及ヒ「タイ」ハ俱ニ常助妻ナリト申立且「タイ」カ姦通ノ詫書ヲ常助ヘ差出シタルヤ否哉ハ一切存サルニ常助妻ト姦通ノ末和誘シタル者ヲ以テ懲役二年半ニ處斷セラレタルハ不服ナル旨申立ルト雖モ常助「タイ」カ口供並ニ常助カ伯父廣瀨常助從弟金子直助組合月本三藏及ヒ「タイ」カ兄井上雄之助ト母井上「キク」等カ始末書ヲ審閲スルニ常助「タイ」ハ各尊長ノ許諾ヲ得テ明治十一年一月二十日婚姻ヲナシ組合等ヘ披露シ三ヶ年間モ寢食ヲ共ニ致居タル始末ハ各自ノ陳供符合シテ疑ヲ容ルヘキナキヲ以テ未タ送入籍ハ致サヽルトモ「タイ」ハ常助カ妻タルヿハ理一ニ於テ知サルモノヽ如ク申立ト雖モ同人カ明治十三年七月十七日廣島警察署ニ於テ爲シタル口供中ニ然レ共右「タイ」ト姦通ノ儀ハ宍戸常助ヘハ極メテ隱密ニ致候事又宍戸常助ハ自分ト「タイ」ト姦通致居ル

ヲ探知シ或ル日「タイ」ニ向ヒ自分ト犯姦ノ始末相明スヘシト責問シタル儀有之「タイ」ニ於テ遂ニ自分ト犯姦シタル旨吐露シ「タイ」ハ誤リ書ヲ認メ常助ニ渡タル義ハ能ク承知罷在候事ト自ラ明供セリ果シテ然レハ「タイ」ハ常助カ妻タル了知シナカラ犯姦和誘シタルモノト判定スルハ無論ナリトス故ニ廣島裁判所ニ於テ「タイ」ハ有夫ヲ以テ論シ理一ハ常助妻ト姦通ノ末和誘シタル者ト爲シ改定律例第四十九條凡人ノ妻ヲ略シテ自己ノ妻妾ト爲ス者ハ懲役五年和誘スル者ハ各一等ヲ減ストアルニ依リ懲役三年ヨリ一等ヲ輕減シ懲役二年半ニ處斷シタルハ不適當ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルニ因リ明治十三年八月六日廣島裁判所ニ於テ富田理一ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキヲ以テ上告狀却下スル者ナリ

第六百三十五號

○判文（邊令ノ件）明治十三年八月四日上告
明治十三年十月五日判決

兵庫縣播磨國飾東郡保城村平民
河島吉十郎
明治十三年七月
五十二年
同縣同國同郡同村平民
保城宇右衛門
明治十三年
五十八年

右吉十郎及ヒ宇右衛門カ明治十三年七月十二日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ審問ヲ受ケ爲シタル口供左ノ如シ

河島吉十郎カ口供

一自分義ハ明治八年已來引續西中島村戸長役相勤メ居候
一本籍ハ西中島村ナルヤ御尋ナリ本籍ハ保城村ニ有之候
一自分保城村ニテ何カ役ヲ勤メテ居リシヤ御尋ナリ西中島村戸長ニ相成候迄ハ保城村ニテ組頭相務メ居候事
一自分大樋修繕委員ニシテ塚本津賀次ヨリ買取候松木ハ誰ノ所有地ナリト知テ伐取タルヤ御尋ナリ夫レハ千馬川堤防ノ上ニアル木ナルヿハ見認メ候ヘ共何分塚本津賀次カタイシナイト堅ク請合候ニ付宜敷ト存シ伐取候事
一右松木ヲ買取タル賣主ハ誰ナルヤ御尋ナリ夫レハ自分ニ於テハ塚本津賀次ト存シ買取候事
一右松木ハ堤防上ニアル者ナリト云フニ其木ハ津賀次カ賣主ナリトハ甚タ疑敷譯ナラスヤ御尋ナリ其邊ハ自分等カ別條ナカラウート云テ買取候カ誤リニ有之候
一自分ヘ塚本津賀次ヨリ官林ニ候ヘ共壹本位ハ宜敷カラウート申シタル趣御尋ニ候ヘ共自分ハ左樣ノ事ヲ承リタルヿハ無之候
一代金五圓ハ津賀次ヨリ代價ヲ取極メテ求メタル儀ニ有之候哉御尋ナリ夫レハ同人カ極メタルニ無之自分等ニ於テ世間相場ニ依テ五圓相渡シ申候

保城宇右衛門カ口供

一自分河島吉十郎ヨリ依頼ヲ請ケ塚本津賀次方ヘ松木買取ノ相談ニ參リタルヤ御尋ナリ

其通ニ相違無之候事

一自分右松木ヲ津賀次ノ賣ラート云テ案内シタル處ハ誰ノ所有地ナルヲ知ルカ御尋ナリ

其節津賀次ノ申ニハ是ハ堤防ダカ伐テモ宜敷ト申候事

一自分右松木ヲ伐取タルニハ非ラサルヤ御尋ナリ左樣ニ御坐候津賀次ノ返答ヲ吉十郎ヘ申タレハ同人カ夫レナラ大工ニ手傳テ伐取テ呉ヒト申ニ付手傳致シ候事

右ノ口供ニ依リ明治十三年七月廿六日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

河島吉十郎

其方儀明治十三年五月中村内字大樋ニ於テ樋門修繕ノ用ニ供シタル松木ハ官林盗賣ノ情ヲ知テ買取シタルモノト認メ警察官ヨリ論告セラルヽト雖ヒ其盗賣ノ情ヲ知リタルノ證無之ヲ以テ無罪

保城宇右衛門

其方儀明治十三年五月中官林盗賣ノ情ヲ知リ牙保ヲ爲シタルモノト認メ警察官ヨリ論告セラルヽト雖ヒ其情ヲ知リタルノ證無之ヲ以テ無罪

兵庫縣九等警部岡田次孟ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ト爲シ明治十三年八月四日付控訴上告手續第二十九條ニ循ヒ本院ニ送付シタル上告狀ノ趣旨左ノ如シ

抑該犯吉十郎ハ知情故買セシ者ニ非ラサル旨辨護スレヒ自由獨意ノ供述ニ官地テハナキ乎ト疑惑ヲ生シタリト伸供スルノミナラス津賀次ハ吉十郎ニ官林ナレヒ壹本位ハ宜シカロート陳述スル供狀等ニ依テ見レハ盗賣ノ情ヲ知テ買取セシ者ト推測セサルヘカラス殊ニ該官林ハ自已ノ村内ニシテ豈ニ官私ノ區分ヲ知ラサルノ理アランヤ加之明治十三年六月四日取調之際伐採シタル地所ハ保城村兵次郎ノ持地ト津賀次ヨリ承知シタリト伸供シ七月十七日ハ之レニ反シテ津賀次カ劵證モアルト申ニ付全ク同人ノ木ト存買取リタリト其供述ノ矛盾スル是レ亦犯罪ノ證徵ト云ハサルヲ得ス況ヤ宇右衛門カ知情牙保セシヿヲ明供スルニ於テヽヤ其犯跡昭々タリ宇右衛門ハ官林ノ木ヲ伐採スル情ヲ知テ牙保セシ旨甘供セリ然リ而シテ該賍ハ一己ノ私利ヲ擅ニスルノ情慾ニ非スシテ官民費ノ修繕ノ用ニ供シタル各人ノ供述ニテ明白タリ以上ノ理由ナルヲ以テ各明治七年司法省第三拾號布達ニ比擬科斷スヘキヲ適當トス然ルヲ證ナキヲ以テ無罪ト判決シタルハ不當ノ裁判ト認定候條上告候也

辨明

河島吉十郎カ住村ノ内官民費ノ修繕ニ係ル大樋ヲ修理スルニ方リ保城宇右衛門ノ周旋ヲ以テ塚本津賀次ヨリ買受ケ伐採シタル松木壹本ハ當村官林ノ樹木タル事ヲ知ラスト申立又宇右衛門ニ於テモ官木タルノ情ヲ知テ賣買ノ周旋ヲ爲シタルニアラスト申立レヒ吉十郎及ヒ宇右衛門カ兵庫縣警察署ニ於テ爲シタル口供中吉十郎カ申立ニハ「伐採中自分ニモ官地テハナキヤト云フ疑ヒハ有之候ヘヒ云々」又宇右衛門カ申立ニハ「實ハ御上ノ地ノ木ヲ伐ルヿト承知シテ使ヲ致シタル義ニ候事」トアリ加之塚本津賀次カ原裁判所ニ於テ

爲シタル口供中ニモ「當今ハ官林ニ相成居候ヘ𪜈壹本位ハ宜シカラウト自分カ差圖致シ云々」ト申立アリテ其申立ハ乃チ吉十郎及ヒ宇右衛門カ申立ト符合スル處アリ由是觀之吉十郎ハ官木タルノ情ヲ知リテ故買シ宇右衛門モ亦其情ヲ知テ賣買ノ牙保ヲ爲シタル者ナリト認定ス然レ𪜈前文ニ掲クルカ如ク一已ノ私利ヲ營ムノ念慮ヨリ出タルニ非スシテ官民費ニ係ル大掃修理用材ニ供シタル者ナシハ乃チ明治七年司法省第三十號達ニ官林及ヒ社寺境内ノ官有ニ係ル竹木ヲ擅伐シテ民費ニ係ル橋梁及ヒ社寺修繕等ニ用ヰル者ハ違令輕重ニ問フテ代價ヲ追徵ストアルニ依リ各雜犯律違令條違令輕キニ問擬シ懲役三十日津賀次ノ從トナシテ論シ一等ヲ減シ懲役二十日仍ホ例圖ニ照シ贖ヲ聽スヘキ者トス然ルヲ原裁判所ニ於テハ官林盜賣ノ情ヲ知リタルノ證ナシトナシ各無罪放免ノ處斷ヲ爲シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ神戸裁判所姫路支廳ニ於テ河島吉十郎及ヒ保城宇右衛門ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

河島吉十郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ依リ官林盜賣タルノ情ヲ知テ買受ルモ官民費ニ係ル大掃修繕ノ用材ニ供シタル者ナルニ依リ明治七年司法省第三十號達ニ照シ違令輕キニ問擬シ從トナシテ論シ一等ヲ減シ懲役二十日仍ホ贖ヲ聽ス

贖罪金壹圓五拾錢

保城宇右衛門

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ依リ官林盜賣ノ情ヲ知テ賣買ノ牙保ヲ爲スモ官民費ニ係ル大掃修繕ノ用材ニ供シタル者ナルニ依リ明治七年司法省第三十號達ニ照シ違令輕キニ問擬シ從トナシテ論シ一等ヲ減シ懲役二十日仍ホ贖ヲ聽ス

贖罪金壹圓五拾錢

第六百三十六號

○判文〔竊盜三犯ノ件〕明治十三年九月八日上告
明治十三年十月五日判決

熊本縣肥後國球摩郡間村南町平民

菊地秀一

明治十三年八月
二十六年六ケ月

右秀一ニ明治十三年八月廿八日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀明治十三年七月十二日筑前國福岡上名島町旅宿渡世山崎啓八方ヘ止宿セントシ坐敷ヘ上リ其節同坐敷ニ泊リ合セシ千住善助ノ隙ヲ窺ヒ同人所有ノ時計一個金四拾貳圓拾錢ヲ竊取シテ其場ヲ逃走シ明治十三年七月十四日同國博多ニ於テ該時計ヲ所持シ市中ヲ徘徊シ居ルヲ事主千住善助ニ見認メラレ巡査ニ拘引セラレ其節巡査ノ尋問ニ對シ福岡宿屋ニ於テ竊盜セシ時計ナルヲ供出シ猶福岡縣警察本署ニ於テ訊問ヲ受ケ盜業ノ顛末ヲ供出シ其口供ニ拇印シ今日ニ至リ該口供ヲ翻異シ曩ニ警察署ニ於テ苛酷ナル拷問ヲ受ケ苦痛ニ堪ヘス不實ノ口供ニ拇印シタレ𪜈實際竊盜ヲ爲シタルニ非ス所持ノ時計ハ博多中島

町ノ橋上ニ於テ見知ラサル者ヨリ買取リ金子ハ元ヨリ所持セル旨更ニ供出スレ𪜈見知ラサル者カ時計ヲ持參シテ見セタリト申立ル博多中島町ノ時計屋ハ分明ナラス其他據ル可キノ證ナキノミナラス髮摘ミヲ職トシ所々徘徊中四拾圓ノ金ヲ貯ヘ居ル可キノ理モナク現在山崎啓八方ニ事主千住善助カ宿泊セシ砌乃チ明治十三年七月十二日其席ヘハ其方ノ外同時入込ミシ者モナク其方カ盜取リ逃走セシヲ確認セシ旨山崎啓八ニ於テモ申立旁以テ其方カ竊盜セシモノニテ右警察本署ニ於テ拇印セシ口供ハ眞實ナリト認定シ今回ノ供出ハ採用セス右科竊盜三犯ニシテ賍金五拾圓以下ナルヲ以テ賊盜律竊盜條ニ依リ懲役十年申付ル

但盜取リシ時計金子及ヒ賍金ニテ買取リシ蝙蝠傘外一品ハ追徵ス既ニ費用セシ賍金ハ資力ナキヲ以テ追徵セス

菊地秀一ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシテ明治十三年九月八日大審院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

一明治十三年七月十二日午後第四時四十分頃筑前國福岡上名島町旅宿渡世其節名不知山崎啓八方ヘ止宿セント案内ヲ乞イ宿ノ下女ト覺ヘル者坐敷ヘ誘導シタリ然ルニ同間ニ一人ノ合客アリ暫時談話後合客ハ隣間ニ至リ建具無之ニ付他人ト碁ヲ試ミ居タリ然ルニ同方ハ甚タ不潔ニ付轉宿ノ可ヲ家主ヘ斷リタレトモ家主返答セス依テ自分ハ其儘同家ヲ立出ル午後第五時頃ヲ夫ヨリ博多中島町時計屋名前不知ニ至リ廉價ノ時計買求ノ可ヲ申入タルニ折節戸主不在ニテ齡凡二十才位ノ弟子一人細工致居リタリ折柄齡凡二十才位ノ男子入リ來リ該人所持時計一个賣却ノ可ヲ同方ヘ申入タリ其時計ヲ見ルニ自分買求スヘキ品位ニ付代價ヲ問フニ金八圓ナラテハ手放シ難キ由ニテ自分ノ見込ト相違セシ儘强テ熟談ニ及ハス立別レ尙考ルニ該時計ヲ頻リニ希望シ今一應面談致シ度存同人カ出行セシ後ヲ追ヒ掛ケタレハ中島町橋上ニテ出逢タルニ時計讓リ渡シノ可ヲ促シタルニ矢張金八圓ニテ讓ル可キ旨相答ヘタルニ付承諾ノ上同所ニテ金八圓相渡時計ヲ受取以後自分ノ所有ニ有之候事

一所有金ノ義ハ明治九年八月日不覺髮摘業ノ爲メ本籍出發ノ際實兄菊地覺次郎家錄金ノ内五拾圓丈貰ヒ受所々徘徊中旅費ニ當テ成ハ稼キ溜メ等ニテ金額增減ハ有之トモ橋口町旅宿屋山崎啓八方ヘ止宿セント爲シタルトキハ已ニ現貨三拾六圓余所持罷在候事

一福岡警察本署ニテ苛酷ナル拷問ヲ受ケ苦痛ニ堪ヘサルヨリ不實ノ口供ニ拇印シ以後長崎裁判所福岡支廳ニ於テ盜業ニ無之旨眞實ノ口供ニ拇印致候事

一前顯ケ條ノ顚末ニシテ決テ盜業ニ無之ヲ長崎裁判所福岡支廳ニ於テ竊盜ト爲シ所有ノ時計並金三拾貳圓其他所持品トモ追徵相成懲役ニ處セラレタル義不服ニ付上告仕更ニ御公裁ヲ奉願候也

辨明

被告菊地秀一カ明治十三年八月十四日福岡警察署ニ於テ爲シタル口供ヲ閲スルニ「自分義明治十三年六月三十日熊本縣ニ於テ懲役滿期放免ノ后チ髮摘ミヲ職トシテ所々徘徊シ同十三年七月十二日福岡縣筑前國福岡ニ參リ當時町名姓名不知上名島町山崎啓八方ニ止

宿シ同所ニ合宿シタル長崎縣杵嶋郡小田驛當時姓名不知千住善助ナル者ノ所持スル紙幣ト懐中銀側時計壹個ヲ竊取シ竊カニ山崎啓八方ヲ逃走シ粕屋郡箱崎村八幡社境内ニ至リ竊取シタル金員ヲ改メ見ルニ大小紙幣取混セ四拾貳圓拾錢有之云々」トアリ而シテ其公判ヲ受クニ際リ福岡警察署ニ於テハ苛酷ナル拷問ヲ受ケ苦痛ニ堪ヘサルヨリ不實ノ口書ニ捺印シタリト述フレトモ口書ハ本人ノ供述ヲ其儘錄取スルモノニシテ本人ノ承認セサル口書ニ強テ押印セシムヘキ筈ナキノミナラス三等巡査萩原靜ノ被告ヲ捕縛シタル報告書ヲ閲スルニ「本職直チニ該店ニ進行先其時計携帶セシ者ニ就キ姓名ヲ聞糺スニ左ノ如ク答ヘタリ自分義ハ熊本縣下出生加藤計一二十二年目今無籍ナリ又問フテ曰ク汝携帶ノ時計ハ何處ヨリ求メタル者ナル哉ト尋問シタルニ曖昧トメ明ラカニ答ヘサルヲ以テ右告訴者善助ノ見認メシ事情ヲ示シ詰問シタルニ答ユルニ此時計ノ義ハ御示シノ通リ福岡宿屋姓名不存ニ於テ盜ミタル者ナリ云々」トアリ右ノ外事主千住善助並ニ旅店主山崎啓助等ノ申立等ヲ照合スルニ被告ハ山崎啓助方ニ於テ千住善助所持ノ金圓並ニ時計ヲ盜取シタルヿ判然タルヲ以テ長崎裁判所福岡支廳ニ於テ福岡警察署ニ爲シタル口供ヲ眞實ノ白狀ト認定シ竊盜三犯贓金五拾圓以下ナルヲ以テ賊盜律竊盜條ニ依リ懲役十年申付ル但云々ト申渡シタルハ不法ノ裁判ニ非ストス

判決

右ニ辨明スル如クナルヲ以テ明治十三年八月廿八日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ菊地秀一ニ申渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ

第六百三十七號

○判文（得遺失物ノ件）明治十三年八月十八日上告
明治十三年十月五日判決　大分縣豐前國宇佐郡東荒木村
平民多七妹　折元　明治十三年八月十六日

右「トリ」カ明治十三年七月二十二日大分縣警察署ニ於テ爲シタル供狀及ヒ明治十三年八月十三日熊本裁判所管内中津區裁判所ニ於テ爲シタル口供左ノ如シ

中津警察分署ニ於テノ口供

一自分儀是迄御所分ヲ蒙リタル義無之候事

一兼テ家計不手廻リヨリ明治十二年二月爾來同郡上乙女村江上道平方ヘ下婢奉公致シ居候處本月十六日要用有之同郡中須賀村通行之節紬地紫堅横縞小風呂敷ニ何ニカ包ミタル儘路上ニ落シアルニ付拾取リ道程四五町モ參リタル時分右包ヲ改メ見ルニ壹圓紙幣六枚半圓三枚貳拾錢貳枚拾錢七枚之アリ則天賜ナリト竊カニ相喜ヒタルモ若シ他日事ノ發覺センカヲ恐レ風呂敷ハ地名不存路傍ニ捨置自分所持ノ紙ニ押包タル儘懐中シ雇主道平方ヘ立歸リ居其夜何氣ナキ体ニテ同郡上乙女村姓名不詳店頭ニテ日傘壹本ヲ七錢ニ又同村姓名不存小店ニテベツユウノ櫛壹本ヲ貳錢ニテ買求メ殘金八圓六拾壹錢及ヒ買求メタル品ハ悉皆翌十七日自宅ヘ持歸リ實母「ツヤ」ヘ對シ右九錢ハ私ニ費用セシヿ尚端錢壹錢所持セシ分ハ押包ミ殘金八圓六拾錢ノ分昨日中須賀ニ於テ拾ヒ取タル旨申向ケタレハ夫レ

ハ其儘ニ難致ニ付母ヘ渡置クヘシト申聞ケニヨリ則殘金八圓六拾錢丈ケ母ヘ相渡置キ再ヒ雇主道平方ヘ立歸タレハ突然道平ヨリ昨日途中ニテ拾金ハ不致ヤト問ヒ掛ケラレ不得止前條母ヘ相渡シタル旨返答致シタレハ然ラハ早々持參ルヘシト申聞ケニヨリ歸宅ナシタレヒ最早母ヨリ四日市警察分署ヘ拾物屆指出シ候趣ニ付其段歸報致シタルモ尚九錢丈ケ費用ノ義及ヒ端錢壹錢所持ノ分ハ深ク押隱シ居候處今般當御署ヨリ御呼出ヲ受右御尋問ヲ蒙リ始メテ悔悟ノ念相生シ候ヨリ前件有体申立候事

一前條買求メタル傘及櫛端錢壹錢ハ御引揚ケ相成候事

中津區裁判所ニ於テノ口供

一自分儀明治十三年七月十六日同郡中須賀村通行ノ節路上ニ於テ金八圓七拾錢在中ノ風呂敷包ミヲ拾ヒ得隱匿致シタル始末ハ明治十三年七月二十二日四日市警察分署及ヒ明治十三年八月十二日中津警察分署ニ於テ拇印ヲ爲シタル口供ノ通リ聊カ相違無之候事

一　右拾ヒ得タル金圓ノ不足金九錢ト風呂敷壹ツノ估計金五錢ハ本日實母「ツヤ」ヨリ完納仕候由ニ承リ候事

右ノ口供ニ依リ明治十三年八月十三日熊本裁判所管内中津區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十三年七月十六日同郡中須賀村通行ノ節路上ニ於テ金八圓七拾錢ト估計金五錢ニ値ル風呂敷壹枚ヲ拾ヒ得隱匿シタル科明治九年第五十五號布告改正得遺失物律ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ賍金壹圓以上懲役六十日ニ一等ヲ減シ懲役五十日可申付處明治十三年七月十八日實母「ツヤ」ヨリ四日市警察分署ヘ首出スルヲ以テ名例律犯罪自首條ニ照シ其罪ヲ免ス

大分縣七等警部出事於テハ右ノ裁判ヲ不法トナシ明治十三年八月十八日司法省ニ差出シタル末大審院撿事ヨリ本院ニ送付シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

右本犯カ遺失物ヲ得テ官ニ送ラサル顚末ヲ取調フルニ明治十三年七月十六日外出先豐前國宇佐郡中須賀村路上ニ遺失シアル紬地小風呂敷内ニ紙幣取交八圓七拾錢アルヲ拾採リ竊カニ相喜ヒタルモ他日事ノ發露センコトヲ恐レ風呂敷ハ途中ニ投棄シ該金ヲ以テ日傘外壹品ヲ代價九錢ニテ買求メ尚ホ端錢壹錢ハ隱匿シ殘金八圓六拾錢ノミ拾得タル旨實母「ツヤ」ヘ申向ケタルニ早速母ヨリ其旨四日市警察分署ヘ屆出タル云々別紙口書ノ通供述スルニ依リ則改正得遺失物律及ヒ名例律犯罪自首條第二項第二段ニ該ル罪ヲ犯シタルモノト見込明治十三年八月十三日熊本裁判所中津支廳ヘ求刑ニ及タル處即日該裁判所ニ於テハ直チニ其罪ヲ免シタリ依テ本犯ノ口供及ヒ犯罪自首律ヲ閲スルニ其口供中曩ニ拾取リ投棄シタル紬地風呂敷ハ拾取ラスト云ヒ尚ホ拾得ル金八圓七拾錢ヲ八圓六拾錢ナリト詐言シタルハ之レ則犯罪自首律第二項中不實不盡ノ罪ヲ犯セシモノト云ハサルヲ得ス果シテ然ラハ該律ニ據リ相當處斷スヘキモノナルヲ親族相容隱スルヿヲ得ル實母「ツヤ」ノ代首ナレハ迚其犯セシ不實不盡ノ罪ヲ放棄シ單ニ未發自首ト同シク論シ其罪ヲ免シタルハ之レ法律ニ背戻セシ不當ノ裁判ナリ云々

辨明

折元「トリ」カ金八圓七拾錢在中セル小風呂敷包ヲ道路ニ拾取リ該風呂敷ハ途中ニ投棄シ右金八圓七拾錢ヲ隱匿シテ內拾錢ヲ竊ニ費用シ歸宅ノ後チ實母ニ對シ殘金八圓六拾錢ノミヲ拾得タリト僞リ差出タリ故ニ實母ハ該金圓ヲ齎ラシ「トリ」カ遺失物ヲ得テ隱匿シタル罪ヲ四日市警察分署ヘ代首セリ依テ之ヲ名例律犯罪自首條其本犯人ヲ遣シテ代首セシメ若クハ相容隱スルヿヲ得ル者爲メニ代首シ云々各罪人自首法ノ如ク罪ヲ免ストアルニ照シ仍ホ未發自首ニ係ルヲ以テ其罪ヲ免スヘキ者トス然レトモ其自首タルヤ金八圓六拾錢ノ罪ニ係リ「トリ」カ隱匿シタル拾錢ト估計金高五錢ニ當ル小風呂敷ノ罪ハ首出セサル者ナレハ仍ホ犯罪自首條若自首シテ不實不盡ナル者ハ不實不盡ノ罪ヲ以テ之ヲ罪ストアルニ依リ乃チ雜犯律得遺失物條改正ニ凡遺失ノ物ヲ得隱匿シテ官ニ送ラス及ヒ主ニ還サヽル者ハ官私ヲ分タス竊盜ニ準シテ論シ一等ヲ減シ並ニ物ヲ追シテ官私ニ還給シ云々トアルニ照シ其隱匿セシ不實不盡ノ賍壹圓以下ナルヲ以テ懲役五十日ヨリ一等ヲ減シ其情狀ヲ酌量シ一等ヲ減シ併セテ二等ヲ減シ懲役三十日而シテ「トリ」ハ婦女ナルニ依リ改正贖罪收贖例圖ニ照シ收贖スヘキ者トス然ルヲ原裁判所ニ於テハ「トリ」カ前文ノ所爲ヲ未發自首ヲ以テ論シ直チニ全免ヲ與ヘタルハ出事七等警部カ上告ノ如ク不法ノ裁判ナリトスル左ノ如シ

判決

右ノ如クナルヲ以テ熊本裁判所管內中津區裁判所ニ於テ折元「トリ」ニ申渡タル裁判ヲ平翻

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ依リ不盡ニ係ル賍金壹圓以下ノ科雜犯律得遺失物條ニ擬シ竊盜ニ準シテ論シ一等ヲ減シ仍ホ情法ヲ酌量シ一等ヲ減シ併セテ二等ヲ減シ懲役三十日婦女タルヲ以テ例圖ニ照シ贖ヲ聽ス

收贖金七拾五錢

第六百三十八號

○判文（官林盜伐ノ件）明治十三年八月卅日上告
明治十三年十月五日判決

石川縣越前國南條郡社谷村
平民
關根治助
明治十三年八月
四十年六ヶ月

右治助カ明治十三年八月十三日石川縣福井警察署ニ於テノ供狀及ヒ明治十三年八月廿五日金澤裁判所福井支廳ニ於テ爲シタル口供左ノ如シ

石川縣福井警察署ニ於テノ口供

自分儀無高ノ者ニテ僅カノ受作ヲ爲シ漸ク生活罷在處家族ハ本年七十餘ニ相成候盲目ノ老母ヲ始メ妻子共五人ヲ自分一手ニ相養ヒ居リ候處昨年以來物價追々騰貴シ一層貧窮ニ陷リ日夜心痛罷在候折柄不斗惡心相生シ明治十二年舊九月日不覺南條郡社谷村內ニ有ル官山字城山ノ內鳴谷ト唱フル林ヘ立入盜伐シタル樹木左ニ

一樺　四本

但シ回リ四尺斗一本同三尺ヨリ三尺五寸　三本

右回リ四尺斗ノ壹本ハ角柱ニ作リ其儘ニ自分所持罷在リ殘リ三本ハ悉皆薪キニシテ焚キ盡シ候事

明治十二年九月上旬前陳字鳴谷官山ノ欅四本ヲ盜伐シタル日ヨリ四五日ヲ經テ再ヒ同所官林ヨリ左ノ樹木盜伐致候事

一杉

但シ回リ四尺斗一本同壹尺四寸斗貳本　三本

右ハ回リ四尺斗リ壹本ハ盜取候日ヨリ十日程後チ南條郡長澤村木挽職久太夫ト申ス者ヲ雇ヒ自分ニ於テ板ニ作ラセ其儘所持罷在候得ヒ外貳本ハ自用ニ遣ヒ盡シ候事

明治十三年舊二月日不覺又候社谷村内ニ有ル官林字城山ノ内鳴谷ト唱フル林ヘ忍入リ左ノ樹木盜伐致候事

一欅

但シ回リ三尺五寸斗貳本同三尺斗貳本同貳尺斗貳本同壹尺ヨリ壹尺五寸斗ノ分貳本　八本

右八本ノ内回リ三尺五寸斗ノ貳本ハ自分角柱ニ作リ其儘自宅ニ差置キ餘ノ五本ハ悉皆薪キニナシ費用シ目今其殘リ目方百貫目斗自宅ノ傍ニ積置キ所持罷在候事

明治十三年舊二月日不覺前陳官山字城山ノ内鳴谷ト申ス林ヘ忍入リ左ノ通リ盜伐致候事

一杉　三本

但シ回リ貳尺斗壹本同壹尺四五寸斗貳本

是レハ自分ニ於テ皮ヲ剝キ其儘所持罷在候事

前顯ノ通リ盜業ヲ爲シタル處明治十三年六月三十日山林局御係リ官御巡回ノ際該官林御檢出ニ相成候旨ニテ同村々用係リ淵田貞助ヨリ盜伐セシ覺無之哉ノ尋ヲ受ケタルニ付到底遁レ難シト存シ先非ヲ悔ヒ明治十三年七月十九日武生警察署今庄御分署ヘ盜伐セシ次第自首仕候處今般蒙御糾訊今更奉恐縮候事

金澤裁判所福井支廳ニ於テノ口供

自分儀明治十二年九月中二度明治十三年二月中二度以上四ケ度居村字城山ノ内鳴谷ト唱フル官林ヘ立入窃ニ欅杉取交セ都合十八本盜伐致シタル后チ先非ヲ悔悟シ武生警察署今莊分署ヘ自首致シタル始末福井警察署ニ於テ御調ノ節別紙拇印爲シタル口供ノ通聊相違無御座候右盜伐セシ材木ハ柱或ハ割木等變換シ既ニ費用致シタル分モ有之ニ付代價ヲ以テ上納仕候

右伐木十八本代積金三圓六拾三錢ニ相成旨仰聞ラレ承知仕候以上

右ノ口供ニ依リ明治十三年八月廿六日金澤裁判所福井支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀居村字城山ノ内鳴谷ト唱フル官林ヘ立入リ欅杉ト取交セ都合拾八本盜伐スル賍金三圓六拾三錢ノ科盜田野穀麥條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ官物ナルニ付一等ヲ加ヘ懲役七十日ノ處先非改悟シ今莊分署ヘ自首スルヲ以テ犯罪自首條ニ照シ其罪ヲ差免ス

但シ賍金ハ追徵ス

石川縣八等警部松井貞哉ニ於テハ明治十三年八月三十日右ノ裁判ヲ不當ナリトシ司法省ヲ

經由シ明治十三年九月廿二日本院檢事ヨリ送付シタル上告ノ旨趣左ノ如シ

右關根治助カ別紙第一號之通リ〔第一號ハ上告狀ニ添〕首出スルニ付第二號ノ通リ〔第二號ハ前ニ掲クル警察署ニ於テノ口供〕口供ヲ徵シ陳告自首ノ見込ミヲ以テ明治十三年八月十八日金澤裁判所福井支廳ニ及求刑タル處明治十三年八月二十五日該支廳ニ於テ別紙第三號ノ通リ〔第三號ハ前ニ掲クル裁判所ノ口供ナリ〕更ニ口供ヲ徵シ明治十三年八月二十六日第四號宣告書ノ通リ〔第四號ハ前ニ掲クル宣告ナリ〕處斷ニ及ヒタル故其宣告書ヲ閲スルニ其方儀居村字城山ノ内鳴谷ト唱フル官林ヘ立入リ樺杉取交セ都合拾八本盜伐スル賍金三圓六拾三錢ノ科盜田野穀麥條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ官物ナルニ付一等ヲ加ヘ懲役七十日ノ處先非ヲ改悟シ今莊分署ヘ自首スルヲ以テ犯罪自首條ニ照シ其罪ヲ差免ストアリ右ハ未發自首ヲ以テ論シ全免ヲ與ルモノニハ非スシテ官物ナルニ付一等ヲ累加シ懲役七十日ノ處人ノ官ニ告クルヲ知テ今莊分署ヘ首出スルヲ以テ犯罪自首條ニ照シ本罪ニ二等ヲ減シ懲役五十日ノ處斷ニ及フハ相當ノ處前顯ノ通免罪ノ處斷ニ及ヒタル其斷刑不當ト見込候條一件書相副此段上告候也

辨明

被告關根治助カ村用掛リ淵田貞助ヨリ官木ヲ盜伐セシ覺ヘ無之哉ト問ヒタルハ官林檢査官並ニ淵田貞助ニ於テ被告カ盜伐シタルノ證憑アリテ詰問セシヤ將タ被告ハ該官林ニ立入ル者ナルヲ以テ念ノ爲メ問ヲ發セシモノナルヤハ原告官於テ右等ノ手續書ヲ出サヽルニヨリ之ヲ知ルニ由シナシト雖モ被告ノ口供ヲ閲スルニ明治十三年六月三十日山林局御係リ官御巡回ノ際官林御檢出ニ相成リ候旨ニテ同村々用掛リ淵田貞助ヨリ盜伐セシ覺ヘ無之哉ノ尋ヲ受ケタルニ付到底遁レ難シト存シ先非ヲ悔ヒ明治十三年七月十九日今莊警察分署ヘ盜伐ノ次第自首仕候」トアルヲ以テ觀レハ淵田貞助ヨリ念ノ爲メ尋問セシ迄ニシテ被告カ盜伐ノ證端等アリテ之ヲ詰問シタル情ナク又右尋問ニヨリ事已ニ官ニ發セントスルヲ知テ首出シタル跡モアラサレハ例第五十九條ニ依リ本罪ニ二等ヲ減シ處分スヘキノ限ニ非ス乃チ金澤裁判所福井支廳ニ於テ犯罪自首條ニ照シ其罪ヲ差免スト申渡シタルハ適當ノ處分ナレ𪜈官林ヲ盜伐シタル本罪ハ盜田野穀麥條ニ依リ賍金壹圓以上懲役六十日ニ處スヘキヲ官物ナルヲ以テ一等ヲ加ヘ懲役七十日ニ擬セシハ不當ナレ𪜈必竟前ニ辨明スル如ク全免ヲ與フルモノニ係ルヲ以テ破毀スルノ限ニ非ストス

判決

右ノ理由ナルニヨリ明治十三年八月廿六日金澤裁判所福井支廳ニ於テ關根治助ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキノ理由ナキヲ以テ上告狀却下スルモノナリ

第六百三十九號

○判文〔養母毒殺ノ訴ヲ受ケシ件〕明治十三年三月三十一日上告
明治十三年十月六日判決
靜岡縣駿河國志太郡大島新田村十五番地平民
池ケ谷重藏
明治十一年十月
三十四年三ケ月

右重藏カ明治十一年十月二十九日靜岡裁判所ニ於テ審問ヲ受ケシ口供左ノ如シ

自分儀ハ同郡宗右衛門村農村上亀藤助二男ニ有之候處明治四年一月中遠江國榛原郡上小杉村池ケ谷利助等ノ媒酌ヲ以テ當家ヘ養子ニ參リ家ノ女「マツ」ヲ妻ト致シ養母「フサ」ト三人暮ニテ少シノ持地ヲ耕シ並ニ人ノ小作ナトシテ漸ク日ヲ送リ居リシカ自分ハ性來弱體ニシテ疝癪ノ持病有之萬事働キ方モ意ノ如クニ出來兼ヲ且ツ男子惣十ヲモ儲ケ彼是暮シ方ニモ骨ヲ折レシニ養母ハ元來口嘩シキノミナラス近所ニテ皆人ノ知ル六ケ敷氣質ノ人ニテ夫レカ爲メ實子總領ノ鉄藏モ跡目相續モ致サス藤枝在ヘ別居致シ又實女「ナヲ」モ夫レ等ノ爲メ家ヲ措テ細島村ノ峯藏方ヘ緣組致シ自分ノ妻「マツ」ハ末ノ子ニ有之シカ跡ニ殘ルト申ス樣ナ譯柄ニテ養母ハ些ノ事ヲモ大業ニ言立テ致ス故ニ自分ノ參ラサル已前ヨリ人カ自宅ヲ喧嘩家ト惡口申ス趣ニテ自分モ成ルヘキハ養母ノ言ニ從ヒ居リ候ヘ𪜈十言々ハレハ一言二言ハ辭返ス事モ品ニ因テハ之アリ自分聲高ナレハ定メテ近隣ニテハ喧嘩デモスルナラント思ハレシト存シ居リ候始末ニテ兎角同居致シ居テハ苦情モ不絶因テ親類組合等ノ世話ニテ隣家ヲ借受ケ別居爲致置候得共矢張彼是ト世話シニ出テ來リ候ヘ𪜈老人ノ事ト存シ自分ハ相手ニモナラスニ居レ𪜈間ニハ餘リナル事ヲ申シ或ルキハ池ケ谷家先祖ノ墓所両所ニ分レ居リシ故祭リモ行届キ兼且ハ墓所ハ一纏メニ致サヲハ成ラヌ趣キ村方ニテ申スニヨリ一塲所ヘ移シ祭ラント存シ牛ヲ傭ヒ墓石ヲ運ヒシニ内一個自分文字ノ見ヘサルヨリ誤テ他家ノ墓石ト違ヒ移シタルヲ養母聞キテ己レハ盗ミヲ爲ルトテモ人ノ石塔マテ盗ムト大業ニ云イ罵リ自分辭ヲ返セハ夫ヨリ尚モ大層言イ做シ又其後ニモ無盡講ニテ客來有之節饗應ノ爲メ豆腐ヲ買來ルヲ客ヨリ先キニ呉レト申ス故夫レハ遣ラレヌト申シタルヲ怒リ何ニカ嘩シク自分ノ事ヲ惡口云イ觸シ事ナトモ有之右樣ノ儀ハ度々ノ事ニテ何カ自分カ非道ニ致ス樣ニ申ス故寧ロ離緣致シ貰ヒ度存シ度々申出シ候ヘ𪜈子供モ有之旁妻モ聞入レス去リトテ何モ年中斯樣ニ苦情ノミニハ無之候然ル處明治十年八月中頃ヨリ養母忽ト發病シ持病ノ頭痛モ甚シク片手麻痺シ且下痢モ少々有之ヲ胸先痛ミ又時々嘔氣ヲ催ストテ床ニ就キ今年ハ大ニ弱ハリタル趣自ラ申スニ付養母ハ性來服藥ヲ嫌ラヒ候ヘ𪜈病氣永引テハ六十四年餘ノ老人ノ事故案シラレ且傍ノ者モ困ル次第ナレハ種々ト勸メ上小杉村杉本正甫ト申ス醫者ヲ頼ミ治療ヲ乞候處中症ノ類ニテ矢張リ年病ナリト申シ丸藥ヲ呉レシ故爲呑タルニ次第快氣ニ成リ三十日ハ掛ラスシテ宜ク成候ヘ𪜈全ク常ノ元氣ニハ還ラス餘程弱ハリタル体ニ有之食物等モ少量ニテ今年十一年二月ニ到リ覺不前ノ病ヒ再發シ下痢嘔氣等有之ニ付藥用致スヘク申勸レ𪜈飯サヘ味ナキ位ナレハ藥ハ迚モ呑ミ得ラレス替リニ按摩ヲ買テ呉レト申スニ付其意ニ任セ時々按摩ヲ頼ミ居候ヘ𪜈次第ニ衰弱ノ体ニ見ヘ下痢モ止マス右樣ヤカマシキ人モ勢イ摧ケテ傍ヨリモ案シラレ萬一手後レニ相成テハ濟マスト存シタルカ三月一日比ト覺フ早朝ニ實家ヘ用事有之罷越ス序テ杉本正甫ニ診察ヲ乞ント存シ行ク途中右正甫ハ此頃自身ノ病氣ニテ中々病家見舞ハ出來スト存シノ者ヨリ承リ候ニ付曾テ自分ノ病氣ニテ前々掛リタル宗高村ノ醫者大塚琴齋方ニハ未タ藥禮ノ滯リモ有之頼ミ兼候ヘ𪜈近クノ事ニモ有之其譯ヲ申シテ頼ント同人方ヘ相越シ譯ヲ話シテ頼ミ入候處承知ハ致シ呉レ候ヘ𪜈是ヨリ急ノ病家先ヲ廻リソレカ濟タラ行テヤロフトノ事故頼ミ置キ實家ヘ廻リ用事爲濟午飯ヲ食ヒ皈リ道ニテ自分

近所ノ増田大吉急用ナル体ニテ參ルニ出會候處養母今率付ケ死ンタ故急ニ向イニ來タトノ事ニ打驚キ自分ハ病身故ニ疾走スル事カ出來ス因テ同人ニ駈ケテ琴齊ヲ連レ飯リ呉レト申セシニ醫者ヘハ宅ヨリ使ヲ遣リタル故モウ來テ居ルナラント申スニヨリ自分ハ大吉ト息ヲ切テ飯リタル處母ハ息ヲ吹返シ近所ノ清助半次郎國藏等數人參リ居リシニ醫者ハ未タ參ラス故ニ直クト萬兵衛ト申ス者ヲ頼ミ遣リタルニ病家先ヨリ未タ飯ラサル趣ニテ飯リ次第ニ來ル筈ニテ又家ノ子鉄藏並ニ「ナヲ」方ヘモ知ラセタルニ間モナク參リタルニ先ツ養母ニハ變シ事ナク候ヘトモ殊ノ外熱甚シク其日ハ騒キニ紛レ翌朝ニ至リ醫者琴齊漸クニ參リ呉レ時疫ナレトモ大層ノ事ハナイカ老人ノ事故氣ヲ付ケトノミ申シ是ヨリ又他ノ病家ヘ廻ルニヨリ藥ハ之ヲ以テ宅ヘ取リニ行ケト方書ヲ渡シ候ニ付自分取リニ參リ候處煎汁ヲ拵ヘ呉レ候因テ持飯リ養母ニ爲飲候得共性來藥ノ嫌ライナル處ヘ嘔氣有之故醫ノ申ス通リハ不飲タヽ胸カアツク咽乾クニヨリ湯茶ヲ頻テ呑ミ度申セトモ與ヘレハ忽チ下痢致ス故成ル丈ケ呑マセヾ欲ニ致シ二日計經テ自分琴齊方ヘ藥ヲ取リニ參リ且見舞呉レト頼ミタルニ容体ニ變リカナケレハ見舞フヾテモナク藥ヲ嫌フテハ困ルユヘ丸藥ヲモ遣ストテ先ノ煎汁ト共ニ呉レ煎汁ハ强テイヤカルナラハ飲マセルニ不及ト申ス故是ニ代ル外ニ何ニカ能ク利ク藥ハナキ歟ト尋ヲシニ熱ニハ犀角カヨロシ併シ高直ノ藥ナリト申ス故自分ノ藥禮滞リアル事ナレハ現金ニナクテハ呉レスト察シ錢貳百文ヨリ貯ヘ無之故コレ丈ケニテモ貰ヒタキ旨乞シニ壹朱ヨリ以下ハ賣レヌ藥ナレトモ其方ヘハ五百文ニテ遣スト申セシナレトモ其錢サヘ無之無據不求シテ飯宅仕養母ニ藥ヲ與フレトモ飲マス食物ハ僅カ粥又ハ蕎麥ヲ喰ヒマツ惡キ方ニハ無之故嫌フ藥ナレハ强テモ勸メス按摩ヲ買フテハサスラセ抔致シ居タルニ少々ハ宜キ姿ニモ見ヘ又日ニ因テハ惡キ事モ有之テ定マラス三月九日比歟ト思フ大分宜キ樣申居リ併シ熱ハ解ケス臭氣アリテ寢タル儘兩便ノ世話ヲ妻ノ致ス事ハ前日ニ變ル事無之此日歟養母申スニ折々腹ノ痛ムハ懐虫歟ト思フ故セメンシーナヲ呑ミ度ト云イ又夕飯ニハ蕎麥ヲ給テ見タク申スニ付妻「マツ」村内東福寺ヘ行キ蕎麥ヲ買求メ自分ハ養母數日前同人弟ノ妻名ハ今思ヒ出タサレス參リ居ル砌リ懐虫ノ障リノ趣申シ來合居リシ隣家ノ藤田國藏ノ妻「クマ」ヲ頼ミセメンシーナヲ買テ呑ミタルニ虫下リタル事有之ニ付セメンハ宜カラント存シ高柳下村松浦彦右衛門方ニテセメンシーナヲ買ヒ夕方右蕎麥ヲ煮テ給ル節セメンハ呑ミ惡クキ故蕎麥ト一緒ニ咽ヘ下スト養母申スニ任セ其通リシテ呑ミ跡ニテ又蕎麥ヲ給テ甘イト申シ其日ハ過キ翌日ニ至リ何分養母ト別宅ニ居テハ妻モ姙娠臨月ニモアリ世話介抱モ行届キ兼テ萬事不都合ニ付養母ニ其事申聞ケ本宅ヘ移リ養生爲セヨト申セシニ行クト申スニ付其夕方脚ヲ脱キタル涼臺ニ養母臥サセタル蒲團ノ儘載セ自分妻ト舁テ本宅ヘ連レ來タルニ今夜ハ湯キ米ノ粥ヲ給度申シタル故拵ヘテ爲給タルニ喜ヒ居リ跡テ咽カ何分乾ク故茶ヲ呉レト申スニヨリ臥カケ居タレトモ茶ヲ焚キ付ケ煮テ與ヘタルニ喜テ呑ミタリ因テ今夜カラハ家内一緒ニ臥ルヿ故用アラハ起サレヨト申シ置自分妻モ傍ヘ寢タルニ其夜二時頃ニモヤアラン妻自分ヲ呼ヒ覺シ母カヘンタト申スニ驚キ見タルニ率付ケタル体ニ付聲ヲ揚ケ呼ハレトモ返辭モナキ故自分ハ急キ本家池ケ谷半

之亟及増田大吉方へ走行キ呼起シ皈リタルニ已ニ息絶ヘ果有ノ人其他近所ヨリ追々參リ吳レ早ク醫者へ知ラセント申シタルニ半之亟等ハ斯死シタルモノヲ醫者ニ見セテモ仕方無之明早朝爲知レハ宜シキ旨申スニ任セ置鉄藏並ニ「ナヲ」方へモ早速知ラセ彼是致ス中夜モ明ケシ故醫者へ知ラセ追々親類ノ者モ參リ夫々葬具ヲ調ヘ則チ三月十一日村内東福寺へ埋葬致シ佛事ヲ爲濟候然ル處其後十日餘モ經テ本家半之亟方へ用事有之罷越候處同人自分ニ向イ養母病氣中禁止ノ鼠取藥ヲ買養母ヲ毒害シタル趣ノ風聞專ラ有之如何哉トテ尋問ヲ受ケ案外ノ事ニ驚キ決シテ左樣ナ儀ハナキ旨答ヘ皈リシニ何分心配ニ存シ考候ニ是迄カラシテ居宅鼠ノ害多ク已前官許貝入リノ鼠取藥ヲ買求メ鼠ニ爲喰タル事有之テ此儀ハ養母並妻モ存シ居ナレトモ其後尙鼠減セス粉種又ハ所得タル種物抔ヲ多ク喰荒シ候ニ付當時法度ノ鼠取ハ能ク効アル事ハ承知致シ居ル故内々此藥ヲ買求メ鼠ヲ取ラント存シ心當ノ先ヲ問合スレトモ當時法度ノ品トテ賣ル者無之然ル處二月九日頃十一年中新田村荒物店岡野武七ノ前ヲ通リシ故立寄内々問合セ候處殘リ品ハアレトモ禁賣ノ藥ユヘ賣ル事ハ出來ヌ趣申セシナレトモ鼠ニ困ル故極内密ニ賣リ吳レト申シ乞タルニ然ラハ女子供迄ニモ賣タ事ハ云イ吳レルナトテ壹袋壹錢五厘ニテ賣リシ故持歸リ其日ノ夕カ翌夕カ妻隣家ヘ風呂ヲ貰ヒニ行キタル跡ニテ半分ヲ飯ニ交セ小皿ニ盛リ家内ノ者モ知ラサル樣佛壇ノ後ヘ置キ殘リハ又ノ日用ヒント爐邊ノ敷席ノ下ヘ隱シ置シニ翌日カ見タルニ何レヘ紛失セシヤ無之其邊アチコチ探セトモ不見當妻爐ノ廻リヲ掃除セシ趣ニ付其時ニモ藥仕事作ルノ中ヘテモ紛レ込ミ共ニ竈ヘ焚キタル歟ト獨リ存シ居リ候鼠ニ與ヘタル分飯ハ喰アレトモ鼠ハ減ラス因テ今一度用ヒント存シ三月六七日頃序ノ折柄岡野武七方ヘ行キ鼠取ヲ失ヒタル事ヲ申シ今一袋吳レト賴ミ買得テ腹掛ノ裡ヘ入レ置キ折ヲ見テ鼠ニ吳レント存シ居リシニ彼是取紛レ其儘過キ來タル中養母ノ死去ニテ右鼠取ノ事ヲモ忘レ居リシニ其後思ヒ出シ腹掛ノ隱シ等見タルニ是又見ヘス不思儀ニ存シ内々此所彼所ト心付ケ探セトモ無之若シヤ他見ニ係リテハ成ラスト案居リシニ右半之亟ノ尋ヲ實ハ自分御法度ヲ犯シ鼠取ヲ買タル故カヽル疑ヒヲ受ルナラン何ニ致セ心痛ノ事ト憂ヘ居リ實ハ常々世間ニテ自分養母ト睦シカラサル噂サ有之故病後ノ扱イハ大事ト存シ成丈ケ手扱ノナキ樣ニト存シ居タル位ナルニ斯樣ノ風聞ヲ立ラレルハ殘念ノ限リト存居候處四月十七日ニ至リ藤枝警察分署ヨリ自分ヘ御尋ノ次第有之明十八日出頭スヘキ段御達シ有之ニ付罷出ヘキ旨戸長役場ヨリ傳達ヲ受ケ因テ自分ハ彼風聞終ニ上ニ聞ヘ取紛サレルナラント存シ尙考ヘ候ニ前件跡ニテ一袋買タル鼠取モ腹掛ケノ隱ヘ入レ其後チ買ニ行タルセメンシーナモ同ク腹掛ケ隱ヘツイ入レタルト思ヘハ若シヤ養母ニセメンヲ吳レシ節鼠取藥ト違ヒハセサリシヤ御法度ノ鼠取ヲ買ヒ其行先キカ分ラストシテハ萬カ一ニモ申開キノ出來サル時ハ此身ハ如何ナランモ圖リカタク且ツハ此程借金モ嵩ミ自分病身ノ者ニテハ迚モ生計モ出來カタク曾テ明治五年ノ冬借金ニ困リ且御年貢ニ差支ヘ妻モ共ニ家出シ靜岡臺所町ニ借宅シ炭賣ナトシテ半年余モ隱レ稼キ居リシ事有之ニ付寧ロ此場ヲ逃亡シ右樣ノ事ニテモ致シ潛ミ居ラント決心シ妻ヘハ次第ヲ明サス自分ハ病身ニテ此家ヲ守ルヿハ出來サル故離緣致シ吳レ左モナクハ今夜逃亡スルト云聞ケシニ何故ソンナツマラナイ事ヲ云フト申セシ故迚

モ病身ニテ百性稼キハ出來ス外ノ商ヒニテモシテ己レハ己レデ口過スル積リナリ故ニワレハ先祖ノ家ナレハ惣十ヲ育テ揚レハ此家ノ守リハ出來ルー云放チ其儘其夜十七日家ヲ出テ行ントスルニ妻モ長男モ立騒キ自分ノ後ロヨリ附纏イ參リシニ雨ハ盛ニ降リタレヒ自分ハ靜岡ヲ指テ行ク心得ニテ田尻村マテ參リシニ心持悪クナリシ故茂リタル藪陰ニ休ミシ處ヘ高柳村ノ番人常吉ニ見付ラレ此時已ニ夜同人自分ノ手ヲ押ヘ巡査方御出張先マテ參レト申シ引立テラレ其時初メテ妻ニオレハ一度テモ親ニ不孝カアルカラタト計リ中聞ケ一色村ノ番人廣吉方ヘ拘引セラレ其道ニテ常吉ノ申スニハ當時ハ何テモ悪事カアラハ眞當ニ申立テ自首トカスレハ首ノ飛フ罪テモ御免シニナルカラ自分ニ自首ヲセヨト申呉レ候ヘヒ何モ申サスニ居リ如何調ヘラルヽナラント思ヒ居リシニ右廣吉方ニテ巡査方ヨリ御糺ノ趣ハ何故分署ヨリ呼出シタルニ出頭セス家内ヲ連レテ逃亡シ雨中數ノ中ニ匿レ居ルハ最モ不審ナリ何レニモ事情有之ヘク有体申セトノ事故借用多ク有之候ニ付其儀ト存シ出頭致シ兼テシト一應申上タル處決シテ夫レシキノ事テハナイ有体ヲ申立テ仕舞ト テ御調ニ相成故實ハ居村ニテ自分ハ鼠取藥ヲ以テ親ヲ殺シタトノ風聞有之ニ付出頭致シ兼逃亡致シタル段恐入ルト申立タルニ自身ノ口カラ言出ス事ナレハ身ニ覺ノナキ筈カアルヘキカ夫レヲ有体申セトノ事故居宅鼠多ク穀物ヲ喰ヒ荒ス故内々御法度ノ鼠取藥ヲ買タル故右樣ノ風説ヲ致スト存ス決シテ身ニ覺ヘハ無之故御探索下サレト申上タル處其方儀ニ於テハ容易ナラサル風聞有之ニ付取糺ス爲メ藤枝分署ヘ召連レルト申渡サレ恐レ案シ居シニ傍ニ居ル人清兵衛カ申スニ彼是ト云ハスニ眞當ニサヘ申セハ御憐愍ニ相成リ彼是云ヘハ一ツテモ痛イ目ヲ餘ケセテハナラスト申スニ付自分ハ口ノ利ケヌ者ナレハ一々ノ申開キモ出來ニクカラン右ノ人達カ云フ事ナレハマサカ詐リニハ有ルマシト存シ寧ロ殺シタ事ニ申立テル方カヨカラントト今テハ後悔仕候ヘヒ淺ハカナル考ヘヨリ清兵衛ヲ陰ヘ招キ全ク風聞ノ如ク中新田村武平（原ノマヽ）方ニテ鼠取リヲ買求メ半袋壹袋ト申スヨリ輕茶ニ入レ親ニ爲呑タニ相違ハ御座ラヌ何分宜シク濟フト考ヘテ申シキ故其段ヲ巡査方ヘ申立テトノ事故改テ右ノ如ク申上タル處然ラハ繩ヲ掛ルトテ縛ラレ如何ナル哉ト存シ居タルニ直ト藤枝分署ヘ引カレ同署ニテ一等巡査ノ御調ヲ受ケ其節又一色村ニテ最初申立タル通リニ一應ハ申上タレヒ嚴シク御調ニナリシ故先刻御出張ノ御方ヘ申上タル通リニ相違無之ト申セシニソレ丈ケニテハ足ラヌ鼠取藥ヲ買タル手續ヨリ親ニ爲呑タル次第ヲ申セト段々ニ御尋ニ付ヨキ程ナル事ヲ申立テタレヒソレニテハ纏マラス次第ヲ立テヽ申セトノ事ナレヒ無實ノ儀ナレハ前後不揃ニテ口書ニナラス仍テ御調口ノ儘左樣ニ相違ハ之ナキト申上ケ終ニ其口書ニ拇印シテ更ニ靜岡警察署ヘ送ラレ同署ニ於テハ止タ藤枝分署ニテ申上タル通リナリト申立改テ口書ニ拇印致シタル處夫ヨリ裁判所ヘ御廻シ相成趣ニ付自分ハ案外ニ存シ左スレハ藤枝分署ニ於テ拇印致シタル口書カ定規トナリ自分ハ親殺シニ決シタル歟ト悲歎ニ堪ヘス罷在候處六月一日年十一當裁判所ヘ初メテ御呼出ヲ受ケ御調ヲ蒙リ因テ是迄無實ノ罪ニ服シ候段申上且幸ヒ前件紛失致セシヨリ若シヤ過テ養母ニ爲呑ハセサリシ乎ト心配仕居候鼠取藥カ着衣ノ襟先ヨリ出テシ故申開キノ證據ト存シ差出シ其後數次ノ御調ヲ經右之通リ申上候事

前供養母病氣中ノ事ヲ申立タル日限ハ己ニ月日立チタル事故相違モ有之ヘク一々確ト覺ヘ居リ候儀ニハ無之候

右著衣ノ襟先ヨリ出タル品ハ武七方ニテ賣リタル鼠取ニハ無之旨ヲ以テ御調ヲ受ルモ自分ハ武七ヨリ買求タル鼠取ニ相違ハ無之候

明治十一年十一月四日靜岡裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀養母ヲ毒殺セシ一件取糾ス處養母「フサ」ハ明治十年八月中ヨリ神經痛及自下痢病ニ罹リ發歇常ナク在リシニ同十一年三月一日俄カニ發熱シ終ニ同月十日夜ニ死セリ然ルニ其方ハ養母ヲ毒殺セシ趣ノ風聞アリヨリ警察官ニ於テ其虛實ヲ探偵セシニ其方ハ同郡中新田村小間物商岡野武七ヨリ禁賣ノ鼠取藥ヲ密買セシ事アルヲ偵知シ因テ取調ノ爲ノ同年四月十八日藤枝警察分署ヘ出頭スヘキ段其方ヘ達シタル處其期ニ先タチ逃亡セリ故ニ警察官ハ直チニ追跡拘執シ種々問糾セシニ漸クニシテ同年二月十二日同三月九日及翌十日三度マテ養母ニ鼠取藥ヲ與ヘシ旨供出シ其口書ヲ以テ求刑ナリタリ依テ其方問糾スルニ悉ク原供ヲ翻巽シ曾テ警察官ノ面前ニ於テ爲シタル口供ハ素ト諭誘セラレシ處ヨリ誣服シタルモノナリト自解シ併セテ紛失セシト思ヒシ鼠取藥ハ入檻後着衣ノ襟先ヨリ現出シタレハ該藥ヲ養母ニ呑セサルノ證據ナリトシテ呈シタリ因テ密買セシ鼠取藥ト同種質ナル品ヲ販賣者岡野武七ヨリ徵シ之ヲ靜岡病院ニ付シテ分析セシムルニ其分量純砒石ヲ主劑トシ微ニ炭化剝篤亞私ヲ混合セシ最モ猛列ナル有毒品ニシテ其中毒作用及死後ノ顯症等ヲ歷々說明シ又其方ノ呈出シタル品ヲ分析セシメシニ其原素ヲ確徵スル能ハスト雖モ或ハ糊米ノ分子ナルヘク敢テ健體ヲ害ス可キ有毒質ハ毫モ混合セスト保セリ且該品ヲ以テ其方カ買ヒ取リシト云フ賣主即チ岡野武七ニ示スニ曾テ自宅ノ賣リタル品ト異ナリト辨明セリ依テ該品ハ其方ノ虛構セシモノニシテ原供ヲ自解スル作術ニ外ナラストシ又「フサ」ノ病症及死屍ノ顯狀等ニ於テ「フサ」ノ實子池ケ谷鐵藏醫師大塚琴齊ヲ始メ親戚隣保其他ノ證人ヲ推究取調ルニ毒藥ニ中リタルノ徵候一モ得ル無ク而シテ其方カ警察官ノ面前ニ於テ爲シタル原供中謂フ所ノ事項モ他ニ對符スヘキ證件アルニアラス況シテ其原供ハ諭誘ニ因テ誣服シタリト改供スルノ始末ヲ推スニ當時追捕傭人等其方ニ向ヒ服罪ヲ挑起セシニ起因シ眞實ノ白狀ト信認スルニ足ラス右ノ理由ナルヲ以其方ノ養母ヲ毒殺セシ訴ニ付テハ有罪證據無之ニヨリ放免ス但明治五年第百四十二號布告ヲ以テ禁止スル鼠取藥ヲ買取スル科ニヨリ雜犯律違令條違令輕ニ問擬シ懲役三十日ノ處贖ヲ聽シ贖罪金貳圓貳拾五錢申付ル

但シ贖金ハ八日內ニ納ム可シ

大審院詰兼務檢事長岸良兼養代理檢事加納謙ハ明治九年第八號公布ニ因リ明治十二年三月三十一日ヲ以テ大審院ニ上告セシ事左ノ如シ

池ケ谷重藏カ養母ヲ毒殺セシト自白セシハ都合三回ニ及ヒ裁判官ニ對スルニ至テ突然原供ヲ反巽スルニ追捕傭人ノ諭誘ニ泥ミ誣服シタリト又曾テ紛失セシ鼠取藥ハ入檻後着衣中ヨリ發見シタリトノ之ヲ呈シテ養母ニ與ヘサルノ反證トナス等ニ過キス抑子トシテ母ヲ殺スハ兇殘ノ甚シキ獸ク赦宥ヲ得可ラサルハ理ノ最モ見易キ者ナリ況其事實ナクンハ百

方誘導スルモ如此ノ大事ヲ容易ニ虚構スルノ理アランヤ且也傭人ノ該犯ニ告ルニ止タ眞實ノ言ヲ以テセヨト云フニ過キス巧言飾辭之ヲ誣服セサルヲ得サルノ勢ニ擠陷シタルニアラス又其發見シタリト稱スル散藥ヲ分析スルニ一點ノ毒質ヲ混和セス尚其賣藥人岡野武七ニ示スニ已ノ賣與セシ藥品ニアラスト此等ノ證言ニ依レハ該藥ハ入檻中飯米ヲ散藥ニ擬製シ辨護ノ一具ニ備フル者ニシテ又其未タ就縛セサルノ前池ケ谷半之丞外一村ノ者該犯カ毋ヲ毒殺セシヲ嫌疑シ相告語スルヲ聞キ憂慮措カサルハ蓋シ其衷心掩フ可ラサル者アリ加之平素母子間ノ情義和熟セサリシハ親戚隣佑亦證明スル所ニノ且其死去前後ノ情況ト妻「マツ」ノ申供トヲ照査スルニ首尾符合シ其他事實ニ依テ推測スルモ證憑ト爲スヘキ者亦多シ然ルニ三月九日養母ノ望ニ應シ松浦彦右衛門ヨリセメシエンヲ買與ヘシ節鼠取藥ト取違云々ノ語アリ果シテセメンエンヲ亦彦右衛門ノ賣與ヘシハ何日ノ事ナリシヤ否モ審問セス輙ク之ヲ放免シタルハ林檢事意見ノ通靜岡裁判所ノ裁判ハ未タ審問ヲ盡サル不當ノ裁判ト考量ス

辨明

第一條

池ケ谷重藏カ養母ヲ毒殺セシト自白セシハ都合三回ニ及ヒ裁判ニ對スルニ至テ突然原供ヲ反異スルニ追捕傭人ノ諭誘ニ泥ミ誣服シタリト又曾テ紛失セシ鼠取藥ハ入檻後着衣中ヨリ發見シタリト之ヲ呈シ養母ニ與ヘサルノ反證トナス等ニ過ス抑子トシテ母ヲ殺スハ兇殘ノ甚シキ輙ク赦宥ヲ得可ラサルハ理ノ最モ見易キ者ナリ況其事實ナクンハ百方誘導スルモ如此ノ大事ヲ容易ニ虚構スルノ理アランヤ且傭人ノ該犯ニ告ルニ止タ眞實ノ言ヲ以テセヨト云フニ過キス巧言飾辭之ヲ誣服セサルヲ得サルノ勢ニ擠陷シタルコアラスト上告ナルニ因リ之ヲ審按スルニ重藏カ入檻後襞ニ紛失セシ鼠取藥ハ着衣中ヨリ發見シタリトシ差出シタル品物ハ靜岡病院醫員佐橋貢カ該品再分析セシニ健體ヲ害スルノ品ニハ之レナキ者ト試驗セリ又重藏ニ鼠取藥ヲ賣渡シタル岡野武七ニ示スニ渡與セシ藥品ニ非ストノ申供ニ據テ見レハ重藏カ前供ヲ取消サントスル反證ト爲スヲ得サルモノトス而メ追捕傭人杉本清兵衛尋問シタルヤ否ヤ上告書類中ニ之レナキヲ以テ靜岡裁判所ニ照會ニ及ヒタル處同裁判所ヨリ該件ニ關スル書類差廻シタルニ因リ之レヲ閲スルニ清兵衛手續書中〔有體申立左スレハ御寛大ノ御處置ニモ預ル譯ナレハ速ニ有體申立ルカ可然儀ト申聞候處同人暫ク考ヘ居リ候テ私ヘ少々用事有之趣キニテ蔭ニ呼ヒ申聞ケルニハ全ク中新田村武平方ニテ鼠取藥ヲ買ヒ取リ藥ノ中ヘ入レ呑セ害シタル趣キヲ申立云々〕又長坂常吉手續書中〔何カ不都合ノ儀在テ逃亡イタシタニ相違ナキ今ハ私壹人ニ候得ハ有體ニ申ス時ハ自訴同樣ノ事ニ御巡査ヘ執成遣ス可ク隱スニ於テハ分署ヘ引連レニ相成ル然ル上ハ一等巡査モ有之迚モ内濟ノ事ニハ相成ルマシ有體ニ可申ト申聞候處一向不存趣申スニ付其節報知ニ賴ミ候周平立歸リ御巡査始メ追々ニ參ルニ付夫レヨリ一色村ヘ參リ增田廣吉方ヘ一同立寄リ候處御巡査重藏所持ノ品ヲ御改メ相成候節逃亡ノ次第御尋ニ相成候處重藏申ス儀ハ借財ニ差支逃亡致スト申スニ付御巡査被申候儀ニハ左樣ハカリニ有マシ外ニ何カ不都合ノ次第アッテ逃亡シタルニ違ヒナシ明白ニ申立ヘシ重藏申スニハ當時鼠取

藥ニテ親ヲ害シタル風聞有之ヤト自分申スニ付御巡査被申候ニハ自分ヨリ申スニ付テハ全ク親ヲ害シタルニ相違ナキヤ有體ニ申スヘシト申聞ケ其時杉本清兵衛被申候儀ハ今有體ニ申ニ於テハ御寛大ノ御沙汰ニ預リ候樣御巡査ヘ願ヒ可遣間明白ニ申スヘシ其時私申シ候儀ハ清兵衛被申候通リ有體ニ申上候得ハ御内濟ニ相成候樣御巡査ヘ願上ケ又隱シ置キ御分署ヘ御引立ニ相成候節ハ内分ニハ不相成ト申聞ケ其時重藏清兵衛樣ニ咄シ度事アリト蔭ニ呼ヒ私儀ハ云々」トアリテ重藏反異ノ口供ト符合シ其原供ハ清兵衛常吉等ノ論誘ニ起因シタル者ト信スルニ足レリトス

第二條

其未タ就縛セサル前池ケ谷半之丞外一村ノ者該犯カ母ヲ毒殺セシヲ嫌疑シ相告語スルヲ聞キ憂慮措カサルハ蓋シ其衷心掩フ可ラサル者アリ加之平素母子間ノ情儀和熟セサリシハ親戚隣佑亦證明スル所ニシテ且其死去前後ノ情況ト妻「マツ」ノ申供トヲ照査スルニ首尾符合シ其他事實ニ依テ推測スルモ證憑ト爲スヘキ者亦多シトノ上告ナルニ因リ半之丞其他ノ取調書ヲ審閲スルニ平素母子間ノ不和合ナル事ハ着々符合スルト雖モ鼠取藥ヲ以テ切害シタル事ヲ見ルヘキノ證憑ナシトス又妻「マツ」カ靜岡裁判所ニ於テ爲シタル口供左ノ如シ

靜岡縣第六大區七小區駿河國
志太郡大島新田村十五番地重
藏妻平民

池ケ谷マツ
三十一年八ケ月

一自分儀實父惣七死去後實母「フサ」六十五年五ケ月ニシテ死スト二人暮ニ罷在候處明治四年五月中同郡宗右衛門村農村上藤助二男重藏ヲ自分ノ夫ニ貰受ケ長男惣十八年五ケ月ヲ生ミ家内四人暮ニテ小作致シ漸ク其日ヲ送リ居シニ夫重藏ハ兎角病身ニテ家業モ思ハシク出來兼ル人ニ有之候ヨリ實母「フサ」彼是ト申サレ兩人ノ間ク睦シカラス口爭モ屢有之居合惡シキヨリ寧ロ別レ住居ニテ各々暮シヲ立ソト壁一重隔テタル隣家ヘ母一人隱居イタシ少シノ農業ヲナシ糸引ヲ專ライタシ居候處明治十年八月中比ヨリ「フサ」常ヨリ持病ノ頭痛酷シク且手首惣身カツリ痛ミ自身申スニ今年ハ餘程衰弱シ氣分モ何ニヤラ惡シクナリシトノ事故上小杉村杉本正甫ト云フ醫師ヲ賴ミ藥ヲ貰候ヘトモ母ハ性來藥ヲ嫌ヒナル者故色々ト勸メ十二日分丸藥ヲ爲呑候處追々快ク相成候ヘトモ何分素ノ元氣ニハ立飯ラス終始心持カ惡イト申シブラ々々ト暮シマハ惡キ方ニハ無之候處明治十一年二月中比ヨリ病氣再發シ目カ舞トテ床ニ付キ依テ醫師ニ掛リ服藥致セト申勸ムルニ嘔氣有之飯サヘモ納マリ兼ル故予ノ云フ儘ニ致置呉レトテ服藥致ソウトハ申サス且ハ貧窮ニテ買藥等致スモ代金ニ差支條旁其意ニ任セ置候處拾別酷クモ成ラス臥タリ起タリ致シ居シニ三月一日比熱氣酷ク且下痢付キ候ニヨリ心配致シ居シニ少シ酒ヲ呑ミ見ント申スニ付母ハ平常至酒好キニ有之候ツイ近所迄油ト共ニ買ニ行キ立歸候處何カ譫語ヲ申スニヨリ呼覺シタルニ今麁シキ老僧來テ予ヲ招キシ故支度ヲシテ居ルナント云ヒ肩ニテ息ヲ使ヒ呼

ハレに早ヤ返事モセス貯へ藥トテ無之故自分水ヲ含ミ口移シニテ呑セシニ心付キ呼ハリシ聲ニ近隣ノ者モ參リ呉レ依テ近クナル宗高村ノ醫師大塚琴齊ヲ頼ミニ遣リ夫重藏ハ其實家ヘ相越シ不在中ノ事ナレハ夫ヘモ人ヲ遣シ親類又ハ近所ノ人モ打揃ヒシニ何分醫師ハ多用トテ即日參リ呉レス其翌日漸ク參リ呉レ煎汁ヲ冷シタル藥ヲ爲呑セ候ヘに熱發セス下痢モ度重リ甚痛心能在リ何分藥ヲ嫌ヒ醫師ノ申ス通リ服用セス湯茶ヲ乞候ヘに爲呑ハ直ニ下痢致ニヨリ成ル丈ケ控ヘサセ喰物モ僅カニ粥ヲ用ヒ候ヘに之迚モ嘔氣アル事故納マラサル事モ有之時ニ因テハ黄色ノ溜飲ノ水ヲ吐キシ事モ有之容體ハ先ツ六ケ敷存セラレ又日ニ因テハ大ニ見直シ候事モアリ自分モ其比ハ出産ノ前月故身モ疲レ夫重藏ト交ル々々看病致シ來リ候處三月十日夕飯ノ節母ユルキ米ノ粥ヲ拵ヘ呉レト申スニ付少シ煑テハ味ナキ故家内一同モ給ル故多ク煑テ呉レント米三合餘ヲユルキ粥ニ拵ヘ椀蓋ニ一杯給サセシニ殊ノ外甘シトテ今少シ呉レト又少シク給ヘ一同モ飯ヲ爲濟自分母ノ脊中ヲサスリ居候ヘに本宅ノ方ニハ惣十男長自分ヲ呼泣キ夫重藏モ兎角病身故世話モ行屆キ兼何分兩方ヘ引分レ居テハ不都合故本宅ヘ參リ呉レト母ヘ申勸メシニ往ント云シニヨリ蒲團ノ儘テ扉ニ載セ重藏ト舁テ連レ參リシニ咽カ乾ク故茶ヲ呉レト頻リニ申スニヨリ茶ヲ呑マセシニ其儘ヤスヤスト寢入シ故自分共ニ傍ニテ寢入タルニギクト云音致シタルニ目覺メ母ヲ呼覺シタルニ返辭モナク呼吸ヲ止メタルニ驚キ呼戻シ候ヘに其儘ニ死シ重藏ハ驚キ周章シテ近所ヘ爲知ニ參リ人々打集リ彼是致ス中夜モ明ケ其後ハ自分煑焚致シ且ハ死人ニ着セル白衣袋等ヲ縫ヒ十一日ニ東福寺ヘ埋葬爲濟候自分ハ懐妊ノ事故死人ヘハ携ルナト申ニ付入棺葬式ノ事ハ夫並親類且ハ實兄池ケ谷鐵藏等ニ致シ候事

一其後四月十七日戸長方ヨリ夫重藏ヲ呼ニ參リ候故自分ハ何事歟ト案シ居シニ夕方ニ歸宅致シ只默シテ何ノ話シモ致サス夜ニ入リシ後申スニハ予ヲ離縁シテ呉レト申スニヨリ何故左樣ノ事ヲ云ハルヽヤツマラナイ人ヨト申セシニ何分病身ノ上借金モ有之故逃亡シテ出稼ヲナシ何カ農業ニアラサル樂ナ商ヒニテモセントノ事故色々ト差止メシナレに又レハ勝手ニ稼キ惣十ヲ育テ共ニヤレハ此家ヲ立行事ハ出來ルナリ予ハ是カラ出テ行ト申セハ惣十モ父ト一緒ニ行クト泣立テ自分モ哀シク借金モツイ二十圓程モ有之其上母ノ死去ニ付テモ相應ニ入用モ掛リ所持品モ賣リシ上ノミナラス臨月ノ事ナレハ此儘捨置レテハ死スルヨリ外ハナイト當惑ノ餘リ曾テ明治五年ノ冬御年貢ニ差支夫婦に逃亡シ靜岡臺所町ニテ小商ヲ致シ抔シテ半年程モ暮セシ事有之シ故今度モ左樣シテ暮サント思ヒ重藏ヘトウシテモ家出スルナラハ妻子ヲ共ニ連レ行ケト申セシニ來ルナレハコイト申シ放チ庭ヘ下リテ出テ往クヲ惣十モ跡追ヒ走リ出テシ故ソンナトヽニ付カスにナレカ連レテ行クト申シ其儘ニ出テ立チ道スカラ重藏ニ何所ヘ行ク積リナルヤト申セシニ靜岡ナリ蒲原ナリ往ク蒲原ニハト申シ上小杉村マテ參リシ比夜モ明ケシナレに雨モ甚シク降リ自分モ一旦ハ出タナレに又考ヘ直シ重藏ヘ勸メテ立歸ラント種々申聞カシタレに更ニ聞入レス竟ニ田尻村ノ藪陰ニ休ミ重藏ハ五六間先ニ腰掛ケ何カ吐氣アル樣子ノ處ヘ高柳村ノ番人常吉カ突然參リ重藏ノ手ヲ捕ヘ其所ニ巡査方御坐

ル故來レト引立テラレシ時自分ハタヽ驚キ恐レ居シニ重藏自分ニ向ヒオレハ一度テモ親不孝カアルカラタト申シ連レ行カレタリ自分ハタヽ打驚キ重藏ハ親不孝ニテ御捕ヘニナリ自分ハ如何ナルヤト案シヽニ何分臨月ニ付宅ヘ御歸シニ相成リタヽ案暮シ居候處同月二十五日ニ至リ少シシ產氣付キ腹痛シ居候處ヘ巡查方御出張ニ相成夫重藏ハ母「フサ」ヲ毒殺致シタルニ付テ自分存シノ始末御糺ヲ受ケ候ヘハ產氣ノ折柄故タヽ巡查方ノ斯樣テアツタカ此フカト御尋ノヤヽ左樣ノ申上ケ何モ確トモ覺ヘス口書ニ拇印仕其翌日出產仕候儀ニ有之候事

一其後明治十一年五月二十四日靜岡警察署ニ於テ拇印致シタル口書モ最前自宅ニテ致シタル口書ニ已ニ申立タルトノ趣ヲ以テ御調ヲ受其末拇印致シ候口書故如何樣ノ事ナルヤタヽ御上ヲオーカナシ存シ拇印仕候然ル處當御裁判所ニ於テ右靜岡警察署ニ於テ口書ヲ一々御讀聞相成シニ大分有体ト相違ノ處有之其廉ハ多分食傷ニモ可有之ト推察シ賣藥ヲ服用致サセトアレハ食傷ト存シ候事モナク又別ニ賣藥ヲ爲呑セ候事モ無之タヽ一度カ二月中比惣テニ爲呑候セメンシイナヲ少シ給テ見ソト申タル事有之候ノミ呑シ候ヤ否ヤハ不存候又三月九日夕飯ノ際粥ヲ食シ其節食事ノ支度ハ重藏致シ候云々トアレハ重藏ハ食事ノ支度ハ致シ呉レス候又翌日十日蕎麥ヲ食シタク申聞ルニ付夫重藏買來云々ト有之候得共蕎麥ノ事ハ死スル日ヨリ五六日以前自分東福寺ノ「ツチ」ト云人ニ壹升分五錢ニテ製シ貰ヒ母共々一同給候事ハ有之重藏買ニ行タル儀ハ無之候事又四月十八日夫重藏ヲ藤枝分署ヨリ御呼出有之云々實母ノ死去ハ眞ノ病死ニ非ス云々夫ノ毒殺セシ事ト始テ知リト有之候得共藤枝分署ヨリ御呼出ノ事ハ重藏更ニ不申御召捕相成候後初メテ聞及候義ニテ又實母ヲ殺シタル樣ナ夫ナレハ私迚モ一緒ニハ逃ケ不申候

一醫師大塚琴齊ヲ賴ミ服藥サセタルハ暫シノ間ニテ何故引續キ醫者ニ掛ケサルヤトノ御尋甚行屆カス鹿末ニ致候樣ニ有之候ヘハ何分母ハ藥ヲ嫌ヒ何卒醫者ニハ掛ケ呉レナ却テ病ヲ益ス樣ナト立テ申スニ任セ置候併シ今ニ至リテハ不都合ニ立至リ恐入候

一夫重藏カ鼠ヲ取ルト申シタル事ハ昨十年ノ初メ母「フサ」ト語シ致シ其比中新田岡野武七方ニテ自分貝入ノ鼠取藥ヲ買ヒ來リ母ノ住居ヘモ重藏ノ方ヘモ配リ飯ニ入レ與ヘ候事ハ有之候得共其後ノ事ハ何モ不承候事

一母ノ死体北枕ニ致シタル儀ヲ御尋ニ候處別ニ北ニ致シテ臥サセタルニハ無之間ノ都合ニテ家內皆北枕ニ臥シタル儀ニ御座候事

一母ノ死去ニ就テハ是レソト不審ニ存シ候事ハ無之全ク熱病ニテ死シタリトノミ存居候事

右之通相違不申上候以上

明治十一年十月三日　　池ケ谷マツ拇印

右ノ如ク前供ヲ反異セリ因テ立會人村松六右衛門カ手續書ヲ閱スルニ左ノ如シ

手續書

靜岡縣下第六大區七小區駿河
國志太郡大嶋新田四十五番地

平民　　村松六右衛門

明治十一年十月
六十一年三ケ月

自分儀本日御呼出シノ上本年三月中池ケ谷重藏事件ノ儀ニ付手續御尋ニ御座候
此段奉申上候該事件ノ義ハ本年三月中ニテ二十日ト心得候重藏御召捕ニ相成候處即日
重藏ハ藤枝宿御分署ヘ御引立ト相成妻「マツ」義ハ一色村新田ト唱ヘ候得共實ハ惣右衛
門村ニ有之重藏出家ヘ御預ケ相成候處其翌日御巡査二名御越シニ相成尚亦「マツ」ヲ出
家ヨリ御引立ニ相成候處其砌リ自分義ハ村役相勤居リ候ニヨリ自宅ヘ「マツ」ヲ被召連
候處其節自分義ハ他行不在ニ付前役ノ齋藤仙右衛門宅ヘ尚又召連レ候趣キ然ル處
「マツ」ヲ御調ノ際俄ニ出産ノ催シト相成ルニヨリ遂ニ御調無之直チニ「マツ」ノ宅ヘ親
類共舁キ連レ行キ候趣キ同日歸宅ノ上ニテ承知仕候處殊ノ外難産ニテ其翌日自分御派
出所ヘ出頭致シ居候處同日御巡査二名「マツ」宅ヘ御出張ニ相成ル尤モ自分義モ案内ニ
テ同道罷越候處求タ産前ニ有之處ニテ御調ト相成ル右御調ノ廉ハ左ニ
一御巡査「マツ」ニ何ニ故ニ重藏ト同道ニテ逃去リシヤト問フ重藏義ハ借財ノ催促ニ困
リ逃去リ度旨之ヲ申ス處オマエハ逃ケテ行タラヨカロウカワタシハ子供モアリ且ツハ
懐姙ニモ有之今ニモ出産ニ有之ヤモ知レス夫レテハ跡ノ暮ラシカツカヌ故同道ニテ行
クヘシト申ノ家出ヲ致シマシタト答フ御巡査鼠取藥ヲ重藏カ養母ニ呑セタヲ存シ居ル
ヤト問フ夫ハ決テ存知申サス由之ヲ申シ續テ親ニ不孝ヲシタルト申ス事ハ田尻村ヘ隱
レ居ルヲ引立ラレ候際ニ重藏ヨリ初メテ承知致シマシタト答フ然ル後出産ノ催シト相
成候ニヨリ其儘ニテ御巡査方御歸署相成候間モナク出産ト相成申候ニ付追駈ケ行キ其
段御巡査ヘ御屆ケ申上置候然ル處同月二十五日ト覺候又候巡査一名「マツ」ノ口書持參
ニテ御派出相成ニ付自分案内ニテ罷越重藏ノ申ス處ヲ以テ此口書ヲ致シタルニヨリ相
違ナキヤ承ハレト迚御讀聞セノ上ニテ拇印致シ候義ニ御座候事
右ノ通相違不申上候以上
明治十一年十月廿四日

右

村松六右衛門　印

右ニ據テ見レハ「マツ」カ後供ト符合セサル處アルモ巡査出張取糺シノ節ハ全ク臨産場合
ニシテ其供述スル處信ヲ措クニ足ラスト雖モ重藏カ養母ヲ毒殺シタル事ハ曾テ知ラサル
モノヽ如ク又口供ヘ拇印セシメタルモ出産後時日ヲ經サルノミナラス重藏ノ申口ニ起因
錄取ノ后拇印セシメタルモノヽ如ク到底明證ト爲スヲ得サレハ「マツ」カ後供ハ前供ヲ取
消スヘキ効力アリトス

第三條

重藏カ三月九日養母ノ望ニ應シ松浦彦右衛門ヨリ「セメンエン」ヲ買與ヘシ節鼠取藥ト取
違ヒ云々ノ語アリ果シテ「セメンエン」ヲ亦彦右衛門ノ賣與ヘシハ何日ノ事ナリシヤ否モ
審明セス輒ク之ヲ放免シタルハ未タ審理ヲ盡サヽル上告ナレヒ靜岡裁判所ヨリ廻送スル
松浦彦右衛門カ靜岡縣ヘ差出シタル始末書ヲ閲スルニ左ノ如シ

御管下駿河國第六大區七小區
志太郡高柳下村字大島平民農
荒物渡世
松浦彦右衛門
明治十一年六月
六十二年八ケ月

本日御呼出ノ上本年三月八日志太郡大島新田農池ケ谷重藏ヘ殺蟲藥セメンシイナ賣渡候儀有之ヤ始末御尋ニ御座候
此段申上候私儀家内四人暮ニテ農間荒物渡世罷在候處本年三月八日兼テ知人ニ有之候大島新田池ケ谷重藏ナル者見世ヘ參リ殺蟲藥セメンシイナ買求度旨申候ニ付過般藤枝驛字白子町藥店近江茂右衛門方ヨリ仕入置候セメンシイナ代金壹錢ニ付目方貳匁ニテ壹包賣渡申候ニ相違無御座候處今般御尋ニ付始末有体御答申上候
右ノ通聊相違不申上候以上

明治十一年六月五日　松浦彦右衛門　印

右ノ如ク三月八日セメンエンヲ賣渡シタル事ハ明瞭ニシテ未タ審理ヲ盡サヽルモノト云ヲ得ス

第四條

重藏カ養母「フサ」病氣中診斷セシ醫師大塚琴齊カ始末書ヲ閲スルニ右ノ如シ

始末書

静岡縣下遠江國第十大區二十
二小區榛原郡宗高村二百八番
地醫師
大塚琴齊
明治十一年七月
五十年三ケ月

本日御呼出ノ上駿河國志太郡大嶋新田池ケ谷重藏養母「フサ」病氣ニ付治療依頼藥劑等始末御尋ニ御座候
此段申上候明治十一年二月二十八日大島新田池ケ谷重藏養母「フサ」病氣ニ付治療依頼初メハ重藏來リ候時間ハ午前十時比ニ御座候私ヘ依頼ニハ母病氣十日以來臥床セツナカリ候間早々頼ミ度段申出候其節私義風邪氣分モ不進重藏モ藥禮モ滯リ候間參診相斷ラント存候ヘトモ重藏モ養母ノ病氣食事モ不進候ヘハ心配ト申事故許諾其日多忙ニ付明三月一日午前五時比罷出候途中ニテ親類ノ者私ヲ頼ミノ爲メ來リ候ニ行逢同道イタシ參診仕候病氣ノ儀ハ時疫ノ症ニテ脉洪大身熱口燥渴食氣不進病者自身告テ曰時々嘔氣アリ傍人曰先刻下痢一行スト是全ク時疫トノミ察シ白虎湯三貼ノ煎汁七勺余ヲ一日料トシ投與仕候其翌一日置テ重藏來リ藥ヲ乞其際容躰相尋候處別ニ轉變無之趣相答候間又前劑一日量ヲ與フ其時重藏曰母ノ病症死生如何ト尋ネ候ニ付私申聞候ニハ病ハ極

重症トハ不存乍去老人故六ケ敷存ス只今ノ處ニテハ急變モ有之間敷兎角老體故厚ク看護可致段申聞候其時重藏養母ノ病症心配ノ趣ヲ以テヨキ藥ナキカト申事故犀角ヨロシカラント申候ヘハ五錢位モラヒ度由申候間五錢ニテハ少シト拾錢モラヒ受一包目方三分五厘遣シ此段全ク忘却仕居御尋ニ付思ヒ出シ御答申上實ニ奉恐縮是ハ賣與候間配劑記ニハ記載不仕候

一病人ヘ丸藥用ヒ候事無之候

一重藏ノ家ハ私始テ參リ先年參リ候事無候家ハ私宅ヨリ六七丁モ距離有之候私參診ノ時ハ東西ニ二軒茅屋アリ其間凡二間程離レ一家ハ殊ニ小サク東ニアリ一家ハ少シ大ニシテ西ニアリ重藏ノ本宅ト相見ヘ東ハ老母ノ居室トイフヘキ處ニ御座候診察ノ時ハ此處ニテ重藏外老母一人看護イタシ居候重藏妻一度參リ私ヘ一禮シ立去リ候診察中他人一兩人東ノ家ニ相見ヘ候

一診察日限藥劑投與配劑記左ニ寫之候

三月一日　疫

一白虎湯液　三貼汁
　　七勺餘

三日

一七勺

右始末御尋ニ付御答申上候

右ノ通聊相違不申上候以上

志太郡大島新田十五番地
池ケ谷重藏母
六十六年

大島新田重藏
老母

右

大塚琴齊印

明治十一年七月十五日

右ニ據テ見レハ明治十一年二月二十八日比ノ病体ハ時疫ト診斷シ其重症ナルヿヲ信スルニ足ルト雖ヒ三月十一日「フサ」死去ノ際醫師ノ診斷セシニ非サレハ果シテ如何ナル病症ニテ死失シタルヤ否之レヲ審明スルニ由ナシトス

右條々辨明セシ如ク「フサ」カ中毒ニテ死失セシ明證ナキ上ハ推測ヲ以有罪者ト認ムル事ヲ得サルノミナラス病中看護ノ手續重藏ト「マツ」ノ後供符合シ唯前供ノミヲ以テ果シテ養母ヲ毒殺シタル者トハ爲シ難シトス故ニ靜岡裁判所ニ於テハ重藏カ養母ヲ毒殺セシ訴ニ付テハ有罪ノ證據無之ニヨリ放免シタルハ適當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十一年十一月四日靜岡裁判所ニ於テ池ケ谷重藏ニ申渡シタル裁判ヲ破毀ス可キ理由ナシトス

第六百四十號

○判文〔闘毆ノ件〕明治十三年三月六日上告
明治十三年十月六日判決

山口縣周防國佐波郡三田尻下町士族
大藏省五等監吏
中村庫輔

一二九

明治十三年二月
三十年十一ケ月

廣島縣備後國深津郡福山東町
士族彌三郎弟
大藏省二等監吏補
松尾才一
明治十三年二月
三十年十ケ月

右庫輔外一名カ所爲ニ對シ明治十三年二月廿七日横濱裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀佛國人「ボンノー」ヲ毆傷シタルヿナシト主張スルト雖ヒ第一清國人阮大義張板ノ兩人ハ稅關二階ニ於テ數人ノ監吏カ「ボンノー」ヲ毆打スルヲ見認タリト陳述シ第二庫輔才一ハ當時稅關二階ニ於テ清國人ヲ見サリシト云フト雖ヒ其場ニ在リタル稅關雇米國人「ルイ、ウエルテムブル」カ「ボンノー」ノ聲ヲ聞キ且ツ二三ノ監吏補ト二三ノ支那人ヲ見受タリト證言アリ第三稅關二階ニ於テ最初ニ「ボンノー」ニ近寄リタル人ハ庫輔才一ノ二人ナリシト云ヘルハ梅川襲光有明省三等ノ供述アリ第四佛國領事ヨリ神奈川縣令ニ照會シタル書翰中ニ「ボンノー」カ負フタル打傷ハ全ク明亮ナル痕跡アリシヲ確證ストアルノミナラス庫輔才一モ領事廳ニ於テ「ボンノー」ノ傷痕ヲ見タリト明言セリ右等ノ證據ニ依リ中村庫補松尾才一ハ共ニ手ヲ以テ佛國人「ボンノー」ヲ毆傷シタル者ト認定ス右科鬪毆律ニ照シ士族ナルヲ以テ各禁獄三十日酌減スヘキ情狀アルニ依リ本罪ニ二等ヲ減シ各禁獄一十日ノ處庫輔ハ判任官ナルニ依リ官吏私罪贖例ニ照シ贖罪金貳圓才一ハ準等外吏ナルヲ以テ贖罪金壹圓五拾錢申付ル

中村庫輔外一名ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年三月六日大審院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

第一條

一宣告文第一證ニ「清國人阮大義張板ノ兩人ハ稅關二階ニ於テ數人ノ監吏カ「ボンノー」ヲ毆傷スルヲ見認タリト陳述シ」ト有レトモ兩人ハ現場ニ居合セザルモノナリ豈何ンソ之ヲ見認ルノ理アラン此レ僞リノ作證タルコト明亮ナリ原被兩告カ相互ニ證據人ト申立タル大藏一等屬平川武柄及ヒ被告證據人タル大藏三等屬菊名啓之同八等屬高垣義爲ノ三名ハ最近ノ場所ニ居テ始終該件ヲ目擊シタルモ登時清國人ノ同所ニ居合シタルヲ見ザルナリト證言セシニアラヤ然ノミナラス兩人證據ノ作言タルハ原告「ボンノー」ト阮大義張板ノ申立ニ各差異アリ次下ノ如シ○ボンノー云ク拙者ヲ稅關二階ニ於テ毆打シタルハ自分ヲ追躡シ來リタル六七名ノ監吏ノミナラス同所收稅課吏員モ課內ヨリ手ヲ下シテ毆打シタリ其毆打ヲ受ケタルトキハ自分ハ壁ヲ背ニシ板ヲ右ニシ隅ニ居タリト○阮大義云ク日時ハ覺ヘザルガ某日自分所用アリテ稅關二階ニ來リ居タルトキ檢査課則チ第四デスシヨリ五六名監吏ノボンノーヲ毆打セシヲ見認メタリト「此時被告私共之ヲ駁シ檢査課ヨリハ距離アリ且ツ該課ノ所在ハ高處ナリ課中ヨリハ實地打毆ハ出來サルナリト辨明シタルニ因リ」同人更ニ檢査課ノ方角ヨリ毆打シタルノ義ナリト改辨シ且始終其場ニ居タルモ收稅課吏員ノ毆打（ボンノーハ收稅課吏員モ課中ヨリ打毆セシト云フ）」セシモノアリシハ見ザルナリト○張板

云ク自分ハ某日所用アリテ稅關二階ニ罷越シタルトキボンノーヲ追駈ケ來リタル監吏十四五名（阮大義ハ五六名ト云ヘリ）三階ノ段下ニ待居テボンノーカ三階ヨリ二階ヘ降リ來ルヤ否ナ直ニ同人ヲ前後左右（前後左右ヨリ打タルト云ヘトモボンノーハ壁ト板トノ隅ニ倚リ居タリトヘリ左スレハ其場合ニ於テ後面ヨリ又ハ右面ヨリハ毆打ノ出來ル理ナシ）ヨリ取卷キ收稅課事務所前ニ於テ毆打シタリ尤モ收稅課吏員ハ一人モ毆打（ボンノーハ收稅課吏員モ打毆セリト云ヘリ）セシ者ナシト」各ノ申立斯クノ如キノ齟齬アリ何レカ信何レカ僞ナル若シ原告ボンノーノ申立ヲシテ信ナルモノトセハ阮大義張板ハ現所ニ在テ實況ヲ見認メシモノトスヘカラス若シ阮大義張板ノ言ヲ證トセハ原告ボンノーノ申訴詐僞ニ出テタル白ケシ又阮大義張板ノ兩人ハ毆打シタルモノハ監吏ナリト陳スルモ横濱裁判所ニ於テ私共ト對面シタルキ毆打シタル人ノ面ハ知ラスト答ヘ私共ヲ指示スルヿ能ハサリシニアラスヤ始終同所ニ居タルモノニシテ何ンソ毆打者ノ容貌ヲ知ラサルト云ヲ得ン此レ其現場ニ居サルモノタルヿ明ナリ抑モ被告私共ガ屢々陳述シタル如ク原告ハ該件ニ付被告才一ガ前キニ佛國領事廳ヘ出訴シタルトキボンノーハ御國人增吉興八ノ兩人ヘ金錢ヲ與ヘ强ヒテ自己ノ證人タラシメ同廳ニ於テ僞證ヲ申立テシメタルニアラスヤ其兩人カ金錢ヲ受ケタルヿハ警察官カ同人等ヲ糾問アリシニ因テ著明ナリ斯クノ如ク原告人ハ僞證人ヲ差出スヿヲ耻トセサルモノナレハ前顯阮大義張板ノ陳辭原告人ト數々支牾アル旁私共ニ於テハ該證モ亦增吉興八ノ如キ詐證ナリト認メサルヲ得サルナリ右ノ如キ詐僞ノ證據ヲ採用セラレ却テ平川武柄菊名啓之高垣義爲等ノ提擧シタル「ボンノーハ手ヲ振リ足ヲ擧ケテ被告ノ寄付クヲ追拂ヒ暴動ヲナシタルモ被告ハ丁寧ニ取扱ヒ粗暴ノ擧動ハ少モナサヽリシ」ト云ヘル證據殊ニ平川武柄ノ如キハ原告被告ノ互ニ信用シテ申立タル證據人ナリ夫等ノ確證ハ擧テ放棄シ更ニ採用セラレス況シヤ又原告本人ト證據人トノ申立前文ノ如ク齟齬シタルヲ實地ニ就キ御檢査モナキハ其理由了解難仕是不服ノ一ナリ

第二條

一同第二證「庫輔才一ハ當時稅關二階ニ於テ淸國人ヲ見サリシト云フト雖ヒ其場ニ在リタル稅關雇米國人ルイ、ウエルテムブルガボンノーノ聲ヲ聞キ且二三ノ監吏補ト二三ノ支那人ヲ見受タリトノ證言アリ」ト被告私共ハ現所ニ淸國人ヲ見受ケサルヲ以テ見サルト陳シタルナリ又ルイ、ウエルテムブルノ申立テハ「登時自分ハ同所二階最極南ニ位置スル目錄科ニ勤仕致シ居リ該件ノ起リタル場所則チ收稅課ノ前トハ十有余間ノ距離アリ且自己ノ前ニハ西洋形ノ高キ机ノ遮目セルモノアツテ收稅課ノ方ハ起立セサレハ見ヘサルナリ又自分カボンノーノ聲ヲ聞キ起チタルトキハ事既ニ果テタル後ナリシ其時收稅課前ニ二三ノ監吏トボンノーヲ見認タリ其中ニ淸國人モ混リ居リシカノ樣ニ思ヘリ」此ニ依テ之レヲ見レハ淸國人カ慥ニ同所ニ居タリト證言セシモノニアラスシテ其所ニ居タカモ知レヌト云ヘル半信半疑ノ辭ナリ然ルヲ近ク其場ニ接シテ始終目擊シタル平川武柄菊名啓之高垣義爲等カ淸國人ハ現所ニ居ラサルナリト申立テタル確證ヲ棄テ斯ル半信半疑ノ證ヲ採用セラルヽトハ其理由了解難仕是不服ノ二ナリ

第三條

一同第三證ニ「稅關二階ニ於テ最初ニボンノーニ近寄リタル人ハ庫輔才一ノ二人ナリシ

上云ヘルハ梅川襲光有明省三等ノ供述アリト」然リ實ニ然ルナリ箇ハ兩人ノ供述ヲ俟タス被告モ屢々之ヲ陳述セリ然レトモ原告ボンノーノ申訴ニ「自分ヲ毆打シタルモノハ自分ヲ追躡シ來リタル六七名監吏ト收稅課吏員ナリ」ト原告證據人阮大義云ク「監吏五六名ノミナリ」張板云ク監吏「十四五名ノミナリ」ト斯クノ如ク毆打者ノ人員ハ多數ナリト申立タルヲ最初ニ近寄リタル兩人ヲ毆打者ト見認メラルヽハ何等ノ理由ナルヤ更ニ了解難仕是不服ノ三ナリ

第四條

一同第四證ニ「佛國領事ヨリ神奈川縣令ニ照會シタル書翰中ニボンノーカ負フタル打傷ハ全ク明亮ナル痕跡アリシヲ確證ストアルノミナラス庫輔才一モ領事廳ニ於テボンノーノ傷痕ヲ見タリト明言セリ」ト抑モ該件ハ原告ボンノー並ニ外國人某カ稅關ノ禁制ヲ犯シテ上屋內外ニ於テ喫烟セシノミナラス惡口罵詈ヲ極メ剩ヘボンノーガ才一ヲ突擊セシヨリ同人ヲ追押巡查ニ交付シタルニ起レリ故ニ屢々橫濱裁判所ニ於テ私共ガ答辨シタル如ク彼レ果シテ稅關二階ニテ監吏ノ爲ニ負傷セハ登時巡查ニ其旨ヲ告ケサル理ナシ然ルニ茲ニ一言ノ被害ヲ訴ヘス明治十二年十月二日佛國領事廳ニ於テ初メテ此疵ハ稅關二階ニ於テ監吏ニ負セラレタル打傷ナリト領事ニ示シタリ因テ私共カ橫濱裁判所ニ於テ陳ヘタル如ク此疵ハ私共ニ罪ヲ負セ自己ノ非ヲ庇ハン爲メ故造セシ者ナラントス其故何ントナレハボンノーノ言ニ監吏ハ拳ヲ以テ打タリト云ヘリ然シテ此ハ明治十二年九月二十七日ノコトナレハ本日ヨリ殆ント一週間ヲ經過セリ拳ヲ以テ衣上ヲ打チタル疵ノ本日迄斯ク赤ク殘リテ居ル譯ナク又同人ノ述ル如ク監吏果シテ負傷セシメタルモノナラハ登時來會セル警察官ヘ其旨ヲ告訴セサルノ理ナシ且シ又夫ハ登時ノ傷痕ナルニモセヨ監吏ニ於テハ決シテ毆打セシコトナケレハ本人ノ逃ケ去ラントテ暴動セシトキ自身ニ那處ヘカ打當タル痕ナラント領事ヘ辨明シタリ又才一カ被害ヲ告訴シタルハ明治十二年九月二十七日ノコトナルニ今ニ至ル迄テ只一回ノ審問ヲナシタルノミノコトナレハ未タ何レカ是何レカ非ナルヲ判分セサルノ領事ナリ然ルニ原告カ負フタル傷痕アルヲ確證スル抔トハ甚タ以テ解シ難キ事ニ候又ボンノーハ上屋內ニ於テ喫烟セスト主張シタルモ自己ノ證據人タル佛國人ローレンシーノ確證シタルニ因テ其詐僞ナルコモ明亮シタルニアラスヤボンノーカ詐僞ヲ恥チサル斯クノ如クナレハ疵ノ故造モ憚ラサルハ推テ知ルヘシ又領事ハ何人ソヤ若シ原告ノ證據人トセハ橫濱裁判所審廳ニ於テ口證スヘキ筈ナラン若シ斯クノ如キ不當ノ證言ニ遇ヘハ私共ニ於テ充分辨明セサルヘカラサル要領ナリトス然ルニ一回モ出頭シタルコトナク審翰中ニ斯クノ如キコトヲ證明シタルコモ裁判御申渡シノ日迄ハ聞及ハサル處ナレハ之ヲ辨明スルヲ得ス如何ニモ遺憾ニ堪ヘサルナリ右ノ次第ニ付私共ガボンノーノ疵ヲ見タリトアル領事ノ證明ヲ以テ私共カ毆打セシ證ト認定セラルヽハ不當ノ御裁判ト存シ候是不服ノ四ナリ

辨明

第一條〔上告狀第四條〕

佛國人「イー、ボンノー」ガ橫濱裁判所ニ於テ一千八百七十九年十一月二十六日「イー、ボン

ノー」ヨリ或日本税關監吏ニ對スル一件ト題シタル供狀中ニ〔中畧〕余ハ守戸者ニ謝シ平河氏ヲ見ント欲シ階ヲ下レリトキニ平河氏ハ自己ノ案ニ對セサリシトハ雖ヒ相對スル一案ニ於テ人ト語ヲ交ヘヲレリ余ノ戸ヲ開テ内ニ入ラントスルトキ中村ト共ニ波戸場ヨリ繼キ來ルトコロノ衆吏ハ皆ナ襲ヒ來リテ余ヲ打擊シタリ余ハ吏ヲ拽摺リ室内ニ入リシトキ案ノ後ニ在ル所ノ二三ノ吏ハ余ノ頭ヲ擊チタリ余ノ頭腕及體ヲ打チタル人數ハ殆ント十一人ノ内外ナリ然レトモ最初ニ打チタル者ハ中村及ヒ松尾ナリ〕トアリ又タ次項ニ〔衆吏カ余ヲ打チタル際余ハ之ヲ停止スルヘク平河氏ニ向ヒ發聲セリ該氏ハ衆吏ニ向ヒ余ヲ打毆スナト發聲セリト雖ヒ始メハ彼等其言ヲ聽サリシ彼等ハ殆ント一分時間余ヲ毆打シ後ニ平河ハ階ニ登リ來ルヘク余ニ語レリ云々〕トアルニ據レハ平川武柄ハ當時其現場ニ在リテ中村等カ「ボンノー」ヲ毆打シタル狀ヲ撞見セシト「ボンノー」ハ自ラ信據シ居ルモノヽ如シ因テ平川武柄カ明治十二年十二月六日附ヲ以モ横濱裁判所紀問掛ニ差出シタル則チ明治十二年九月二十七日横濱税關ニ於テ佛國人「ボンノー」ヘ係リ五等監吏中村庫輔外名前不知六七名監吏補騷擾ノ實況云々ト題シタル始末書ヲ閲スルニ左ノ如シ

一自分儀當日横濱税關檢査課ヘ出勤罷在候處午後第二時三十分頃佛國人「ボンノー」同所二階ヘ馳上リタルヲ中村庫輔外六七名追付キ引留メントスルヤ「ボンノー」直ニ事務所ヘ馳込ミ他方ヘ逃ケ去ラントシ手足ヲ擧ケテ寄付モノヲ追拂ヒ監吏ハ寄付同氏ヲ取押ヘントシ互ニ鬧論致シ居リ夫カ爲メ事務ヲ相妨ケ且不體裁ニモ有之候ニ付自分其場ヘ立入リ取鎮メ先中村庫輔ヘ面會事故相尋ヌルニ當波止場ニ於テ同氏犯罪之儘逃去リ候ニ付取押ヘ警察官ヘ訴ヘンノ爲メ茲迄追驅ケ來リタル云々申聞ケ居リ候際「ボンノー」自分ヘ面語致度申入候ニ付同氏ヲ應接所ニ伴ヒ事由承居ル央ニ警察官吏出張相成候故中村庫輔ヘ引渡シ其場立退申候又二階ニ於ケル騷擾ノ際「ボンノー」手ヲ振リ足ヲ上ケ亂暴シタルモ爲メニ監吏ノ負傷シタル樣子ナク及ヒ監吏ノ「ボンノー」ヘ對シ粗暴ノ取扱致シタルヿ更ニ之ナク候又其節外ニ免狀願人等誰某罷在タル歟ノ御尋ヲニ候ヘ共素ヨリ繁雜ノ事務所故其儀存知不申候

右相違不申上候也

此始末書ニ據レハ「ボンノー」カ逃走スルヲ中村庫輔等ハ追逐シテ之ヲ取押ヘントシ互ニ評論セルヲ以テ武柄ニ於テ之ヲ制止セシハソレ明カナルモ「ボンノー」ヲ中村庫輔等カ毆打スルヲ目擊シタルノ意アルヿナシ又タ此始末書ノ末段ニ〔二階ニ於ケル騷擾ノ際「ボンノー」手ヲ振リ足ヲ上ケ亂暴シタルモ爲メニ官吏ノ負傷シタル樣子ナク及ヒ監吏ノ「ボンノー」ヘ對シ粗暴ノ扱取致シタルヿ更ニ之ナク候云々〕ト明言セリ是ニ由テ之ヲ觀レハ「ボンノー」カ中立ハ右平川武柄ノ申立トハ其旨趣齟齬シテ毫モ中村等カ「ボンノー」ヲ毆打シタル者ト認ム可キ所ナシ且「ボンノー」ヲシテ當時果シテ中村等ノ爲メニ毆打セラレタルモノトセハ「ボンノー」ハ其場ヘ出張セシ我警察官ニ對シ白ラサマニ其事實ヲ陳辨シ併セテ毆打セラレタル頭腕及ヒ體ノ傷所ヲ指示シ置カサル可カラス然ルヲ「ボンノー」ハ當時其告訴ヲ爲サヽリシナリ然ルニ原裁判所ハ「ボンノー」カ殆ント一週間ヲ經テ後他ノ裁判所ニ於テ負傷シタリト揚言シ且其負傷ヲ示シタリトテ負傷ヲ診スル相當醫員ノ診證

ヲモ具セサリシモノヲ以テ直ニ上告人等カ負傷セシメタリトノ判定ヲナセシカ故ニ上告人等カ「ボンノー」ノ負傷ハ果シテ自分等ノ負傷セシメタルモノトセハ當時巡査ニ其旨ヲ告訴ス可キニ曾テ一言ノ此ニ及ハスシテ明治十二年十月二日佛國領事廳ニ於テ始メテ此疵ハ税關二階ニ於テ監吏ニ負セラレタル打傷ナリト領事ニ示シタルニ因レハ云々ト之ヲ將テ自分等ノ毆打セシメシ負傷ト認定セラレタル、ハ不當トノ申立ハ相當ノ申立ナリトス

第二條〔上告狀第二條〕

上告人ニ於テ原裁判ノ判決上第二證ヲ駁難シテ當時現場ニ在リタル税關雇米國人「ルイ、ウエルテムブル」申立ハ半信半疑ノ辭ニシテ清國人カ慥カニ現場ニ居タリト證言シタルニハアラスト陳述シ併セテ右「ルイ、ウエルテムブル」ノ申立ヲ拔抄シテ上告狀第二條ニ登記シタルニ因リ之ヲ本書ト較照スルモ其申立ハ半信半疑ニ相違アルヿナシ左スレハ原裁判所カ第二證ニ於テ税關雇米國人「ルイ、ウエルテムブル」カ二三ノ支那人ヲ見受ケタリ云々ハ全ク失當ノ引證ナル丁又タ辨明ヲ待タスシテ分明ナリトス

第三條〔上告狀第三條〕

原裁判所ノ第三證ニ税關二階ニ於テ最初ニ「ボンノー」ニ近寄リタル人ハ庫輔才一ノ二人ナリシト云ヘルハ梅川藝光有明省三等ノ供述アリトアルヲ以テ右両名ノ口供ヲ聞スルニ一ハ「ボンノー」カ二階ニ登ル其跡ヨリ中村等両名カ登リ行クヲ見云々一ハ税關二階ノ収税課前ニ於テ「ボンノー」カ手ヲ揚ケ足ヲ振ルヲ見受ケ而シテ其傍ニ中村等ノ両名カ「ボンノー」ヲ捕ヘントスルヲ傍觀シタル等ノ事柄ヲ陳述シタルニ止ツテ中村等カ「ボンノー」ヲ毆打シタル證據ノ端緒トスルニ由ナシトス

以上逐條ニ辨明シタル條理ナルヲ以テ中村庫輔外一名カ佛國人「ボンノー」ヲ毆打シテ負傷セシメタルモノト認定スヘキ證憑ナキモノトス然ルヲ原裁判所ニ於テ鬪毆律ニ照シ人ヲ毆打傷ヲ成ス者ト斷定シタルハ採證其法ヲ得サルノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年二月二十七日横濱裁判所ニ於テ中村庫輔外一名ニ言渡シタ裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

中村庫輔
松尾才一

右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ佛國人「ボンノー」ヲ毆打シタシモノト認定ス可キ證憑ナキニヨリ

無罪

第六百四十一號

○判文〔虎列刺病假規則違犯ノ件〕明治十三年六月十九日上告
明治十三年十月六日判決

愛媛縣讃岐國香川郡兵庫町
士族醫師
片岡甫菴
明治十三年五月
四十七年六ヶ月
一三九

右甫港カ明治十三年六月十日松山裁判所高松支廳ニ於テ審問ヲ受ケタル口供及ヒ明治十三年五月卅一日愛媛縣高松警察署ニ於テ推問ヲ受ケタル口供左ノ如シ

松山裁判所高松支廳ニ於テノ口供

一明治十二年五月卅一日愛媛縣警察署ニ於テノ口供

愛媛縣高松警察署ニ於テノ口供

問　汝預リノ格列拉病者三輪嘉平妻「トク」施療ノ手續ハ已ニ本月廿九日付ヲ以テ差出タル處同月廿四日診察ノ際嘔吐下痢ヒニ數回ノ後ナレハ果シテ格列拉病初期ナルヘキニ其旨届出ス加之同廿五日來診ノ節ハ既ニ拉病ノ徵候充分ニ見認メタルモ尚届出無之ハ明治十二年第廿三號公布格列拉病豫防假規則第壹條ニ觸ル歟アルヘシ右ハ如何相心得ルヤ答辨ス〳〵シ

答　本月廿四日診按ノ節ハ如何ニモ吐痢トモニ發起ノ后ニハ候得共拉病ノ症狀聊カモ發見セシ歟無之殊ニ排泄物ハ投藥シタルヲ以テ之ヲ檢スルニ由ナク依テ類似ノ症ヒ診按セサルカ故ニ御届不致儀ニ有之決シテ有心ヨリ等閑ニ打過キ候義ハ毛頭無之同廿五日ハ御推問ノ如ク眞症格列拉ノ症狀ヲ顯シ該病ト見認メタルモ前ニ病院醫員ノ診斷ヲ受タルト承タルニ付最早其醫員ヨリ御届致タル儀ト想像シ自分ヨリハ其手續ヲ盡サヽル儀ニ御座候併ナカラ右患者ハ初發ヨリ自分預リノ病者ナルニ前ニ診察ノ醫員ヨリ御届致タル儀ト想像ニ安ンシ御成規ノ手續ヲモ不致ハ如何ト御申聞相成候テハ自分於テ容易ニ相心得其儘ニ差措キタル不束ノ段ハ何トモ申分無御坐恐縮罷在候事

右ノ口供ニ依リ明治十三年六月十日松山裁判所高松支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀明治十三年五月中三輪「トク」ノ虎烈刺病ニ罹ルヲ診察スルニ之ヲ届ケ出サル科明治十二年第三十二號公布虎列刺病豫防假規則第一條第廿二條ニ據リ罰金三拾圓申付ル

片岡甫港ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年六月十九日大審院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

自分義明治十三年五月中三輪嘉平ナル者耳後病〔原ノマヽ〕ヲ患ヒ治療致居候處同月十九日往診ノ際同人妻「トク」儀三四日以前ヨリ頭痛發熱時々憎寒ヲ患ヒ候由ニ而併セテ診察致呉トノ乞ニヨリ右「トク」ヲ診察候處感冒症ト診斷シ葛根湯ヲ投劑シ廿一日再ヒ往診異狀ナシ廿三日又候往診候處最早平愈ノ由ニ而既ニ臥床ヲ離レ結髮シ家事相務居同廿四日午前八時頃本日回診ノ節立寄診察セン事ヲ乞望セシカヒ前日ノ都合ニ付外急患者ヘ往診シ未タ往カサリシ處同午後二時頃惡寒戰慄セシ由ニテ急診ヲ促シ來リ依テ直ニ往診候處本日午前三時頃ヨリ腹痛惡心シ曉天マテニ吐瀉共々兩行多分ニアリ五時頃ヨリ午後二時頃迄ニ腹痛シ吐痢數回或ハ吐シ或ハ乾嘔セシ由ニ而此時診察セシニ現症脉浮ニシテ絃數總身發熱發汗頭痛シ舌上ヲ檢スルニ白苔煩渴セリ依而其吐瀉物ヲ尋問スルニ吐物ハ黃水苦味甚シ併シ既ニ投藥シテ見ル不能依而家人ニ前日之景況ヲ尋問スルニ家人ノ曰ク數日來飲食減少昨日快愈之由ニ付種々ノ物ヲ多食スト〔鮒及ヒ魚肉ノ類ナリ〕因テ前症之腸胃病ヲ兼發スル者ト診シ半夏瀉心湯ニ茯苓白述ヲ加ヘ投劑ス同廿五日午前十時頃往診候處豈圖ンヤ脉沉微ニシテ診シ難ク四肢冷水冷爪甲面部紫黑色ニシテ聲音嘶嗄ス全ク刺病ノ危劇症ニシテ前

日ノ症候更ニナシ死ニ瀕ントス自分戸主ニ告クル此患者最早活路ナシト戸主答テ曰ク今曉ヨリ病症ヲ異ニセシ樣子ニ付今早朝公立高松病院エ診察ヲ乞シ由ニヨリ既ニ轉藥セシ事ナリ尤モ前日トハ患者ノ臥床モ大ニコト變リ洒掃等ヨリ豫防ノ手當マテモ十分行屆候間尙一層鄭重ニ取扱フヘキ段申聞歸宅セリ然ル處同廿七日高松警察署ヨリ突然明廿八日出頭可仕旨ノ召喚狀到來セリ依之同日同署ヘ出頭セシ處同署ニ於テ三輪「トク」刺病ノ手續上申スヘキ段御推問アリタリ依テ前陳ノ理由詳細上申ニ及ヒ候處尙又書面ニテ指出ヘク旨ノ命ニヨリ同第一號手續書捧呈セリ然ルニ尙卅一日出頭可致段御申聞ニ付同卅一日出頭候處第二號推問書問題ノ如キ御尋ニ付同書答書之通リ自分ノ治療中ニハ更ニ刺病ノ症候聊モ相見ヘ不申候段御答ニ及ヒ候處本月十日松山裁判所高松支廳ヨリ御召喚ニ相成御尋問ニ去ル五月卅一日高松警察署ニ而推問之通相違無之哉御尋ニ付警察署ニ於テ御推問有之際御答ニ及ヒ候通リ相違無之候段上申候尤御推問書末藥ニ「不束之段ハ何ヒ申分無御座恐縮罷在候云々」ト御答ニ及ヒ候ハ御尋ノ儀ニ而者醫員前後ニ拘ハラス刺病ヲ診察セシ醫員ハ總テ屆出ヘキ樣誤解候ニ付御答ニ及ヒ候得共明治十二年第三十二號公布ニハ決シテ其成規アルヲ見ス亦道理ニ於テ各醫員（則チ刺病ヲ診察セシ醫員ヲ云フ）ヨリ之レヲ屆出ツヘキ理由無之ハ判然タリ然ルニ別紙第三號宣告書之通リ御裁判御申渡ニ相成タリ然リト雖ニ該御裁判不服ニ付其要領左ニ陳述仕候

第一條

右宣告罰文中不當ト占メ候廉ハ「三輪「トク」虎列刺病ニ罹ルヲ診察スルニ之レヲ屆ケ出サル科云々」ト有之候得共自分診察セシ五月廿五日ハ既ニ公立高松病院ヘ轉藥セシ後ナレハ前醫員ノ之レヲ屆出ル者ニシテ自分ノ之レヲ屆出ツルニ關係之ナキ者ト推考ス何トナレハ該第三十二號公布第一條ニ於テモ刺病ニ罹ル患者ヲ診察スルニ當リ前後ノ差別ナク幾醫員ニテモ之レヲ診察セシ者ハ總而屆出ヘク旨ノ明文アルヲ見ス又該公布第二十二條ノ內ニモ更ニ無之果シテ然ラハ之レヲ診察セシ前醫員（則チ病院ノ醫員ヲ云フ）ノ之ヲ屆出ル以上ハ何ソソ自分於テ之レヲ屆出サルモ該第三十二號公布ニ背戻スヘキ理由アランヤ之レ該裁判ハ正鵠ヲ誤リタル不當ノ裁判ニシテ不服ノ第一ナリ

第二條

亦自分治療中診察セシハ十九日ヨリ廿四日迄ノ事ニシテ刺病ノ徵候更ニ無之然ルニ自分治療中既ニ刺病ノ症狀充分ニ有之ト認定シ如斯キ裁判ヲ下セシ者ナレハ想像ノ甚シキ裁判ト謂ハサルヲ得ス何トナレハ他病ヲ發セシ患者ニハ必ラス刺病ニ罹ルト云フ理由モナシ又證左ノ明亮ナラサル以上ハ何ヲ以テ屆出ヘキヤ且該病ヲ發セシ前日ニソ何ソ刺病ト見認ムヘキ理アラン果シテ然ラハ何ニ據テ該裁判ヲ下セシヤ了解シ不能シテ不當ノ裁判ト存不服ノ第二ナリ

第三條

前條ノ理由ナルニ付第三十二號第一條第二十二條ニ據テ被擬候儀了解仕兼不當ト存上告候間公明ナル御裁斷奉願候也

辨明

甫菴カ病者「トク」ヲ診斷ナセシ顚末ハ嚮ニ高松警察署ニ差出シタル手續書アリ即チ左ノ如シ

診斷手續書

香川郡南新町

三輪トク

本月十九日診察候處三四日以前ヨリ頭痛發熱時々憎寒ヲ患ヒ候由ニテ寒冒症ト診斷シ葛根湯ヲ投劑ス二十一日再ヒ往診異狀ナシ二十三日又候往診候處平愈ノ由ニテ既ニ臥床ヲ離レ結髮シ家事相務居候同二十四日午前八時頃本日回診ノ節立寄診察センコトヲ乞來リシニ未タ往カサリシカハ同午後二時頃惡寒戰慄セシ由ニテ急診ヲ促カシ來リ直ニ往診候處本日午前三時頃ヨリ腹痛惡心シ曉天マテニ吐瀉共ニ兩行多分ニアリ五時頃ヨリ午後二時頃マテニ腹痛シ吐痢數回或ハ吐シ或ハ乾嘔セシ由ニテ該時現症脉浮ニシテ絃數惚身發熱發汗頭痛シ舌上白苔煩渴シ吐瀉物ヲ尋問スルニ吐物ハ黃水苦味甚シ併シ既ニ投棄シテ見ルヿ不能家人ノ云所ニヨレハ數日來飲食減少昨日快方ニ付種々ノ物ヲ多食スト因テ前症ニ腸胃症ヲ兼發スル者ト診シ半夏瀉心湯ニ茯苓白述ヲ加ヘ投劑ス同二十五日午前十時頃往診候處豈計哉脉沈微ニシテ診シ難ク四肢冷及ヒ爪甲面部紫黑色ニシテ聲音嘶嗄ス瀕死危劇ノ症候ニシテ前日ノ症候更ニナシ因テ戶主ニ此患者最早活路ノナキ由ヲ告ケレハ今朝既ニ病院ヘ診察ヲ乞シ由ニ付且又酒掃等ヨリ豫防ノ手當迄テ既ニ十分行屆候樣見受候ニ付別段何事モ不申萬件鄭重ニ取扱可申段申聞罷歸リ候

事ニ御座候

右手續如此御座候也

明治十三年五月廿九日

香川郡兵庫町八拾番邸

士族

醫師　片岡甫菴

高松警察署

御中

右ノ手續書ト該口供トニ依テ觀レハ明治十三年五月廿五日被告カ「トク」ヲ診斷シ虎列刺ノ眞症タルヿヲ知ルト雖モ已ニ前醫ノ盡ス處ヲ知テ重複ノ通知ヲ爲サヽルモノナレハ敢テ虎列刺病豫防假規則第一條ニ抵觸シ第二十二條ヲ以テ罰スルヿヲ得サルモノトス如何トナレハ該規則ハ其虎列刺病タルヲ知リテ其通知ヲ怠リ二十四時間ヲ過クル者ヲ罰スルニ在リテ被告ノ如キ已ニ前醫處置シタルヿヲ知テ退ク者ヲ罰スルノ旨趣ニ非サレハナリ又「トク」カ前日（明治十三年三月廿四日）ノ病症ハ甫菴ニ於テ毫モ刺病ノ徵候ナシト診斷スル上ハ其前日ノ症候ニ對シ刺病ノ初患ナリト確認スヘキ證憑アルニモ非サレハ是又該規則ヲ以テ罰スルヿヲ得サルモストス然ルヲ松山裁判所高松支廳ニ於テ明治十二年第三十二號公布虎列刺病豫防假規則第一條第二十二條ニ據テ罰金三拾圓ヲ言渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年六月十日松山裁判所高松支廳ニ於テ片岡甫菴ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

一四六

片岡甫菴

右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ

無科

第六百四十二號

○判文（賭博ノ件）明治十三年六月九日上告
明治十三年十月六日判決

靜岡縣遠江國豐田郡中部村九番地平民依田末吉父當時愛知縣三河國北設樂郡武節町村四番屋敷桂山半三郎方寄留

依田久米吉

明治十三年六月四十五年七ケ月

愛知縣三河國北設樂郡武節町村四十番屋敷平民

山口常三郎

明治十三年六月五十七年十ケ月

愛知縣三河國北設樂郡桑原村四十一番屋敷平民荻宗重三男

荻梅吉

明治十三年六月二十一年五ケ月

右久米吉外二名カ所爲ニ對シ明治十三年六月七日名古屋裁判所管內豐橋區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十三年五月二十日夜大島鐵次郎外二人ト俱ニ金錢ヲ賭ケ博戲ヲ爲シ現場捕縛セラレントシテ逃走シ後チ自首スルモ既ニ巡査ノ瞳見ニ係ルヲ以テ自首減等ヲ與ヘス右科賭博律ニ依リ杖八十再犯タルヲ以テ一等ヲ加ヘ杖九十申付候事

但博具ハ官沒ス

依田久米吉

其方儀明治十三年五月二十日夜大島鐵次郎外二人ト俱ニ金錢ヲ賭ケ博戲ヲ爲シ現場捕縛セラレントシテ逃走シ後チ自首スルモ既ニ巡査ノ瞳見ニ係ルヲ以テ自首減等ヲ與ヘス右科賭博律ニ依リ杖八十申付候事

但博具ハ官沒ス

山口常三郎

右同文

荻梅吉

愛知縣警部代理一等巡査荻野錬二郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年六月九日

一四七

上告スル爲メ司法卿ヲ經由シ大審院檢事ヨリ明治十三年七月三十日本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

依田久米吉
山口常三郎
荻梅吉

右者大島鎮次郎ト賭博ヲ催ス節巡査現場ニ進入大島鎮次郎ヲ捕得ノ際隙ヲ窺ヒ一時逃走スト雖ヒ追テ其非ヲ悟リ犯情首出ニ及ヒタルヲ以テ改定律例第五十九條官ノ捕獲センヿヲ聞キ自首スル者ニ擬シ依田久米吉ハ再犯ニ係ルヲ以テ賭博本罪ニ一等ヲ加ヘ杖九十ヨリ一等ヲ減シ杖八十山口常三郎荻梅吉ハ各初犯ニ付賭博本罪杖八十ニ一等ヲ減シ各杖七十ノ見込ヲ以テ求刑及ヒタル處名古屋裁判所管内豐橋區裁判所ニ於テハ減等ヲ與ヘス本罪ヲ全科シタリ右不當ノ裁判ト考量ス因テ之ヲ上告シ併セテ一件書類進呈候也

辨明

被告依田久米吉山口常三郎荻梅吉ハ各金錢ヲ賭シ博戲ヲ爲シタルモノニシテ久米吉ハ再犯常三郎梅吉ハ初犯ナリ而シテ其現場警察官吏捕縛ニ際シ其場ヲ逃走シ後チ自首セシモノナリトス左スレハ久米吉ハ雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日再犯ニ係ハルヲ以テ一等ヲ加ヘ懲役九十日常三郎梅吉ハ同條ニ依リ各懲役八十日ノ處首出スルヲ以改定律例第五十九條官ノ捕獲センヿヲ聞キ自首スル者ニ擬シ各本罪ニ一等ヲ減シ處分スヘキヲ相當ナリトス然ルヲ名古屋裁判所管内豐橋區裁判所ニ於テ自首ノ減等ヲ與ヘス各本罪ニ處分シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年六月七日名古屋裁判所管内豐橋區裁判所ニ於テ依田久米吉山口常三郎荻梅吉ヘ申渡シタル裁判ヲ平翻スルヿ左ノ如シ

依田久米吉

右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日再犯ニ係ルヲ以テ一等ヲ加ヘ懲役九十日ノ處自首スルヲ以テ改定律例第五十九條官ノ捕獲センヿヲ聞キ自首スル者ニ擬シ一等ヲ減シ

懲役八十日

但博具ハ官沒ス

山口常三郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日ノ處自首スルヲ以テ改定律例第五十九條官ノ捕獲センヿヲ聞キ自首スル者ニ擬シ一等ヲ減シ

懲役七十日

但博具ハ官沒ス

荻梅吉

右同文

第六百四十三號

○判文（證券印税犯則ノ件）明治十三年七月三十一日上告
明治十三年十月六日判決

山形縣羽前國東村山郡寺津
村三十八番地平民
安孫子祐八
明治十三年七月
四十二年八ケ月

右祐八カ明治十三年七月二十一日山形縣警察署ニ差出シタル始末書左ノ如シ

明治十三年三月七日東村山郡中野村平民伊藤文四郎方ヘ差入タル金圓預リ證書ヘ貼用ノ印紙見認メ印ニテ消印致シタル始末及前書文四郎ヘ預米證書印紙不足ノ分貳拾錢自貼致シタル始末御尋問ニ付左ニ供述仕候事

一自分儀明治十三年三月七日前書伊藤文四郎ヘ金千百五拾圓別紙寫ノ通リ預ケ證書相渡シ候際金高ニ應シ印紙貼用可致ノ處持合モ有之分印紙六拾五錢貼用致シ歸宅ノ上印紙不貼用分買求メ同日右文四郎ヘ立越前書ノ證書ヘ貼用消印可致ト存シ候處實印失念候ニ付自分見認メ印ヲ以テ消印致シ相渡シ置候處今般御召喚ノ上前件ノ次第御審問ヲ蒙リ印税規則ニ違犯シ候段恐入奉存候事

一前書伊藤文四郎ヘ玄米五百俵壹俵ニ付四斗貳升入此石高二百拾石預ケ米證書受取置候處該證書ヘ印税石高ニ應セス貳拾錢不足有之候ニ付自貼實印ヲ以テ消印致居候處事實御尋問ニ付此段モ併テ奉申上候事

證券寫

金預證券

一金千百五拾圓也　但通用金ニテ無利足ノ定

右ノ金員唯今正ニ預リ申處確實也然ル上ハ本年四月三十日限リ貴殿方ヘ預リ米五百俵ニ定約ノ通リ拙者藏入ニ相成候上前件ノ金員速ニ此證券引替御渡シ可申候爲後日金預リ證券依テ如件

明治十三年辰三月七日

東村山郡寺津村三十八番地
安孫子祐八印

東仲野村
伊藤文四郎殿

右ノ始末書ニ依リ明治十三年七月二十三日福島裁判所山形支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀金高千百五拾圓ノ預リ證書ニ六拾五錢印紙ヲ貼用シ伊藤文四郎ヘ相渡ス科證券印税規則第四則改正第七條ニ依リ減税高五拾錢ノ拾倍過料金五圓申付ル

山形縣七等警部杉村正誠ニ於テハ右ノ裁判ヲ不當ト見込司法省ヲ經由シ明治十三年九月三日大審院檢事ヨリ本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

安孫子祐八證券印税規則違犯ノ廉戴テ別紙始末書ニ有之通同郡東中野村伊藤文四郎宛ノ證書ヘ證券印紙壹圓拾五錢貼付スヘキニ持合無之ヨリ有合印紙六拾五錢貼付相渡置キ殘五拾錢ハ追テ貼付セシカ實印ヲ以テ消印セス認印ヲ押用セシ者ニ付明治十三年七月廿二日同規則違犯セル前書伊藤文四郎外壹名俱々福島裁判所山形支廳ヘ公訴ニ及ヒタル處同

月二十三日同廳ニ於テ別紙ノ通宣告シ擬律ノ但書ニ該犯減税高ヲ追テ貼付スルモ認印ヲ押用シ置クニ付印紙ハ總テ實印ヲ以テ調印スヘシトノ成規ナレハ認印ヲ以テ調印スルモ印紙貼付ノ効ナキモノトアリ然ルニ證券印税規則第二則第二條ニ證書ハ總テ證書渡主ニ於テ印紙貼用ノ上必ラス實印ヲ以テ其印紙ノ全面滅却セサル樣調印スヘシト有之又第四則第八條ニ規則ニ從テ貼用セシ諸證書帳簿ノ證券印紙ニ調印セサルモノハ三拾圓以内ノ過料タルヘキトアルニ依リ該犯ハ三拾圓以内ノ過料金ヲ科スヘキモノト考量セリ

大審院ニ於テ辨明スル事左ノ如シ

祐八ニ於テハ預リ金千百五拾圓ノ證書ニ規則ニ遵ヒ證券印紙壹圓拾五錢ヲ貼付シタレトモ内六拾五錢ハ實印ヲ以テ調印ヲ爲シ五拾錢ハ認印ヲ以テ消印ヲ捺シタリ之レヲ證券印税規則ニ照スニ其第一則第二條ニ證書ハ總テ證書渡主ニ於テ印紙貼用ノ上必ス實印ヲ以テ其印紙ノ全面滅却セサル樣調印致スヘキ事又其第四則第八條ニ規則ニ從テ貼用セシ諸證書帳簿ノ證券印紙ニ調印セサルモノハ三拾圓以下ノ過料タルヘキ事トアルニ依リ處分スヘキ者トス然ルヲ福島裁判所山形支廳ニ於テ證券印税規則第四則改正第七條ニ依リ減税高五拾錢ノ拾倍過料金五圓申付ケタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年七月二十三日福島裁判所山形支廳ニ於テ安孫子祐八ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スル〻左ノ如シ

安孫子祐八

右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ證券印税規則第四則第八條ニ依リ過料金五拾錢

第六百四十四號

○判文（證券印税犯則ノ件）明治十三年八月廿六日上告
明治十三年十月六日判決
大分縣豐後國大分郡駄原村
平民當時大分町寄留
吉松林藏
明治十三年八月
四十八年九ケ月

右林藏カ明治十三年八月六日大分縣警察署ニ差出シタル手續書左ノ如シ

自分儀昨十二年月日不詳同郡生石村安部重太郎ナル者ノ依頼ヲ受ケ大分町士族森恊ヨリ月賦金拾五圓借リ受ケ右重太郎ヘ世話致シ遣シ候處其後月々壹圓五拾錢ツヽ返金相成居候折柄明治十三年三月日不詳金五圓辻債主森恊方ヘ返金致シ呉候樣重太郎ヨリ自分ヘ該五圓ノ金圓相渡シ候ニ付自分請取債主森恊方ヘ持參可致モ兼テ自分困窮ノ折柄妻ノ「ラク」ナル者長々ノ病臥ニ付遂ニ右五圓ノ金員森恊方ヘ持參不致自家ノ爲メ費用致シ候事一其後金五圓速ニ入金可致モ金策手數無之ニ付月日不詳重太郎ナル者ヘ出會致シ前顯費用致シタル頓末申聞ケ容月三十日迄同人手元ヘ返金可致約定ヲ取結ヒ則チ同日限リ返金ノ證書差入申候處重太郎ニ於テ承知シ該證書請取申居候事

一右金員三十日後速ニ返金可致モ未タ妻ノ病臥旁金策難出來ヨリ延滯相成居候事

明治十三年八月十七日熊本裁判所大分支廳ニ於テ林藏ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十三年三月中大分郡生石村安部重太郎ヨリ寄托ヲ受クル處ノ金五圓輙ク費用スル科雜犯律費用受寄財產條ニ依リ坐贓ヲ以テ論シ一等ヲ減シ減シ盡シテ咎ノ沙汰ニ及ハスト雖モ明治十三年七月二十二日安部重太郎ニ差入レタル借用金五圓ノ證書ニ界紙ヲ用ヒサルハ證券印稅規則罰則第一條ニ依リ脫稅高平均五厘二拾倍ノ過料金拾錢申付ル

大分縣十等警部梶原次郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ上告スル爲メ司法省ヲ經由シ大審院檢事ヨリ明治十三年九月十三日本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

吉松林藏同郡生石村安部重太郎ヨリ同郡大分町森脇ヘ返却スル金五圓ヲ寄托セラレ之ヲ費用シタル段供出スルニヨリ雜犯律費用受寄財產條凡他人ヨリ財物畜產ノ寄托ヲ受ケ輙ク費用スル者ハ坐贓ヲ以テ論シ一等ヲ減ストアルニ依リ贓金五圓ナルヲ以テ懲役二十日一等ヲ減シ懲役十日ニ處斷ノ見込ヲ以テ熊本裁判所大分支廳ニ求刑ニ及フ處裁判官ニ於テ明治十三年八月十七日同條ニ依リ坐贓ヲ以テ論シ一等ヲ減シ減シ盡シテ咎ノ沙汰ニ及ハスト裁判相成タリ新律綱領七贓例圖ニ凡ソ圓以下ト稱スル者ハ數未タ其圓ニ滿サル者ヲ云フト明文ノアルアリ右費用シタル金額ハ金五圓ナリ即贓金五圓以上懲役二十日一等ヲ減シ懲役十日ニ處セサルヲ得サル理由ナリ因テ右裁判不當ト見込ミ書類相添上告ス

辨明

抑寄托ヲ受ケタル金五圓ヲ私ニ費用シタル罪ヲ斷スルハ雜犯律費用受寄財產條ニ凡他人ヨリ財物畜產ノ寄托ヲ受ケ輙ク費用スル者ハ坐贓ヲ以テ論シ一等ヲ減ストアルニヨリ改正七贓例圖ニ照ラシ坐贓金五圓以上一等ヲ減シ懲役十日ヲ科スヘキヲ相當ナリトス

然ルニ林藏カ口供第二項ニ〔重太郎ナル者ヘ出會致シ前顯費用致シタル頓末申聞ケ客月三十日迄ニ同人手許ヘ返金ノ約定ヲ取結ヒ同日限リ返金ノ證書差入レ重太郎ニ於テ承知シテ該證書ヲ受取リ云々〕トアリ明治十三年七月三十一日ニ重太郎カ父安部利吉ヨリ大分縣警察署ヘ告訴セシ以前七月二十二日ヲ以テ已ニ貸借ノ約ヲ結ヒ左ノ證書ヲ相受授シタル上ハ林藏カ私カニ費用シタル五圓金ハ即チ重太郎ノ許諾ヲ得更ニ尋常貸借金ト成リシモノナレハ林藏カ受寄ノ金圓ヲ輙ク費用シタル廉ハ利吉カ告訴ノ以前既ニ消滅セシヲ以テ林藏ニ於テハ更ニ罪ノ問フヘキナキモノトス

約定書

一金五圓也

右之金員ノ儀ニ付每度御催促ニ預リ候處此迄時々違約仕候ニ付本月二十九日迄ニ速ニ御返金可仕約致置候處明白也爲後日約定書券如件

大分町寄留　吉松林藏

約定主

明治十三年七月二十二日　安部重太郎殿

又林藏カ右ノ證書ニ界紙ヲ用ヒサリシハ證券印稅規則第四則第一條ニ證券界紙相用ユヘキ證書類ニ證券界紙ヲ用ヒサル者ハ脫稅高〔界紙定價三種平均五厘〕ノ二十倍則十錢其證書ヲ受取タル

者ハ脫稅高ノ十倍則五錢過料タルヘキ事トアルニ依リ過料金拾錢ヲ科スヘキモノトス
左スレハ原裁判所ニ於テ林藏カ金高五圓ヲ記載セル約定證書ニ界紙ヲ用ヰサリシテ證券印稅規則ニ依リ過料金拾錢ヲ科シタルハ其當ヲ得タリト雖モ寄托ヲ受ル所ノ金五圓ヲ輙シ費用シタルハ費用受寄財產條ニ依リ坐贓ヲ以テ論シ一等ヲ減シ減シ盡シテ咎メノ沙汰ニ及ハサル旨言渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年八月十七日熊本裁判所大分支廳ニ於テ林藏ニ言渡シタル裁判中其寄托ヲ受クル處ノ金五圓輙シ費用スル科雜犯律費用受寄財產條ニ依リ坐贓ヲ以テ論シ一等ヲ減シ減シ盡シテ咎ノ沙汰ニ及ハストノ部分ヲ平翻スル事左ノ如シ

吉松林藏

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ安部重太郎ヨリ受寄ノ金圓ヲ輙ク費用シタルハ更ニ罪ノ問フヘキナシ

第六百四十五號

○判文（竊盜ノ件）明治十三年八月廿六日上告
明治十三年十月六日判決

愛媛縣伊豫國溫泉郡松山員
町居住平民
住田豐次郎
明治十三年八月
二十四年四ヶ月

右豐次郎カ明治十三年八月十七日廣島裁判所管內尾道區裁判所ニ於テ審問ヲ受ケ陳述シタル口供左ノ如シ

自分儀尾道警察署ニ於テ訊問ヲ受ケタル件ニ付明治十三年八月十四日同署ノ警察官ニ對シタル供述ノ通相違無之候三原ヘ罷越滯留致シタル子細ハ昨年今治ニ於テ風ト可部隼雄ト懇意ニ相成リ其節隼雄ヨリ菓子製造ノ傳習ヲ受クル約定致シ置タル故ニ之レ有リ候事

明治十三年七月九日舊曆六月三日沼隈郡鄉分村途上ニ於テ隼雄信太郎ニ出會其レヨリ三原止宿所武田每人方ヘ罷歸リタルハ其日午後十一時前頃ニ有之候事

明治十三年八月十四日廣島縣尾道警察署ニ於テ吟味ヲ受ケ陳述シタル口供左ノ如シ

自分儀明治十三年七月九日午后第十二時頃松下信太郎ノ發意ニ應シ沼隈郡津ノ口村慈氏峰忍方ヘ信太郎隼雄ノ兩名忍ヒ入ル際自分ハ戶外ニ遠見致シ數拾品盜取リ候末未タ賍品分配ヲ受ケサル內捕縛セラレシ旨訊問有之候得トモ自分ハ豫テ三原町武田每人方ヘ止宿致シ明治十三年七月九日ニハ隼雄及ヒ信太郎兩名福邊ヘ罷越シ居ルニ付要用ノ爲メ午前第十時頃武田每人方ヲ出發シ沼隈郡鄉分村ニ於テ兩人ニ面會要用ヲ濟シ同人共ト立別レ明治十三年七月九日午後第四時頃三原町武田每人方ヘ罷歸リ候末一歩モ外出致サヽルニ付右盜業相働キシ覺無之候事

明治十三年八月二十日廣島裁判所管內尾道區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀盜犯可部隼雄ノ黨類ナリトノ公訴ニ付審理ヲ遂ル處犯罪ノ證據有ラサルニ付無攝廣島縣七等警部中島孝叔ニ於テハ明治十三年八月二十六日右ノ裁判ヲ不法ナリトシ司法卿

ヲ經由シ明治十三年九月十八日大審院檢事ヨリ送付シタル上告狀左ノ如シ

豐次郎ニ於テハ明治十三年七月九日午前第十時御調郡三原町武田毎人方ヲ出發シ沼隈郡鄉分村ニ於テ松下信太郎可部隼雄ヘ面會私用ヲ辨シ直ニ同人等ト離別シ同日午后第四時毎人方ヘ歸着シ爾后寸步モ外出セサルニ付明治十三年七月九日午后第十二時頃信太郎及ビ隼雄ノ兩名沼隈郡津ノ口村慈氏峰忍方ヘ忍入リ物品竊取セシハ毫モ承知セサル旨强テ供述スルト雖モ可部隼雄ニ於テ豐次郎ハ則同類ナリト明言スルノミナラス豐次郎カ明治十三年七月九日午后第四時ヨリ三原町武田毎人方ヘ滯在セシ哉否毎人ヲ問尋スルニ同日午后第四時頃何方ヘ參ルトモ不申候テ出邸同十一日午前第八時罷歸リ云々手續書ヲ以テ申立右ニ據テ觀レハ豐次郎カ七月九日午后第四時ヨリ外出セサルト申立シハ事實ニ反シ其罪ヲ逃レン爲メ虛言ナルヲ以テ信太郎隼雄ノ同類ト認定シ賊盜律竊盜贓金三拾圓以上懲役九十日從タルニ付一等ヲ減シ懲役八十日ニ處スヘキモノト考量ス然ルニ尾道區裁判所ニ於テハ犯罪ノ證據有ラサルニ付無搆ト申渡セシハ不適當ノ裁判ト認メ上告候也

辨明

被告住田豐次郎カ尾道警察署ニ於テ明治十三年七月九日ニハ午前十時頃武田毎人方ヲ出テ要用ヲ濟マシ午後四時頃毎人方ヘ歸リタル末外出セサルニ付同夜松下信太郎可部隼雄等カ竊盜ヲ働シコハ覺スト陳述シタレトモ武田毎人ノ手續書ヲ閲スルニ「伊豫國住田豐次郎ト申者私方ヘ一宿云々七月三日罷歸リ同四日出足同九日午前十時罷歸リ同日午後四時頃何方ヘ參ル共不申候テ出邸仕候テ同十一日午前八時罷歸リ云々」トアリ又可部隼雄ノ口供ニ「明治十三年七月九日午後第十二時頃愛媛縣新居郡住野村松下信太郎ノ發意ニ應シ住田豐次郎ハ家外ニ遠見自分ト信太郎兩人沼隈郡津ノ口村慈氏峯忍方ヘ忍入木綿單衣貳枚其外數十品盜取リ云々」トアルノミナラス三原分署詰四等巡査橋本信藏カ被告ヲ捕縛セシ手續書中摘「竹田毎人方ニ逗留候ニ付取押ヘ拘引ノ上押々（元ノマヽ）處果シテ本月九日午後第十二時頃沼隈郡鄉分邊眞言宗寺ヘ信太郎隼雄兩人忍入衣類數品盜取ルヲ門前ニ待居持チ歸リ候段申立確乎タル證跡アルニ付捕縛牽出シ候也」トアリ右ノ如ク數證悉ク相符合スルヲ以テ觀レハ被告カ尾道警察署ニ於テ吟味ヲ受ケシ以後ノ陳述ハ其罪ヲ逃ン爲メノ詐供ニシテ其實信太郎隼雄カ慈氏峰忍方ヘ忍入竊盜ヲ爲ス際被告ハ外ニ瞭望セシヿ判然タルニ依リ信太郎ノ從トナシ處斷スヘキモノトス然ルヲ尾道區裁判所ニ於テ犯罪ノ證有ラサルニ付無搆ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルニ依リ明治十三年八月二十日廣島裁判所管內尾道區裁判所ニ於テ住田豐次郎ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

住田豐次郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ賊盜律竊盜條ニ依リ贓金九拾七錢六厘懲役九十日ノ處共犯罪分首從條ニ照シ本罪ヨリ一等ヲ減シ

懲役八十日

第六百四十六號

○判文（竊盜ノ件）明治十三年八月廿六日上告
明治十三年十月六日判決

廣島縣備後國御調郡三原町
居住平民
可部隼雄
明治十三年八月
三十四年四ケ月

右隼雄カ明治十三年八月十七日廣島裁判所管内尾道區裁判所ニ於テ審問ヲ受ケ陳述シタル口供左ノ如シ

自分儀犯罪ノ始末明治十三年八月十四日尾道警察署ニ於テ拇印シタル口書ノ通相違之レ無々候以上

明治十三年八月十四日廣島縣尾道警察署ニ於テ吟味ヲ受ケ陳述シタル口供左ノ如シ

自分儀兼テ岩ヲコシ製造方承知致シ居ルニ付從來懇意ナル松下信太郎ヨリ承リシ旨ヲ以テ明治十三年三月日不覺山口縣下ノ關ノ產姓不詳菊平ナル者自分宅ヘ罷越シ右ヲコシ製シ方傳習致シ呉ルヽ樣依賴候ヘトモ自分貧困ニシテヲコシ製造スル資力無之旨相答ヘ候處菊平ニ於テ銀時計壹個所持致シ居ルニ付時計ヲ入質致シ該金ヲ以テ資本ト爲シ傳習ノ儀種々依賴ヲ受ケ不得止其意ニ隨ヒ尤モ右時計ハ菊平ニ於テ月日ハ分ラサレトモ廣島ニ於テ盜取タル品ナル旨申聞ケ候ヘトモ受取置キ仍テ菊平儀ハ一旦歸村ノ上再ヒ參ルヘキ旨ニテ罷歸リシニ付後日罷越候上資本ヲ調達スヘキ心得ニ候事

明治十三年七月九日午後第十二時頃愛媛縣新居郡住野村松下信太郎發意ニ應シ住田豐次郎ハ家外ニ遠見自分ト信太郎兩人沼隈郡津ノ口村慈氏峯忍方ヘ忍入リ木綿單衣貳枚其外數十品盜取リ歸宅ノ上取調候處都合貳拾七品有之ヲ信太郎ト配分シ豐次郎ハ未タ分配致サス然ルニ今般捕縛ノ上前書時計並ニ品物共引揚テレ母事主ノ屆書ニハ盜マレシハ三拾六品並ニ金四圓餘ニ付該金並ニ不足セシ物品ハ如何致シタルヤ訊問有之右不足ノ分ハ逃走ノ際數品取捨タルニ付該品丈ケ不足セシ義ト存候事

追加

明治十三年三月以來前書松下信太郎ヨリ依賴ヲ受ケ賍品タルノ情ヲ知テ衣類等拾貳品三原町品川久三郎方ヘ入質致シ金子ハ信太郎ヘ相渡候事

明治十三年八月二十日廣島裁判所管内尾道區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀山口縣下出生姓氏不詳菊平ナル者ヨリ預リ置タル銀皮懷中時計及ヒ現今行衛不知愛媛縣下松下信太郎ノ依賴ヲ受ケ三原町品川久三郎方ヘ入質シタル衣類等ハ果シテ其賍品ナルヤ否ヲ判定ス可キ證據無ケレハ論ス可キ罪ナシト雖モ松下信太郎ノ發意ニ從ヒ備後國沼隈郡津ノ口村慈氏峯忍方ヘ忍入リ金圓衣類等數拾品ヲ盜取タル賍金三拾圓九拾七錢六厘ノ科竊盜律ニ依リ懲役九十日ノ處犯罪事發逃亡律ニ照シ松下信太郎ノ從ト爲シテ論シ共犯罪分首從律ニ照シ本罪ヨリ一等ヲ減シ杖八十申付ル

但資力限ヲ以テ事主ニ賠償ス可キ事

廣島縣七等警部中島孝叔ニ於テハ明治十三年八月二十六日右ノ裁判ヲ不法ナリトシ司法卿ヲ經由シ明治十三年九月十八日大審院撿事ヨリ送付シタル上告狀左ノ如シ

隼雄ニ於テハ明治十三年三月日不詳山口縣下ノ關居住姓不詳菊平カ職業傳習ノ爲メ預置銀皮懷中時計壹個ハ廣島ニ於テ竊取セシ賍品ナルヲ了知ノ上寄藏セシモノナレハ其事主〔目下探偵中〕並ニ菊平ノ所在未タ分明ナラサルモ本犯カ口供第一項ニ賍品タルノ情ヲ明言セシヲ以テ賊盜律窩主條第三項其强竊盜云々知テ爲ニ寄藏スル者ハ故ニ買フ者ニ一等ヲ減ストアルニ依リ坐賍ヲ以テ論シ賍金五圓以上懲役一十日ノ罪ト竊盜賍金三拾圓以上懲役九十日從タルニ付本罪ニ一等ヲ減シ懲役八十日ノ罪ト併發スルヲ以テ二罪俱發以重論條ニ照シ一ノ重キ竊盜律ニ依リ懲役八十日ニ處スヘキモノナルヲ坐賍ノ罪ハ論セス單ニ竊盜條ニ依リ成シタル裁判ハ不當ト謂ハサルヲ得ス然リト雖モ刑ニ增減ナシ只坐賍ノ件ニ付上告スルモノミ抑モ前書時計壹個ハ事主判然セサルモ賍品ナルハ隼雄カ明言セシニ付該品ハ追徵スヘキモノト考量ス然ルニ尾道區裁判所ニ於テ其賍品ナルヤ否ヲ判定スヘキ證據ナケレハ論スヘキ罪ナシト判決セシハ不當ノ裁判ト認メ一件書類ヲ添ヘ上告候也

辨明

被告可部隼雄ノ口供中「菊平ニ於テ銀時計壹個所持致シタルニ付時計ヲ入質致シ該金ヲ以テ資本ト爲シ傳習ノ儀種々依賴ヲ受ケ不得止其意ニ隨ヒ尤モ右時計ハ菊平ニ於テ月日分ラサルヒ廣島ニ於テ盜取タル品ナル旨申聞ケ候ヘヒ受取置云々」トアル上ハ假令菊平未タ捕ニ就カス及ヒ事主未タ分ラサルモ右ハ盜賊窩主條第四項ニ依リ處分スヘキ者又被告カ追供中ニ明治十三年以來前書松下信太郎ヨリ依賴ヲ受ケ賍品タルノ情ヲ知テ衣類等拾貳品三原町品川久三郎方ヘ入質致シ金子ハ信太郎ヘ相渡候事」トアリテ品川久三郎ヨリモ「マキ」ナル者持參ニ付抵當ニ預リタル旨申立ル上ハ假令信太郎未タ捕ニ就カサルモ賍品タルノ情ヲ知テ典質ノ牙保ヲ爲セシ者ナレハ是亦盜賊窩主條ニ依リ右本罪竊盜ト三罪併發スル者ニ係ルヲ以テ二罪俱發以重論條ニ照シ處分シ該賍品ハ追徵スヘキモノトス然ルニ尾道區裁判所ニ於テハ右菊平ヨリ預リタル時計ノ評價及信太郎ノ依賴ニ應シ典質セシ物品ノ評價ヲモ徵セス特ニ慈氏峯忍方ヘ忍入リ金衣類等數拾品ヲ盜取タル賍金三拾圓九拾七錢六厘ノ科竊盜律ニ依リ懲役九十日ノ處犯罪事發逃亡律ニ照シ松下信太郎ノ從ト爲シテ論シ共犯罪分首從律ニ照シ本罪ヨリ一等ヲ減シ杖八十申付ル但シ云々ト申渡シタルハ審理ヲ盡サヽル不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年八月廿日廣島裁判所管内尾道區裁判所ニ於テ可部隼雄ニ言渡シタル裁判ヲ破毀シ本件ハ廣島裁判所ニ於テ更ニ審判スヘキ旨ヲ達シタルニ付中島孝叔ニ於ハ相當ノ處分ヲナスヘシ

第六百四十七號

○判文〔雇人盜ノ件〕明治十三年八月三十一日上告
明治十三年十月六日判決

長崎縣對馬國下縣郡嚴原
田口町平民
小島善吉
明治十三年八月
二十三年一ヶ月
一六三

右善吉カ明治十三年八月十四日福岡縣警察署ニ於テ吟味ヲ受ケ爲シタル口供左ノ如シ

一自分儀明治十三年七月央頃山口縣熊毛郡四代町西山利七ノ船子ニ一ケ月金貳圓五拾錢ニ雇ハレ當福岡區博多港ヘ濟海繫船中明治十三年八月九日午後第三時頃雇主利七ハ博多對馬小路宮野市右衛門方ヘ罷越シ留守中自分モ所用アリ上陸セントスル際不圖盜心ヲ生シ兼テ雇主ノ所持セル金子員數ハ分ラス一包竊取豐前國小倉ヲ向ケ逃走途中粕屋郡青柳村ニ於テ拿ハレタリ

右竊取金ヲ以テ當時博多名前不知店ニテ貳圓五拾錢蝙蝠傘壹本八拾錢草烟入並ニ煙管共壹個宛拾錢煙草壹卷貳拾六錢脚半壹足八厘「マッチ」壹個買求壹圓五拾六錢ハ人力車及ヒ飲食料ニ費用シ五拾錢ハ途中ニテ落失殘餘ノ金額百拾五圓三拾六錢五厘ト右買求メタル物品ハ引揚ケラレ都合竊取セシ金額ハ百貳拾壹圓九錢三厘ナルコト取糾ヲ蒙リ承知致シタリ

右ノ口供ニ依リ明治十三年八月二十一日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀明治十三年八月九日雇主西山利吉所有ノ金圓ヲ竊ミ取ル科明治九年五月十九日改正雇人盜家長財物律ニ依リ竊盜ヲ以テ論シ一等ヲ加ヘ贓金百拾圓以上懲役十年可申付處情狀ヲ酌量シ三等ヲ減シ懲役三年申付ル

但存在スル贓金百拾五圓三拾六錢五厘ハ取揚ル已ニ費用セシ五圓七拾貳錢八厘ハ資力限リ追徵ス

福岡縣八等警部大崎利三郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不當トナシ上告スル爲メ司法省ヲ經由シ明治十三年九月廿四日大審院撿事ヨリ本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

被告小島善吉ナル者明治十三年八月二十一日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ別綴宣告書案ノ通リ雇主西山利七ノ金圓盜ミ取ル科明治九年第七十四號公布改正雇人盜家長財物律ニ依リ竊盜ヲ以テ論シ一等ヲ加ヘ贓金百拾圓以上懲役十年情狀ヲ酌量シ三等ヲ減懲役三年但存在スル贓金百拾五圓三拾六錢五厘ハ取揚ル已ニ費用セシ五圓七拾貳錢八厘ハ資力限リ追徵スト處斷シタリ然ルニ右改正雇人盜家長財物律ニ依リ處斷シタルハ當ヲ得ルト雖モ其盜贓タルヤ該犯カ自認ノ口供及ヒ物主ノ失單書ニ依レハ百貳拾圓以上ニシテ尙ホ該廳ニ於テ爲シタル宣告書ノ但書ニモ現在セル贓金百拾五圓三拾六錢五厘已ニ費用セシ金五圓七拾貳錢八厘トアレハ此合計百貳拾圓以上タルコトハ明々瞭々タリ然ラハ則チ該被告ノ如キハ酌量シテ本罪上ニ三等ヲ減輕スルモノトセハ贓金百貳拾圓以上懲役終身ヨリ減シテ懲役五年ニ處スヘキヲ該支廳ニ於テハ獨リ宣告書本文ノミ贓金百拾圓以上懲役十年情狀ヲ酌量シ三等ヲ減シ懲役三年ト處斷シタルハ不當ノ裁判ト云ハサルヲ得ス因テ關渉ノ書類相添此段及上告候也

大審院ニ於テ辨明スル事左ノ如シ

善吉カ口供ヲ閲スルニ盜金ノ內已費消シタル金五圓七拾貳錢八厘殘金百拾五圓三拾六錢五厘合計金百貳拾壹圓九錢三厘ナリ而ソ雇主西山利七カ其筋ヘ差出シタル盜難屆書ニ金百貳拾圓三拾錢但シ此外所持仕候得共打混シタル故相分ラストアリ善吉カ竊取シハ金額百貳拾圓余ナル事ハ其口供ト相符合スルヲ以テ善吉カ利吉所有ノ金圓ヲ盜取シタル罪ハ

明治九年五月十九日第七十四號布告改正雇人盜家長財物律凡雇人家長ノ財物ヲ盜ム者ハ竊盜ヲ以テ論シ一等ヲ加ヘ管守者ハ又一等ヲ加ヘ並ニ罪懲役終身ニ止ルトアルニ依リ賊盜律竊盜條竊盜贓金百貳拾圓以上懲役十年ニ一等ヲ加ヘ懲役終身ノ處情狀ヲ酌量シテ三等ヲ減シ懲役五年ニ處スヘキモノナリトス

然ルヲ原裁判所ニ於テ贓金百拾圓以上懲役十年可申付處情狀ヲ酌量シテ二等ヲ減シ懲役三年ト申渡シタルハ適當セサル不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年八月二十一日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ善吉ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スル事左ノ如シ

小島善吉

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ改正雇人盜家長財物律ニ依リ竊盜贓金百貳拾圓以上懲役十年ニ一等ヲ加ヘ懲役終身ノ處情狀ヲ酌量シテ三等ヲ減シ

懲役五年

但現在スル贓金百拾五圓三拾六錢五厘及ヒ已ニ費用セシ金五圓七拾貳錢八厘ハ資力限リ併セテ追給ス

第六百四十八號

○判文（不應爲ノ件）明治十三年八月十三日上告
明治十三年十月七日判決

兵庫縣播磨國赤穗郡新濱村

平民

平尾安治郎

明治十三年八月
四十九年十一ヶ月

右安治郎カ明治十三年八月五日兵庫縣姫路警察署ニ於テ爲シタル口供及明治十三年八月十三日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ爲シタル口供左ノ如シ

姫路警察署ニ於テノ供狀

明治九年六月神戸裁判所姫路支廳ニ於テ改定律例第二百廿六條ニ依リ懲役六十日申付ラレ候事

明治十三年一月同廳ニ於テ雜犯律不應爲輕ニ問懲役廿日申付ラレ候事

職業ハ定マリタル一無之他人ニ被雇渡世致居候事

文字讀書ハ少々相辨居候事

兩親共死亡既ニ婚姻致子ハ五人有之候事

產所ハ新濱村ニ有之候事

米タ寄留致居不申候得共當時ハ飾東郡龍野町五丁目松本駒吉方ニ止宿致居候事

新濱村在籍ニハ候得共家屋財產共一切無之候事

兼テ怨意ニ致候同國加東郡來住村當時飾東郡龍野町五丁目長田喜八郎方止宿黑田正一ヨリ飾磨津ノ往復ノ間借用ノ約定ニテ蝙蝠傘壹本借受小姓町小川久四郎ヘ代金四拾五錢ニ妻「トメ」ヨリ入質致候尤正一ヨリ借受候ハ當十三年七月三十日ニテ小川久四郎ヘ入質致

候モ同夜ニ有之候事

右正一ヨリ借用致候傘入質致候始末左ニ申上候間御聞取被下度候

當七月十日過正一止宿ヘ參リ候處同人ヨリ吉田町觀音堂坐敷貸致居候圓尾幾太郎ニ繕貳反買取居候得共未タ金員相渡居不申故猶豫之儀盡力致呉レ來ル十六日ニハ加東郡ヨリ受取ヘク金員有之故右ニ仕拂ヘク旨申聞候ニ付自分承知致シ圓尾方ヘ談判致候所是迄ハ度々違約ナレハ貴殿ヘ對シ猶豫致ス乍併十六日ニハ相違無之哉ト尋ニ付加東郡ノ者ヨリ正一ヘ受取ヘク金ハ自分ヘ渡シ呉レト迄談判行屆居候間決テ相違無之實際加東郡ノ者ヘハ談判不致候得共虚言ヲ加ヘ猶豫依頼致遣候事

然ル處約定ノ十六日ニ相成候得共正一ニ金調出來サルヨリ廿二日ニハ加東郡ノ者來ル筈ニ付夫迄猶豫依頼致呉トノ事ニ付尚又圓尾ヘ廿三日迄猶豫依頼ヲヨビ正一ニハ相答不申自分一己ノ了簡ニテ廿三日ニハ必ス自分ヨリ譯立可致旨約定證差入置候事

同月十九日用向ニテ岡山表ヘ參リ同廿二日ノ夜歸宿仕翌廿三日正一方ヘ參リ本日期日ニアルト申候得共正一ニハ金調出來不申兼テ正一引受居候事件示談相成居候ニ付テハ少々金子貰受候筈ニ付先方ヘ參リ候處金員貸呉不申圓尾ヨリハ度々ノ催促有之同月三十日ニ至リ明三十一日ニハ必ス譯立呉候樣圓尾ヨリ申來候ニ付テハ正一ニ掛合候共到底埒明不申ト相心得自分ヨリ仕渡居候證書ハ扳出ス心得ニテ飾磨津往復借用致候傘ヲ入質致シ候事

金五拾錢持參圓尾ニ證書指出シ申出候處同家ニハ壹圓五拾錢カ貳圓ハ返金致クレトテ自分持參ノ五拾錢ハ受取不申故歸宿ノ上傘返却延引ノ挨拶ト圓尾方ノ事情ヲ認メ正一ヘ遣候事

八月一日自分不在中正一自分宿ヘ參リ圓尾ノ一條ハ御世話ニナラヌ依頼致サヌ證書抔ヲ差入夫カ爲傘返却出來サル乎抔ト申シ立歸リ候由自分歸宿後妻ヨリ承リ候事

右次第妻ヨリ承候ニ付圓尾方ヘ參リ自分ハ拔テ呉ト申候得共同人カ拔呉不申候ニ付然ラハ同道正一方ヘ可參約定致則同道正一方ヘ參リ三名對談ノ上圓尾方一條ハ示談相成候事」

圓尾方示談相成候ニ付テハ傘入質致候金圓不用ニ付直ニ妻「トメ」ヲ質受ニ遣シ候處正一ヨリ可受出候間安治郎ヘハ渡サヽル樣強テ被頼居候由ニテ渡呉不申候樣妻ヨリ申聞候ニ付明朝正一ヘ談判可致ト存其夜ハ相休候事

翌日直ニ正一方可參ト存候得共勸解事件ニテ出頭仕歸途正一ヨリ蝙蝠傘一條告訴仕候由承リ前顯申上候通正一ノ爲ニ入質致候樣ノ振リニ有之候得共飾磨津往復間約定ニテ借受候傘ヲ入質致候段ハ不宜義ト心得一昨三日書面ヲ以テ自首致候事

右蝙蝠傘ヲ圓尾幾次郎ノ盡力ニテ自分受戻シ本日持參仕居候間差上候事

自分御手當ニ相成居候義ハ承知不致自首狀ヲ差出シ溜所ヘ參リ候節自分妻「トメ」御拘引相成候旨承リ候事

圓尾ヘ差入置候證書ヲ扳出シ候上ハ外金ヲ以テ受戻シ正一ヘ返却可致積リニテ正一ヘ書翰差遣候節モ蝙蝠傘入質ノ情ハ申通セス一時ノ融通ニ致候所右樣ノ次第ニ立至リ候事

姫路支廳ニ於テノ口供

職業ハ銀談ノ事ニテ彼地此地ヘ雇ワレ申候妻「トメ」ノ人別ハ引取無之候生レタ所ハ中村

ニ有之候

傘ハ去月三十日夜八時ニ借用致シ候處圓尾ヨリ度々ノ催促ニ付同夜十時頃入質致候

去一日夜正一宅ニテ傘ヲ質入致候事ハ嘶シ致シ不申其節酒ニ醉テヲリ候間他人カラ借候

物ヲ入質抔スルモノジヤナヒト申シタモ分リ不申候

右ノ口供ニ依リ明治十三年八月十三日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀黑田正一ヨリ借用スル蝙蝠傘ヲ擅ニ質入スル科乾沒スルノ意ナキヲ以テ雜犯律不

應爲重ニ問擬シ聞捕自首スルニ付一等ヲ減シ仍ホ二等ヲ酌減シテ懲役四十日申付ル

但蝙蝠傘ハ取上ル

平尾安治郎ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年八月十八日大審院ニ上告ノ要旨左ノ

如シ

神戸裁判所姫路支廳ニ於テ雜犯律不應爲重ニ問擬シ聞捕自首スルニ付一等ヲ減シ仍ホ二

等ヲ酌減シ懲役四十日ニ處セラレタレヒ自分ニ於テ明治十三年八月二日勸解事件ニ付出

頭退廳ノ際野里梅个坪ヘ罷越途中ニ於テ兼テ裁判所控所ニテ見知リ居リ姓名不知モノヨ

リ自分ノ告發シタルモノ有之旨申聞タレヒ同人義ハ常ニ戲謔ノミ申ニ付如何ト存シタレ

ヒ其告訴人ヲ承合候處原告ハ存セサレトモ傘ノ事ノ由聞及ヒタル旨答候然レヒ同夜ハ黑

田正一即チ告訴人ト同伴今宿村太八郎方ヘ可參約定モ有之甚不審ニ存シタレヒ人ノ心ハ

難計何分正一ノ事件タリトモ自儘ニ質入致シタルハ不當ナルニ付正一ニ於テ如何不當ニ

運フモ難計ト思量シ右蝙蝠傘ヲ携帶自首致シ該事件ニ付妻「トメ」ノ拘引ニ相成居候事始

テ承知致候儀ニテ右件ニ付妻「トメ」拘引相成並ニ自分御尋問ノ爲メ官ヨリ御手配相成居

候儀一切承知不致居候次第ニ付前文ノ如ク聞捕自首スルモノト判定セラレタルハ不當ノ

裁判ナリト思考ス

辨明

上告人ニ於テハ原裁判所カ聞捕自首スルニ付一等ヲ減シ仍ホ二等ヲ酌減シ懲役四十日ノ

處斷ヲ爲シタルヲ不當ナル旨申立ルヒ雖明治十三年八月五日兵庫縣姫路警察署ニ於テ爲

シタル口供ニ傘入質致シ金圓不用ニ付直ニ妻「トメ」ヲ質受ニ遣シ候處正一ヨリ可受出候

間安治郎ヘハ渡サヽル樣强テ被賴居候由ニテ渡呉不申候樣妻ヨリ申聞候ニ付明朝（明治十三年八月二日ニ當ル）正一ヘ談判可致ト存其夜ハ相休候事翌日（即チ明治十三年八月三日ニ當ル）直ニ正一方ヘ可參存候得共勸解事件ニテ出頭仕歸途正一ヨリ蝙蝠傘一條告訴仕候由承リ前顯申上候通正一

ノ爲ニ入質致候樣ノ振ニ有之候得共飾磨津往復間約定ニテ借受候傘ヲ入質致ス段ハ不宜

儀ト心得一昨三日書面ヲ以テ自首致候事トアルニ由レハ被害者タル黑田正一カ上告人ノ

所爲ヲ其筋ニ告發ヲ爲シタルヲ了知シ然ル後チ自首シタル事明瞭ナリトス夫レ罪犯ノ名

ヲ指ノ告發ヲ經レハ官直ニ犯者ヲ捕獲シ糺訊スヘキハ當然ノ事ナルニヨリ人ノ官ニ告ケ

ソト欲スルヲ知テ自首シ或ハ已ニ告發ヲ經ルト雖モ本犯未タ知ラス及ヒ官罪犯ノ名ヲ知

ラスシテ自首スルモノト其情狀大ニ異ナルモノトス故ニ原裁判所ニ於テ本犯ヲ雜犯律不

應爲重ニ問擬シ聞捕自首スルニ付一等ヲ減シ仍ホ二等ヲ酌減シテ懲役四十日ニ斷定シタ

ルハ不適當ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年八月十三日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ平尾安治郎ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ付上告狀却下スルモノナリ

第六百四十九號

○判文（鬪歐ノ件）明治十三年八月廿三日上告
明治十三年十月七日判決

兵庫縣攝津國神戸區元町通四丁目山田文造長男定吉事平民
山田小兵衛
明治十三年六月
三十四年五ケ月

右小兵衛カ明治十三年六月七月兵庫縣警察署ニ於テ數次取調ヲ受ケタル口供及明治十三年八月九日神戸裁判所ニ於テ審問ヲ受ケタル口供左ノ如シ

兵庫縣警察署ニ於テノ口供

一自分儀幼年ノ頃ヨリ染物職相働キ居當今迄モ親族ナル神戸區下山牛通六丁目高井安太郎方ヘ染物職働ヲキノ爲メ日々罷越居候事

一自分儀明治十二年三月頃ヨリ當今神戸區元町一丁目住居ノ藤田清次郎母「イワ」ナル者ト馴レ染ミ交情追々深ク相成右「イワ」於テモ納得ノ上來々ハ夫婦ニ相成リ候約定モ致シ自分宅ヘ「イワ」ヲ引取ル迄ハ同人並清次郎ノ養育料等モ自分ヨリ仕送リ致シ遣ハシ自分義ハ毎夜同人方ニ寢泊マリ致居リ候事

一本年即チ十三年一月下旬ノ頃ヨリ右「イワ」義如何ナル所存カハ不相知候得共諸事ノ取扱ヒ自分ヘ對シ昨年中トハ相變ハリ且自分ヲ嫌ラヒ居候樣子見受ケ聊カ殘念ニハ存シナカラ是迄ノ交際モ有之義ニ付其儘ニ打過キ居候然ルニ同月中「イワ」ノ懇意ナル西ノ宮警察署ノ御役人ナル由木村幸三郎ノ妻「タケ」ト申人ヨリ倚賴アリシ趣キニテ自分ヘ金子融通ノ義「イワ」ヨリ相賴ミ候ニ付自分承知ノ上實父文造ノ所持金ヲ以テ同人等ヘ貸シ與ヘタル金子數度ニ凡ソ四拾六圓余ニモ及ヒ候間四月三十日頃迄モ返濟ハ致サス證文等モ差入レサル故右「イワ」ヘ再度返辨方促カシ候得共「イワ」ニ於テハ彼是レ申述ハシ等閑置キ反ツテ自分ヘ對シ余事ヲ以テ惡口ヲ申掛ケ候義數度ニ及ヒ乍遺感其儘打捨テ置候事

一前顯ノ如ク藤田「イワ」ニ於テハ壹ケ年余モ世話ヲ受ケタル自分ヘ斯ク薄情ニモ踏付ケタル所業數度ニ及ヒ候ヘ共自分ハ素ヨリ愚鈍ナル生レ付キユヘ諸事勘辨致シテ相交ハリ居候ヘ共追々層長シ右木村幸三郎妻「タケ」等ト共々自分ヘ對シ惡口雜言ヲ吐キ且自分「イワ」宅ニ參リ居候ヘハ邪魔ニ相成樣子ニテ是レ迄テハ勘辨シテ相交ハリ居候ヘ共實ニ男ニ生レテ女共ヨリ右樣ナル耻辱ヲ受ケ如何ニモ殘念ニ存候ヨリ本年則明治十三年五月廿七日午后一時頃飲酒シタル末元町二丁目藤田「イワ」家宅ヘ罷越シ候處怪敷男子同人宅ニ居合ハセ自分立入候哉否ナ「イワ」共々表口ヨリ馳セ出候樣子見受ケ怒氣一時ニ相發シ該家數鴨居ニ置キアル自分所持ノ小刀ヲ携ヘ「イワ」ヲ追駈ケ同町其節姓名不存北野佐助方店ノ間ニテ取リ押サヘ殺意ハ無之候ヘ共其節携ヘタル小刀ヲ以テ「イワ」ノ面部其他數ケ所ヘ疵負ハセ最前逃走シタル男子ヲモ取リ押サヘントト存シ處々相搜カシ候ヘ共見當ラ

ス夫レヨリ神戸區諏訪山ヲ指シテ罷越同所田圃ノ中ニ相倒レ候折柄身体モ相疲カレ頭痛モ致シ耐ヘ難ク其儘同所ニ打臥シ翌廿八日ハ市中ヘ立歸リ其筋ヘ自首致シ候積リノ處氣分モ悪シク身体モ相疲カレ苦痛ニ耐ヘサルヨリ兼テ懇意ナル天王谷ヨリ二里程隔タリタル「チーブ」地名ト申所ノ東中菊松ト申人ヲ尋ヲ行キ同所ニ於テ病氣養生致シ居本日即チ明治十三年六月廿二日午後七時頃當區内元町四丁目住居ノ能勢又兵衛ト申者ヲ尋ネ行キ前條自首致度段同人ヘ相談シ書面認メ貰ラヒ即時當御署ヘ自首致候事

一前顕自分ノ「イワ」ニ負傷セシメタルハ一時憤怒ノ余酩酊ノ末殺意ハ無之候ヘ共計ラスモ負傷セシメ候段重々恐入候事

一前書ノ始末書面ヲ以テ自訴候處尚御尋問ヲ蒙リ有体申上候事明治十三年六月廿二日

一自分儀藤田「イワ」方ニ置キ忘レアリシ書面ハ自分「イワ」ニ馴レ染ミシ以來多分ノ借金ヲ負ヒ候ヨリ他國ヘ罷越シ出稼セキ等致シ度存候ニヨリ實父文造等ヘ書置キ遺コシタル義ニテ其借金シタルノ根元ハ「イワ」ニ欺カレタルヨリ起リシ義ヲ書キタル次第ニ有之候事

一自分携ヘ居リシ小刀ハ前顕諏訪山迄罷越候途中ニ於テ遺失致セシヤ更ニ覺ヘ無之候事

明治十三年六月廿四日

一右ハ神戸警察署ニ於テ御取糺ノ厳今般御讀聞ニ相成聊間違ノ義ハ無之候事

一「イワ」ト馴染ニ相成候ハ明治十二年三月頃ヨリニテ其後追々深ク相成候處ヨリ自分モ世話料モ成丈ケ工夫ヲシテ差遣シ居候處夫レガ爲自分借財モ相嵩ミ手元不廻ニ相成掛ケ候處ヨリ追々ト「イワ」ヨリモ薄情ナル仕業致掛ケタル義ニ有之候事

一何ンテモ自分聞込ミタルニハ「イワ」ニ於テハ明治十三年一月頃ヨリ他ニ色男ヲ拵ヘタル樣子ニ有之候得共何分巧ミニ自分ノ目透ヲ考ヘテ忍合候義ニ付疑ト證據ハ押ヘ不申候得共密夫ヲ拵ヘ居タル義ニハ間違ヒ無之候事

一明治十三年五月廿七日午后一時頃「イワ」宅ニ罷越候處何シデモ兼テ聞込居候密夫忍込居自分罷越シタル節立去リタル樣子ニ見受候ニ付自分モ前々ヨリ「イワ」ニ對シテハ遺恨モ有之積日ノ憤怒一時ニ發シ難止ヨリ不圖前後ヲ不顧同家ノ敷鴨居ノ上ニ有之三寸位ノ小刀ヲ取リ之ヲ持チテ矢庭ニ「イワ」ニ係リテ切付ケタル義ニ有之候事

一一時憤怒ニ堪兼「イワ」ニ對シテ毆傷ニ及ヒ候得共跡ニテ大ニ後悔シ自首シタル次第ニ有之候素ヨリ「イワ」ヲ殺ス積リ抔ニテハ無之若シモ同人ヲ殺ス氣ナレハ白晝ニ同人宅ヘ踏込又ハ小刀抔ヲ持チテ切テ係ル抔ノ拙劣ナルヿハ不致義ニ有之候全ク日頃ノ積憤一時ニ發シ無暗ニ傷ヲ爲負タル迄ニ御座候事

一「イワ」ニ欺カレタルニ付テハ如何シタラ可宜旨日夜自分心痛致候テモ好キ分別ニ無之臥シテモ起テモ堪兼候ヨリ或ハ書置ノ如キ手紙ヲ認メテ自分覺悟ヲ極メ樣ト考ヘタリ種々致候義御示シノ手紙ノ内一通ハ自筆ニテ外二通ハ他人ニ相認メ貰ヒ申候右樣種々ト致候テ自分ト自身ニ苦勞致居候義ニ有之候今日ニ至リ能々考ヘテ見ルト實ニ夢ノ覺メタル如シ存候事

一自分「イワ」ニ對シ傷ヲ爲負タルニ付テハ同人八ヶ所傷所有之旨且右傷モ追々平癒ニ及

ヒ候曾御申聞ニ相成承知致候事　明治十三年七月廿八日

神戸裁判所ニ於テノ口供

一藤田「イワ」ト馴合ニ相成タルハ去年三月頃ヨリノヿニ候

一「イワ」ニ傷付ケタル品ハ自分大坂表ニテ曾テ買來リ而シテ「イワ」ノ家ノ鴨居ニ乗セ置タル義ニ候「イワ」ニ傷付ケタル後逃走シタル途中ニテ取捨テ申候

一是マテ「イワ」ヲ傷ツケタル一件ニ付兵庫縣警察官ノ御調ヲ受ケタル節申立タル口上ニ少シモ詐リハ無之候

一「イワ」ニ傷ツケ凡二十三四日程過キテ後新聞ニ「イワ」ヲ傷ツケタル次第書載セ有之由側カニ承リ前非ヲ悔テ自首仕タル義ニ御座候

一「イワ」ニ此場所ニテ面會スルカ初メテニ御座候惡ヒ事ヲ仕リタリト存シ恐入罷在候

一小刀ハ刃ノ長サ三寸程ニテ卷紙ナヅヲ切ルニ町家ニテ用ユル品ナリ片刃ニ候

右ノ口供ニ依リ明治十三年八月十四日神戸裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀明治十三年五月二十七日兼テ馴染合ノ藤田「イワ」カ他ニ馴染合ノ男ヲ持ラヘタリト疑念シ嫉妬ノ餘紙切小刀ヲ以テ面部咽喉其外數ケ所ヘ重傷ヲ負ハセタル後悔悟自首スト雖モ人ヲ損傷セシハ首免ヲ與フル限ニ非ラサルヲ以テ右科鬪毆律刃傷スル者ヲ以テ論シ懲役二年ノ處一等ヲ酌減シ懲役一年半申付ル

右山田小兵衛ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年八月廿三日大審院ニ上告スル旨趣左ノ如シ

第一條

一自分ハ昨明治十二年二月頃ヨリ藤田「イワ」ナル者ト馴染ヲ通シ本年本月ニ至ル迄「イワ」母子三名ヲ養イ居ル中互ニ其情深クナルニ付木村幸三郎妻「タケ」ヲ仲人トシテ入嫁入籍ノ示談ハスヤド兩家ニ取込ミ事情有之ニ付未タ入籍ノ行届キ居申サズ候

第二條

一仲人「タケ」ナル者ニ該件仲人トナル後チ金員貸シ呉レルヨウ申ニ付金若干貸付候然ルニ本年四五月頃自分金員要用ニ付馴染「イワ」ヘ該金催促シテハ如何ント申セバ「イワ」申ニハ是迄「タケ」ニ種々世話ニ相成ヲレバ決シテ促スヿ能スト申ニ付自分ヨリ貸與ヘタル金子催促不出來トハ何歟怪敷事アリト心得居レ中他ニ密通スル者アリト聞込ミ候

第三條

一本年五月八日西ノ宮木津甚ト申方ヘ木村幸三郎同妻「タケ」「イワ」ト自分四名其家ニ酒宴中自分サキニ出テ其門口ニ彳ミ何歟ノ樣子ヲ聞ケバ「イワ」窃ニ申スヨウ山田小兵衛ニハ金員若干トツタニヨツテ縁切レスルト相談致シ居ニ付自分立服ノ餘リ内ヘ入木村幸三郎ト右義ニ付大ニ爭論致候得共一先相鎮リ同五月十日歸宅ス

第四條

一自分西ノ宮歸宅後「イワ」宅ヘ折々樣子伺ウ折柄同五月廿七日午後第一時頃酩酊シテ「イワ」宅ヘ至レハ「イワ」ト外ニ年頃三十四五ノ男ト兩人枕ヲ並臥シ居ルヲ見認ムルヤ否彼ノ男ハ大ニ驚キ門口ヨリ逃去ス引續キ「イワ」モ逃ケントスル際該家手元ニアリ合セタ

ル紙切小刀ヲ以テ「イワ」ノ髪ヲ切ラントスル其際不斗誤テ小刀面部ヘ觸レ少々疵付キ候

第五條

一本年六月二十一日神戸警察分署ヘ前條ノ始末自首及候處同日同所ニ拘留ト相成同七月廿八日同署ニ御尋問相成候得共其時自分大ニ逆上シテ何ニヲ上申シタル哉相覺ヘ不申候得共御掛官ヨリ唯女「イワ」ガ惡イト被仰タル事丈ケ慥ニ聞居其後一先責付ト相成候

第六條

一第二條ニアル「イワ」ト仲人「タケ」ト申合シ自分ノ金員ヲ欺キ取リタルモノト考ルニ何等ノ御所分モ無之

一第四條ニアル髮ヲ切ラントスルニ酩酊ノ余リ誤テ小刀面部ニ觸レ輕傷シタルモ之レ故ラノ所爲ニアラス

一第五條ニアル神戸警察署責付ノ際「イワ」ガ惡イト被申タルト今度ノ裁判ト大ニ反對スルト該六條中ニアル第二條第四條第五條ノ三件之レ不服ナリ

第七條

一自分ハ「イワ」ト夫婦ノ契約モ既ニ齊ヒ入嫁入籍中ニ付テハ外人ヲ負傷シタルト異ナリト考ウレハ此情々深ク御酌量アルヘキモノト存居候所斯重刑ニ被處タルハ之レ不服ナリ

明治十三年九月三日重ヲ左ノ追伸書ヲ差出シタリ

第一條

一本狀第五條ノ如ク本年六月二十一日神戸警察分署ヘ自首スルハ本狀明細書條々ノ如ク其事實ナリユキニ付則チ小氣ヨリ生ス不斗前後ヲ失イ其場所ニ有合セノ紙切小刀ヲ以テアサキスト雖モ少々疵付候義ニ仍テ其定則ニ基キ自首ニ及ヒ則チ宣告書中ニ一等ヲ酌減ストアル以上ハ必ス自首ノ外其實ヲ考認アテハ減シ不減シヲ論セス則チ自首スル廉ニ仍テ格別ノ裁判可有之義ト決心仕候仍テ神戸裁判所裁判不服第一ナリ

第二條

前條ノ如クニ付懲役一年半不服ノ第二ナリ尤此義則チ前條自首相立チ立タサルヲ論ス則チ前條ノ如ク自首相立ツ以上ハ當罪無論ノ義ト決心候也

第三條

一該女切リキスト雖モ日數十五日間內ニ於テ速ニ疵直ス如此趣意ノ者ヲ鬪毆律刃傷スル者ヲ以テ論シトアルハ御見込ミ不服ノ第三ナリ

明治十三年九月十三日再ヒ左ノ追伸書ヲ差出シタリ

第一條

宣告〈曩ニ呈供セシ上告明細書中〉中〈宣告文ヲ掲ケタレハ今略ス〉〈面部咽喉其外數ケ所ヘ重傷ヲ負セシハ〉云々トアレ已上告明細書第四條ニ陳述スル如ク明治十三年五月廿七日午后一時頃酩酊ニ乘シ兼テ夫婦ノ契約ナシ置キタル藤田「イワ」方ニ至リ觀レハ平日疑團ヲ聽キシニ違ハス「イワ」ト三十四五ト思敷男ト枕衾ヲ共ニシ並臥シ居ルヲ認メ憤怒ニ堪ヘス兩人ヲ取押ヘントセシモ如何セン自分ハ酒醉ノ爲メ足ノ踏メナク彼ノ男ハ早ヤ門外ヘ逃ケ去リ「イワ」モ裏口ヨリ逃出ントスルヲ認メ憤怒制止スル能ハス該家ニ有合セシ紙切小刀ヲ以テ同人ノ髪ヲ切ラ

ントセシモ同人ハ之ニ抗抵シ加之自分ハ酩酊上ノ「ナレハ髮ヲ切ラントセシ手元狂ヒ誤テ面部咽喉ヘ輕傷ヲ負セ且ツ自分カ髮ヲ切ラントスルヲ差止ント「イワ」カ差出シタル手ニ壹ケ所ノ輕傷ヲ負ハセリ然レトモ之レ皆酒醉上ノ過誤ニシテ肯テ故意ヲ以テ傷ヲ負ハセシニ非ラス然リ而シテ該傷ノ輕キハ養膽十有五日ヲ出ズシテ全愈セリ爰ヲ以テ該傷ノ輕キヤ明々タリ然ルヲ神戸裁判所ニ於テハ(重傷ヲ負セ)云々ト論セラレシハ不服ニ付上告シテ以テ破毀ヲ乞願スル所以ナリ

第二條

宣告書中(其外數ケ所)トアレトモ前陳ノ如ク面部咽喉ヲ除クノ外手ニ壹ケ所ノ輕傷アル而已余曾テ聞ケルアリ(數)トハ三四以上ヲ指シテ云フト然ラハ手ニ壹ケ所アル輕傷ヲ除キ他ニ秋毫ノ輕傷ナキヲ(數ケ所ノ重傷ヲ負セ)云々ト宣告セラレシハ何ニ原因スルヤ了解シ能ハサル所ナリ仍テ該裁判ニ服スル能ハス上告シテ以テ破毀ヲ求ムル所以ナリ

第三條

宣告書中(右科鬪毆律刃傷スル者ヲ以テ論シ)云々トアレトモ前條陳述ノ如ク肯テ故意ヲ以テ傷セシニ非ラス酒醉上過失傷シタル者ナレバ新律綱令過失殺傷例ニ照シ收贖セラルヽハ其當ヲ得タル者ト云ヘシ然レトモ今一歩ヲ進メ之レヲ論センニ假リニ故意ヲ以テ傷ヲ負セシトスルモ該紙切小刀タルヤ菜刀ニ及ハサルヿ數等ノ者ナレハ實況ヲ推究セラレ改定律例第二百十四條ニ照シ處斷セラルヽハ格別ナリトス然ルヲ否ラズシテ僅些タル輕傷ナルモ重傷トシテ刃傷スル者ヲ以テ論セラレシハ偏頗ノ裁判ト云ハザルヲ得ズ故ニ該裁判ニ承服シ能ハス上告シテ以テ破毀ヲ求ムル所以ナリ

上告ノ主點左ノ如シ

一(「イワ」ト仲人「タケ」申合セ自分ノ金圓ヲ欺取リタルモノト考量スルニ何等ノ處斷ナキハ不當ナリトノ事

一「イワ」ノ髮ヲ切ラレントスルニ酩酊ノ余リ誤テ小刀面部ニ觸レ輕傷ヲ負セタルモノニヲ故意ニ非サルトノ事

一神戸警察署ニ於テ「イワ」カ惡イト被申タルト神戸裁判所ノ裁判ト反對スルハ不當ナリトノ事

一「イワ」ト夫婦ノ契約已ニ齊ヒ入嫁入籍中ナルニヨリ他人ヲ負傷シタルトハ異ナリトノ事

一「イワ」ニ負傷ノヿハ自首ナシタルニ一等ヲ酌減セラレ自首相立サルハ不當ナリトノ事

一面部咽喉ヲ除クノ外ハ手ニ薄傷壹ケ所アルノミ殊ニ面部ハ重傷ニアラサルニ宣告文中面部咽喉其外數ケ所ニ重傷ヲ負ハセタルトアルハ不當ナリトノ事

一改定律例第二百十四條ニ菜刀トアル菜刀ニモ及ハサル小刀ナレハ實況ヲ推究シテ處斷セラルヘキハ至當ナリトノ事

辨明

第一條

上告人ノ申立ニ「イワ」ト仲人「タケ」兩人カ申合セ金圓ヲ欺キ取リタリト申立ルモ右者上告人カ言渡シヲ受ケシ刑ニ就テノ上告ニ非スシテ他人ノ犯罪ヲ告訴スルニ係ルモノナレ

ハ本院ニ於テ受理スヘキノ條件ニ非ストス何ソトナレハ本院ハ刑ノ言渡ヲ受ケシモノ裁判ノ法律ニ違フカ又ハ聽斷ノ定規ニ背クト見込ミ其裁判ノ破毀ヲ求ムル爲メニ上告セシキ原裁判ノ當否ヲ判決スル所ニシテ刑ノ言渡シテ受ケタル者カ他人ノ犯罪ヲ告發シ又ハ他人ノ受ケタル處分上ニ付テノ當否ノ申告ヲ受クヘキ處ニ非ストス

第二條

「イワ」ノ髮ヲ切ラントス際銘酊ノ除リ誤テ小刀ヲ面部其他ニ觸レ輕傷ヲ負セタルモノニシテ故意ニ非サル旨申立ルト雖モ警察署ニ於テ爲シタル口供中ニ怒氣一時ニ相發シ該家數鴨居ニ置キアル自分所持ノ小刀ヲ携ヘ「イワ」ヲ追駈ケ同町其節姓名不存北野佐助方店ノ間ニテ取リ押ヘ殺意ハ無之候ヘ共其節携ヘタル小刀ヲ以テ「イワ」ノ面部其他數ケ所ヘ疵負ハセ云々又積日ノ憤怒一時ニ發シ難止ヨリ不圖前後ヲ不顧同家ノ數鴨居ノ上ニ有之三寸位ノ小刀ヲ取リ之ヲ持チ矢庭ニ「イワ」ニ係リテ切付ケタル義ニ有之候事トアリ其他尙數次同樣ノ申立アリト雖モ髮ヲ切ラントセシコハ一モ申立サルノミナラス髮ヲ切ラントシテ誤テ面部其他ヘ傷負ハセタルトノ譖憑モアラサレハ過失傷ヲ以テ論スヘキニアラストス

第三條

警察署ニ於テ「イワ」カ惡イト被申タルト神戸裁判所ニ於テ被申渡タル裁判ト反對スルハ不當ナル旨申立ルト雖モ警察官ニ於テ「イワ」ノ所業惡敷旨申聞ケタルトノ譖憑ナク假令右等ノ申聞在リト雖モ互相問ニ於テ刃傷ヲナスハ法律ノ許サヽル處ナレハ上告人カ私憤ニ出テ「イワ」ニ負傷セシメタルハ「イワ」所業ノ善惡ニ關係セス法律ニ於テ科スヘキハ當然ナリトス

第四條

「イワ」ト夫婦ノ契約已ニ齊ヒ入嫁入籍中ナルニヨリ他人ヲ負傷シタルト異ナル旨申立ルト雖モ警察署ニ於テ爲シタル口供ニ「自分義明治十二年三月頃ヨリ當今神戸區元町壹丁目住居ノ藤田清次郎母「イワ」ナル者ト馴レ染ミ交情追々深ク相成右「イワ」於テモ納得ノ上來々ハ夫婦ニ相成リ候約定モ致シ自分宅ヘ「イワ」ヲ引取ル迄ハ同人並清次郎ノ養育料等モ自分ヨリ仕送リ致シ遣ハシ自分義ハ毎夜同人方ニ寢泊リ致居候事」トアリテ入嫁入籍中ナル旨警察署及ヒ原裁判所ニ於テ一モ申立サルヲ視レハ該申立ハ事實ニ相違シタル申立ナリトス

第五條

本件ハ悔悟自首ナシタルニ一等ヲ酌減セラレ自首相立サルハ不當ナル旨申立ルト雖モ名例律犯罪自首條ニ其人ヲ損傷シ及ヒ賠償ス可ラサルノ物ヲ毀棄シ若クハ姦スル者ハ並ニ自首ノ律ニ在ラストアルニ依リ本件ノ如キ人ヲ傷セシモノニ自首ヲ免サヽルハ相當ノ事ナリトス其一等ヲ酌減シタルハ當該裁判官ニ於テ事情愍諒スヘキ情ニ在リト認メ酌減シタルモノナレハ自首ノ有無ニ關セサルモノトス

第六條

面部咽喉ヲ除クノ外ハ手ニ薄疵壹ケ所アルノミ殊ニ面部共重傷ニアラサルニ原裁判所宣

害文ニ面部咽喉其外數ケ所ニ重傷ヲ負サセタルトアルハ不當ナリト申立レモ上告人カ口供ニ殺意ハ無之候ヘ共其節携ヘタル小刀ヲ以テ「イワ」ノ面部其他數ケ所ヘ疵負ハセ云々ト申立タルヲ見レハ面部其他數ケ所ニ傷負ハセタルヿハ上告人カ自ラ自認シ居ルノミナラス明治十三年五月廿七日公立神戸病院醫員中埜宗碩ヨリ警察署ニ差出シタル診斷書ヲ閲スルニ左ノ如シ

藤田イワ

診斷書

左頰部金創壹ケ所長サ貳寸五分

同口角ヨリ頰部ニ至ル金創壹ケ所長サ壹寸七分

右頸部ヨリ耳後ニ至ル金創壹ケ所長サ三寸五分

甲狀軟骨部ヨリ斜メニ上後方ニ至ル金創壹ケ所長サ四寸五分

右耳輪ノ後面金創壹ケ所長サ壹寸三分

同前面金創壹ケ所長サ四分半

頸部前面捲徑金創壹ケ所長サ貳寸五分

右手背部金創壹ケ所長サ四寸三分以上八ケ所

右之通ニ候也

右ノ書面ニ依ルモ面部ノ外數ケ所ニ負傷アリ及ヒ其輕傷ニ非サルヿ明瞭ナルニヨリ原裁判所ニ於テ面部其外數ケ所ニ重傷ヲ負ハセタルト宣告書ニ記シタルハ相當ノヿナリトス

第七條

改定律例第二百十四條ニ菜刀トアル菜刀ニ及ハサル小刀ナレハ實況ヲ推究セラレ處斷セラルヘキハ至當ナル旨申立ルト雖モ抑菜刀トアルハ鎌刀菜刀ト概稱シタルモノニシテ强チ鎌刀菜刀ト限リタルニ非ス畢竟鎌刀菜刀等物ヲ刃物ノ類ヲ用ヒ輕傷ヲナシタルモノニシテ其犯情輕キヲ云フモノナレハ本件ノ如ク小刀ヲ用ヒタルモ數ケ所ニ重傷ヲ負ハセタルモノナレハ鎌刀菜刀等ヲ用ヒ傷輕キモノハ懲役七十日トアル明文ニ相當スヘキ場合異ナルモノナリトス仍テ原裁判所ニ於テ鬬毆律刃傷スル者ヲ以テ論シ懲役二年ノ處一等ヲ酌減シ懲役一年半ニ科斷シタルハ不適當ノ裁判ニ非ストス

判決

前條々ノ如シナルヲ以テ明治十三年八月十四日神戸裁判所ニ於テ山田小兵衛ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ由リ上告狀却下スルモノナリ

第六百五十號

○判文（酒類犯則ノ件）明治十三年八月四日上告
明治十三年十月七日判決　福岡縣筑前國那珂郡春吉村　平民　闘　次　七

明治十三年二十五年二ヶ月

右次七カ明治十三年一月二十一日福岡警察署ニ於テ吟味ヲ受ケシ供狀及ヒ長崎裁判所福岡支廳ニ於テナシタル口供左ノ如シ

一自分義兼テ醸酒營業罷在ル處今般搾リ器械開披出願ニ及ヒタルヲ以テ明治十三年一月十一日檢査官出張前以テ開披願ヒ置タル醸酒搾リ高檢査相成現酒高拾五石八斗許リ不足スル旨尋問相成タレトモ自分ニ於テハ不足スル覺無之ヲ以テ其旨答辨ナシタレトモ嚴シク取糺ヲ蒙リタルニ付一應杜氏ヲ取調タル處豈圖テン同月二日ヨリ八日迄自分商用ノ爲メ外出ノ留守中杜氏ニ於テ差支ナキ事ト心得酒造藏ノ脇木屋空桶ノ間ノ四斗樽貳拾壹挺ニ石數凡ソ七石三斗五升ヲ氣香ヲ附シカ爲メ入レ置キアル儀ト貳拾壹番桶ノ古酒ヘ八石四斗五升混合ナシタル義相分リ全ク杜氏ノ不調法ニテ自分ノ所爲ニハ無之ト雖モ其實自分ニ於テ杜氏ヘノ取締不行屆ヨリ起リタル儀ニテ今更恐入候事

一右檢査ノ節自分ヨリ檢査官ニ差出シタル始末書ニハ前顯不都合ノ次第ハ自分ノ所爲ノ如ク認メ居レトモ右ハ何故カ檢査官ヨリ按文ヲ下ケラレ是非按文ノ如ク認メヨトノ嚴達ナルヲ以テ無據案文通リ認メタルヲ以テ本日申立ル事實ト相違スル譯ニ有之候事

一右氣香ヲ附シ爲メ四斗樽ヘ入レ置キタル清酒七石三斗五升ト古酒ニ混合シタル八石四斗五升都合拾五石八斗ハ檢査官ヨリ引揚ケラレ候事

長崎裁判所福岡支廳ニ於テノ口供

一自分儀兼テ酒造營業罷在ル處今般搾リ器械封印開披出願ニ及ヒ置キタルヲ以テ明治十三年一月十一日檢査官出張相成リシ其際過般檢査相濟ミシ清酒ヲ一應檢分可相成トノコトナリシニ付直樣案内セシニ拾五石八斗余不足スル旨尋問ヲ受ケ自分ニ於テ尚ホ算計セシニ果シテ拾五石余不足ニ付甚驚愕ノ餘リ自分留守中如何取斗置キシヤ一應杜氏ヲ取調見ント之ヲ呼立シニ是ヨリ以前檢査官ニ於テハ頗ル忿激ノ樣子ニテ種々譴責ヲ受ケ右ヲ恐怖セシモノニヤ杜氏ナルモノ室ノ内ニ入込ミ更ニ其招キニ應セス漸々雇人倉一ナルモノ參リ合セ貳拾五番ノ樽ニ入込之アル旨申演フルニ由リ早速之ヲ取調シニ僅ニ壹石ナリシニ付檢査官ニ對シ何分先刻ヨリ呼立候ヘトモ杜氏ナルモノ更ニ其招キニ應セス必竟右ハ極々ノ田舍漢ニテ其忿激ヲ拜シ恐怖セシモノニ可有之付テハ自分杜氏ニ附キ尋問致シ度旨申演ヘシニ汝ハ逃亡スルノ所存ナルヤ決シテ側ラヲ立退クヿ不相成旨被申聞シニ付更ラハ明日ニモ尚檢分ニ預リ度左候ヘハ篤ト杜氏ヲ取約メ可申旨申演フルモ是又聞入レナク去リトテ杜氏ナル者如何取計置シヤ自分ニ於テ毛頭不存ヿナレハ致シ方無之殆ント究逼シ何卒便用ヲ達シ度暫時御免ニ預リ度申演漸ク其許ヲ受ケ便所ニ趣ク体ニテ密ニ杜氏ヲ取約メシニ水香附ノ爲メ四斗樽廿壹挺ニ入込ミ酒類置場ヘ徵シ置キシ旨申演フルニヨリ早速其旨檢査官ヘ申演ヘ其檢査ヲ受ケシニ是又七石三斗餘ナルニ付尚方便ヲ說ケ杜氏ヲ取約メント存セシ折柄自分實兄運七ナルモノ來リ合セ尚ホ杜氏ヲ招キ委細取調ヘシニ昨年ノ通リ樽ノ口檢査相濟ミタル上ハ外ニ仔細之ナシト存シ水香附ケノ爲メ四斗樽ニ移シ其餘ハ古酒ニ混合セシ旨申演ヘシニ由リ早速其旨檢査官ニモ申立タル儀ニ之アリシ然ルニ其際檢査官ヨリ右ハ隱藏致スヘキ所存ナリシヤノ尋問受ケタレトモ前顯ノ通リ昨年迄ハ樽ノ口檢査ノミナリシニ付杜氏ナルモノ其檢査相濟ミタル上ハ最早他ニ手數之ナキモノト存シ氣香附又ハ古酒ニ混合セシモノニテ且ツ酒稅高ハ樽ノ口檢査ニテ相定マルモ

ノニテ賣口檢査ハ必竟酒造家ノ爲メ本年來始メテ設ケラレタルモノニテ今年ニテモ酒造家ヨリ麹ノ口檢査高ニテ酒稅上納可致申演フルニ於テハ賣口ノ檢査無之之ヲ賣買致スモ苦シカラサル儀ニ之アリ右ノ手續ナルノミナラス麹ノ口檢査ニテ其高定マリシ上ハ如何ノ方法ニテ隱蔽致ス可キヤ決シテ其隱蔽ナドノ行ハルヘキモノニアラサルナリ右ノ事實ナル上ハ自分ニ於テ左樣ナル所爲ヲ致ス可キ樣之ナシ右ノ事實ニテ全ク杜氏ナルモノ昨年迄ノ舊格ヲ墨守セシヨリ出テタルモノニテ自分ニ於テ毫末ノ惡意ヲ以テ之ニ關涉セシモノニアラサルナリ

右ノ口供ニ依リ明治十三年七月二十六日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀清酒隱蔽ニ付遂吟味處其身不在中杜氏阿部勘兵衛ナルモノ麹ノ口檢査濟ノ清酒ヲ氣香附ケノ爲メ四斗樽ニ移シ或ハ古酒ヘ混淆セシモ數年來ノ舊格ヲ墨守スルニ止リ隱蔽等ノ惡意アルニアラサルノミナラス其身ニ於テ關涉セシモノニ無之且ツ必竟賣口檢査ハ酒造家ノ爲メ新ニ設ケタルモノニシテ酒造家於テ異議ナキ上ハ麹ノ口檢査相濟ミタルニ於テハ收稅上ニ關シ其稅額ハ既ニ定マリシモノニテ其賣口檢査ヲ經由セサルモ實際上秋毫ノ弊アラサルニ由リ酒稅犯則ヲ以テ罰ス可キ限ニアラサルニ付無罪

福岡縣七等警部藤本重威ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年八月四日大審院ニ上告スル爲メ司法卿ヲ經由シテ大審院檢事ヨリ明治十三年九月四日本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

右次七カ公訴サレシ所爲ハ明治十三年一月十一日酒造檢査官ニ於テ清酒檢査ノ際拾五石餘ノ清酒不足アルヨリ其理由ヲ審問スルニ被告次七ニ於テ初メハ言ヲ左右ニ寄セ犯則ノ狀ヲ蔽ヒシモ終リニハ遂ニ事實ヲ陳シ其未タ檢査ヲ了セサル處ノ清酒八石四斗ハ貳拾壹挺ノ別樽ニ入レ酒造藏ノ外ナル水屋ノ間ニ移シ他物ヲ以テ之ヲ掩ヒ餘ノ七石餘ハ私擅ニ古酒ニ混合シテ將ニ販賣セントセシ者タルヿハ別紙明治十三年一月十一日附被告次七ヨリ檢査官井手忠平ニ呈シタル始末書及ヒ井手忠平ノ告發書並ニ同八カ檢査ノ顚末ヲ開申セル書面ニ於テ明瞭ナリ但被告次七カ明治十三年一月廿一日福岡警察署ニ於テ吟味ヲ受ケシ口供ニ於テハ其清酒ヲ酒造藏外ニ分置シ及ヒ古酒ニ混合セシハ杜氏一己ノ取計ヒニシテ自ラ之レニ關セストノ申立ナレ𪜈抑モ酒造家ノ杜氏ナル者ハ止タ其酒類ヲ釀造スル而已ノ雇人タルニ過キサレハ其營業上ヨリ生スル所ノ萬般ノ事故及ヒ酒類稅則ヲ遵奉スルニ就テハ責任ハ其營業主ニ於テ負擔スヘキヿ固ヨリ論ヲ俟サルナリ然ルニ長崎裁判所福岡支廳判事安藤源五郎ハ該件受理ノ後滿六ケ月餘ノ時日ヲ費シ漸ク明治十三年七月二十六日ニ及テ別紙宣告書ノ如ク無罪ノ判決ヲ與ヘタリ抑モ安藤判事カ見テ以テ無罪ト爲セシ要點ハ第一其清酒タル麹ノ口檢査ヲ了シタルモノニシテ之ヲ他樽ニ移シ或ハ古酒ニ混合セシモ隱蔽等ノ惡意アラスト第二雇主乃チ營業主ノ自ラ之レニ關セシモノニ無之ト第三麹ノ口檢査ヲ了セシ酒類ハ收稅上秋毫ノ害アラサルトノ三點ニ外ナラス然レトモ被告ニ於テ果シテ檢査官ニ對シ當時隱蔽ノ意ナシンハ何ヲ苦シンテ言ヲ左右ニ寄セ結局ニ犯則ヲ自白セル始末書ヲ呈スルヿヲ爲シヤ況シヤ他樽ニ移シタル清酒ハ酒造藏ノ外ナル地ニ送リ他物ヲ以テ之ヲ掩ヒ豫メ之レカ現形ヲ隱匿シアリシニ非スヤ又假令雇人ノ之ヲ爲

シタルモノニシテ營業者ノ自ラ關セサルモノトスルモ既ニ成規ニ違背セシ以上ニ營業主ニ於テ之カ責ヲ免カルヲ得ヘカラス且ツ試ミニ本縣租稅課ニ就テ樹ノ口檢査ナル者ハ一般ノ成規ナルヤ又之レニ依テ稅額ノ確定スヘキモノナル乎及ヒ之ノ檢査ヲ了セシ上ハ販賣若シハ古酒ニ混淆等ナスヲ得ヘキモノナル乎ヲ質問セシニ別紙回答書ノ如ク垂リ酒ノ石數取調ヲ爲スヲ人民ニ於テ樹ノ口檢査ト稱スルモ此レハ之レ本縣限リ適宜取締上ヨリ設ケシモノニシテ一般ノ成規ニ非ス且ツ之レニ依テ其稅額ノ定マルヘキニ非ス又之ヲ了セシトヲ販賣若シハ古酒ト混淆等ヲ爲スヲ得サルモノタルヿヲ辨明セリ左スレハ安藤判事カ樹ノ口檢査ニ依テ稅額ノ定マリシモノ秋毫ノ弊ナシトノ判決ハ頗ル誤謬ノ裁判ナリ矣レ檢査未濟ノ清酒ヲ他樽ニ移シテ之レカ位置ヲ變シ及ヒ之ヲ古酒ニ混合シ檢査ノ際ニ臨テ容易ニ之レカ實情ヲ陳セス遂ニ檢査官ノ爲メニ發見セラレタルハ乃チ檢査ノ際之ヲ隱蔽シテ稅額ヲ免カレンヿヲ豫謀セシ者タルヿ明カナレハ被告次七ハ宜ク酒類稅則第三則第六條ニ依リ處分セサルヲ得ス是ヲ以テ安藤判事ノ裁判ヲ不當ト認メ一件書類及ヒ租稅課ノ回答書相添及上告候也

辨明

關次七カ明治十三年十月十一日酒造檢査官井手忠平ニ差出シタル始末書ヲ閲スルニ左ノ如シ

始末書

私儀兼テ釀酒營業罷在候處今般搾リ器械開披奉願本日御出張ノ上前以御開披相願置タル釀酒搾リ高御檢査ニ相成候處現酒不足相立候旨御尋問ニ相成外ニ賣却御檢査未濟ノ清酒無御座段申張リ候得共昨十二年十二月三十一日垂酒御檢査高ヨリ拾五石八斗計リ不足スル理由御糺ヲ蒙リ何分申開キ難相立ニ付酒造藏ノ脇木屋空桶ノ間ニ四斗樽二十一挺石數凡七石三斗五升ト二十一番桶ニ八石四斗五升古酒ト混合致居候義相違無御座右ハ御立入ノ際直ニ可申上之處無其儀相隱置候樣成行御糺之末相顯レ重々奉恐入候依テ篤ト取調候處右四斗樽ニ詰込タルハ餘ノ儀ニ無御坐全ク木香ヲ付ンカ爲ナリシナレトモ元來御檢印ナキ四斗樽ナレハ片蔭ニ差置シモノニシテ御檢査前ニハ堅ク御定則ノ酒入桶ニ入替置ヘキ筈之處其手數ヲ不仕本日御檢査ノ際ニ及ヒ不体裁之始末ニ立至リ申候尚殘ル八石四斗五升之分ハ畢竟私留守中ニテ杜氏ノ者從來ノ格ヲ以一時ノ不勘辨ニテ古酒ニ混合爲致タル儀明瞭仕彼是重々奉恐入候此段以始末書奉申上候也

右ノ始末書ニ據レハ檢査官出張シ釀酒高不足有之段尋問ヲ受クル處外ニ檢査可受清酒無之旨一旦申張檢査ヲ免カレント爲セシモ遂ニ隱蔽爲シカタキヲ以テ不得止酒造ノ脇木屋空桶ノ間ニ四斗樽二十一挺石數凡七石三斗五升ト二十一番桶ニ八石四斗五升古酒ト混合セシ旨申立其隱蔽セシ事ヲ自認シタルモノトス假令次七カ不在中杜氏一己ノ取計ヲ以テ清酒ヲ氣香附ノ爲ト稱シ四斗樽ニ移シ或ハ古酒ト混淆シタリシモ營業主ナル次七ニ於テ其情ヲ不知トシテ隱蔽ノ責ヲ免ルヽヿヲ得ス且樹ノ口檢査ト稱スル者ハ本縣ニ於テ適宜取締上ヨリ設ケタル者ナレハ之ヲ以テ既ニ檢査ヲ爲シ畢リタルモノト看做スヿヲ得ス左スレハ次七ヲ酒類稅則第三則改正第六條ニ檢査ノ際其造石數ヲ隱蔽シ未タ賣捌カサル者